

## 第十二章 農村の教育理想

### 第一節 農村教育の基調

従來の傾向として農業に關する法令制度の制定、並に改正の行はるゝに際し、又は種々の農政的施設を爲す事に依つて農村振興を達成せんとするに際し、農民教育の上に比較的深き考慮が拂はれなかつた嫌ひがある。農民生活の上に困憊の度が加はるに隨つて、農業の収益を増加することに依つてその急場を逃れんとし、生産經濟上の直接的指導獎勵に没頭したのも無理なきことである。

惟ふに法令制度は民衆の爲めに設けらるゝものである。故に法令制度は民衆がよくこれを遵守し、活用する時に於て始めて能くその効果を發揮し得るものである。「法令制度は死物にしてこれが活用は人にあり」とは、この間の消息を道破したる名句である。故に今後の立憲自治下の農民を養成せんには、先づ品性の向上を圖り、農村社會の要求する實際生活上に缺くべからざる資質能力を養ひ、以つてこの政策に對して積極的に參劃し得る人物を養成することが大切である。換言

すれば農村に住み農業を透して自己の全生命を國家社會に實現して、其の完成に貢献する善良有爲なる農民を養はなくてはならない。然るに従來の農村學校はこの點に於て甚だ遺憾の状態に在つた。即ち農村の普通教育に於ては農業教育は實際經營上極めて軽く取り扱はれ居た。

而して寧ろこれを尊重せる學校あれば、普通教育の正道を脱したるかの如く眺むるの傾向があつた。隨つて普通教育は實際生活と掛離れたものとなり、爲めに教育を受くれば受くる程農村生活を疎じ甚しきはこれを嫌忌するに至つた。これを以つて農村の振興を圖り國家の健全なる發達を期せんには、生産經濟上の指導獎勵に力を致すに止らず、他面農民教育をして益々堅實なる發達を遂げしめ、以て眞に善良有爲なる産業公民を養成しなくてはならない。この根本問題を閑却して、農村の振興を圖らんとするのは、恰も砂上に樓閣を築かんとするよりも尙愚なるものである。

前に述べたる如く農村振興には先づ農民教育の徹底を期しなくてはならない。然るに今日の農村教育は全國的に共通の缺陷を藏して居る。農村の小學校では、



兒童の大部分は卒業後其郷土に在つて農業に従事し、家を修め、郷土の振興に貢献することに依つて國家社會の成員たるの資格を具備するものと言ふべきであるから、其の教育に於ては特に土に親しみ郷土を愛するの信念に燃ゆる思想健全なる人を作らなくてはならない。然るに從來は、農村小學校に於てこの重要な問題を輕視し一坪の實習地すら有せざる學校が少くなかつた。殊に高等普通教育を授け農民大衆の先頭に立たしむべく設立せられた中學校に於ても、極めて少數の學校を除いては全く農業科を課して居ない状態である。かくて、普通教育を受けて農村社會に巢立ち鋤犁を手にすべき青年は、土に親しみ郷土を熱愛するの信念を涵養し、且つ實生活に須要なる知識技能を十分に與ふることを第二義第三義として、單なる普遍的抽象的な主義の下に教育されて居るのである。

言ふまでもなく國民教育の目的は、善良有爲なる國民を養成するを以つて終局の目的とすべきである。善良有爲なる國民とは言ふまでもなく社會運營の或一部分を分擔し其の天職を果すこと、即ち一定の職業を通して自己を社會に實現することに對して眞摯熾烈なる國民である。單なる道德的教養を有する善人たる

に止まらず、尙職業的資質能力を十分に具備する有爲有能の全人でなくてはならない。随つて職業的勤勞は國家社會の成員としての人格の積極的要素である。更に切言すれば今日の社會に於ては、何等の職業をも營むの力なき者は無爲無能の人と云はなくてはならない。随つてかくの如き者は社會組織の一員としての資格無く、又全人としての資格なきことは言ふまでもないことである。この意味に於て人皆各その處を得、職業を得て努力する社會こそ理想の社會であると云はなくてはならない。然るに、農村に住み、農業に従事すべき國民を養成する農村の小學校に於て、農業教育を輕視することは國民教育上の一大缺陷と云はなくてはならない。

米國教育界の泰斗として農村教育の世界的權威と稱せらるる、フォード博士は我が國の農村學校を視察し、その所感を公表して曰く、

日本の農村學校はよく組織されて居る。教育費は潤澤であるとは申されぬ。勿論校舍は最上であるとも申されぬ。然し一般から批評せば宜しいと言ふべきである。然るに彼等の學びつゝある學科内容は、不幸にして概して大都市に



於けるものと大同小異たるに過ぎない。何れも農村生活の問題を握らしむることに缺陷がある様に思ふ。即ち兒童を自然及び環境に接觸せしむる上に於て缺陷がある様に思ふ。學校園の利用法、農業のプロヂエクト、メソッドの適用の如きは、即ち其れである。米國では——小兒を蝗ならしむる必要あり——との諺がある、日本では小兒をして先づ土壤に親ましめ、土壤を理解せしめよと言ふことを高調したい。

寔に幼兒の時代より土に親ましめ青年の時代に於ては土を愛し農業を尊重するの至念を啓培し、やがて成人となるに及んでは田園生活の中に隨喜の泉を發見して自然と一致し融合したる生活を以て無上の歡喜とする人たらしむべく教育することが農村教育の要諦でなくてはならない。先づ大自然の懷に歸れと叫びたい。教育の眞諦を認識せんには、教育が人類の生活に浸透する全的事實であり、隨つて生活の内容の全部が教育である。生活即教育である。これを以て一國民命の根源であり、農民生活その物である處の農業教育こそ農村に於ける國民教育の生命であると云はなくてはならない。世間動ともすれば農業科を尊重する

ことは教育を功利化するものであると論ずるものがある。然し農業本來の性質、農業と我が國家との關係に思を致せばその甚しき謬見たるを知ることが出来る。即ち農業科こそ我が國に於ける農民教育上の重要な使命を帯ぶる教科であると信ずる。何となれば、古來、列聖特に大御心を農業に注がせ給ひ、農を以て國本と爲し給ふたのである。

畏くも、今上陛下に、おかせられては御手づから稻を栽培し給ふと漏れ承る。農業教育を重じ有爲有能の農民を養成し、以て農業を尊重して農村の開發に貢獻せしむることこそ眞に大御心に答へ奉るの道なりと信ずる。近時、農村小學校、實業補習學校等に於て、秋穀田を栽培し、その生産に係る穀物を伊勢神宮、明治神宮等に奉獻するが如き、或は農業祭、豊年祭等の名に於て、職員生徒一同、神前に額突き赤誠を披瀝して感謝奉告するが如き、實に精神教育上、絶大なる價值あることを信ずるものである。加之、農業は、人類生活の資料を生産せんが爲めに、天地の化育に翼賛する業務であるから、大自然の理法は、少しの虚偽なく之を支配する。隨つて農業實習による體驗教育は、勤勉力行、誠實等の諸徳を養ふ上に極めて有力なる教育



方法である。又父兄と共に農業に従事して、その改良を圖り家産の根本に培ふことは孝悌の徳を養ふ所以であり、亦學友互に援助し共同に作業することは親愛協同の諸徳を養ふ所以である。從來精神教育を施すのには、書物によつて理義を説き所謂概念を與ふことに急であつたが、これのみを以つてしては到底、道德教育の目的を達することは出来ない。必ずや勤勞に基きて教授、訓練し以つて精神の核心に觸れ、良心の體驗に訴ふる處がなくてはならない。この意味に於て眞の農業教育は、其の學科の教授に於て、實習の教授に於て國民教育上、極めて重要適切な効果を發揮し得るものである。

## ● 第二節 農村教育の本質

農村教育に於ける農業教育は良農民たるべき資質、能力を與へる生命の教育である。換言すれば、一般教科に依つて教養せられたる概念的の人格に積極的要素を與へること即ち生命を與へるものである。

元來、職業は社會運営を遂ぐるの手段としての社會的目的を有して居る。即ち

社會の幸福を増進する事を目的とする。而してこれと同時に個人の生存をも全へする。これ職業の個人的目的である。今これを農業者に見るに、農業者は衣食住の原料を生産することによつて、國家社會の幸福の源泉となつて居り、他面には自家の生計の道を計つて居る理である。而して勤勞は、この社會的目的と個人的目的との調和を圖る鍵鑰である。勤勞は生存の基礎であり、勤勞なくして生存は有り得ない。若し勤勞なくして生存あるものとすれば、活動なくして生存あることを認めなくてはならない。然るに活動なき生存は、生活なき生活を意味することであつて明白なる撞着である。この論理的關係よりして勤勞は生存の基礎たることを斷定するに憚らない。而して職業の個人的目的たる生存の基礎は實に勤勞であつて、社會的目的たる社會の幸福増進は勤勞の結果物である。即ち勤勞によつて職業兩様の目的は完全に達成せらる可きものである。この意味に於て國家社會は、國民に漏れなく職業の能力を與へなくてはならない。

以上の理由よりして現下の農村教育を眺むれば更に一層、農業教育を尊重して、これが實績を擧げんことに努めなくてはならない。尙一言加ふるを要するは、上



來述ぶる所の勤勞は單なる肉體的勞作に止まるのではない。これに精神的の勞作體驗を合せた觀念であることである。

抑も農業を振興せんには農民に對して、次の如き三大能力を具備せしめなくてはならない。即ち第一は農業に要する知識技能、第二は農業者の具備すべき性格即ち農民精神、第三は農業に關する理論の高能率的運用である。

農業の知識はこれを運用するの技能が伴はなくてはならない。然るにこの學理應用の妙用は高能率的熟練である。即ち動植物と無言の談話を爲す如きである。

農業上に於ける作業の内容を見るに傳統的に傳はり來れる單なる熟練的技術、例へば肥料を擔ぎ馬を牽くが如きは手に得て心これに應ずるの類である。

然るに科學の應用が農業の進歩を促進しつゝある現状に於ては、この科學を修め、更に新しき研究を積み、獨創を加へて以てこれを農業に應用すべき科學的技術の必要が加はるに至つた。この種の技術は心先づ進みて手足これに従ふの類であ

る。例へば作業の上に進歩せる器具機械を應用するに於ては、一應動力學、機械學の知識を有するにあらざれば、到底これに當るを得ないこととなつた。然るに現今の農民は科學的知識に疎く、單なる經驗的知識や技術に頼り、尙甚しきに至つては傳統的勞働の中に没入して、經驗と科學とは相背反するが如くに信じて悟らず、學理の應用に至つてはこれを嫌忌する者さへあるのである。故を以つて、農業教育に於ては實際より理論に入り、經驗より試験に進むが如くして、科學を尊重しこれに依つて改善を加ふるが如き素質を養はなくてはならない。明治以來の教育は西洋諸國の教育を模倣吸收することに急にして獨創工夫の方面に國民を訓練する點に於て缺くる處が甚しかつた。現下社會の各方面の行詰りの原因中にはこの教育的缺陷の與つて因を爲すものあることを否むことは出來ない。これ農村教育者の猛省せざるべからざる點である。而して、農業教育に於ては、農業上の原理原則を知らしむと共にこれを實地に應用するの技能を磨かなくてはならぬ。次に農業經營の特質は已に述べたる如く、宇宙の原則に基き、天地の化育に翼賛して、自然と一體となり、血と汗の貴き努力を大地に打込み、地力の發現を助くる職



業であるから、飽くまで努力奮闘の主義に立たなくてはならない。又一面に於て時代の文化を解し、殊に立憲自治に關する知識と徳操を備へ、自己の職業に覺醒し國民公民としての責務を全くすべきことは既に述べたる所である。この公民的教養は農民精神の重要な要素である。近來都市は著しく發達し、政治、經濟その他百般の淵叢たるかの觀を呈し、且つ人口と富とを盛に農村より吸收しつゝあるの状態である。これ明治以來の政治によつて都市の商工業が賑盛を極めつゝあるのに反し、農村農業のこれに伴はざる所以である。明治以來の國民の努力は、西歐文物の直輸入にして而もこれが模倣であり、且つ著しく理智に偏して人情と環境とに思を致すことが缺けて居た。然るに商工業は事業自體が其の性質上普遍化し易く又理論化し易い、つまり西洋の商工業も、日本の商工業も共通の性質を多分に有し同一理法に基きて營まるゝものである。然るに農業は著しくこれと趣を異にし、土地、氣候の如く人力を以ては容易に變動し難く、又は全然左右する事の出來ない要素を基礎として居る。これ輸入的翻譯的政策が商工業を促進したるに拘らず、農業の其れは著しくこれに遅れしめたる所以である。西洋の農業が養

畜を重んじ、全然畑作であり、大農式であるに反して、我國農業は稻作本位であり、勞力的に集約の小農式であり、技巧的副業を加味する等大に其の趣を異にして居る。更にこれを日本内地に於て觀るも、東北地方の農村生活と九州地方の農村生活とは夫々に特色があり、一地方に於ても山村と平地の農村と海岸農村とは其の生活の内容を大に異してゐる。

それで農業政策は地方々々、更に村々によつて、夫々獨特の郷土化せられた適切なものとして行はれなくてはならぬ。然るにも拘らず、從來は爲政者によつて直輸入的な農業政策により、飽くまで理論的に押し進められて居た。随つて遂に農村の現状を招來し、疲弊因慝に陥らしめたのであらう。

自分のことは自分が一番よく知つてゐる様に農村のことは農村の人々が最もよく知つてゐる。もと／＼政治は國民實生活の幸福を増進するにあるは申す迄もなす。

幸福であるか否かといふことは農民それ自身の感じであつて、決して他人の獨斷し得る限りではない。故に農民生活を幸福ならしむる様な政治が行はれんに



は先づ以つて農民の思想感情がよく政治の上に採り入れられ實生活に即した法制が布かれ、農民がよく之を遵守運用することによつて始めてその目的が達せられるのである故を以つて立憲自治に關する智識と徳操とを涵養することの極めて緊切なることは自から明かである。

要するに法令制度は國家社會の爲めに設けられたるものにして、決して法令制度のために國家社會が存在するものではない。それで天降りのな法令制度に依つて農民及農業を如何様にでも改造し得る如く考ふることは大いなる誤りであり、随つて將來の農村政策は農民實生活の間より萌え出でたもの——農民の健全なる輿論が採り入れられた人間味のあるものでなくてはならぬ。これ農村政策達成の根本條件として農民教育の徹底に務め健全なる輿論の指導者がなくてはならぬ所以である。公民教育が普及して大多數の農民が國家社會の一員としての知識と徳性を具備し、眞摯に職業に従事し政治に參與して新農村生活の創作を企圖する時は、必ずや新らしき農村が建設され田園生活に歡喜の聲が滿つる時であると信ずる。實業補習學校卒業後の教育、所謂大人教育に就いても大に考慮の必要

がある。第一教育の點に就いて觀るも家庭は學校教育と相策應して子弟の教養に努むべきであるが、今日の實狀は果して如何？學校教育の結果は却つて家庭や社會に於て破壊されつつある。尤も卑近なる實例として青年教育の必要を痛感せる父兄幾何かある。否農村の智識階級と見做されてゐる人々にして尙ほ積極的な態度に出づる者が尠いではないか、第二に今日の文化は日に月に進歩しつつある故、常に修養に勉めずんば到底幸福な生活を營むことが出來ない。都會生活が概して農村生活の上位にあるは、結局都會人の教養が農村民のそれに比して優つてゐるからであるとも言ふことが出來る。この意味に於て大人教育を興し宗教、哲學、藝術、社會科學、自然科學、職業等に亘りて、廣く文化の進歩に順應するだけの修養に勵ましめなくてはならぬ。この種の文化運動は、最近勃然として興り來つたのであるが、尙眞に民衆化せざる嫌ひがあり、農村よりは都會に、一般民衆よりは一部智識階級に對して行はれてゐる。これを農村に及ぼし更に老壯年男女に向つても夫々適當に行はるべきものである。かくして村には常に一種の強き教育氣分が充ち滿ちるのである。



### 第三節 農村の教育理想

東西古今の文化史は、人類の文化の程度は其の民族が土壤を如何に取扱つたかと言ふこと、即ち土壤を親愛せし程度如何に依つて定まつて居る。抑々、人類發生より今日に至るまで生活の根本は衣食住の材料を獲得すること、即ち産業、經濟であつたのである。現在及び將來と雖も經濟生活の安定は、一國文化の基礎をなすものであることは論を俟たない處である。而して其の經濟運營の根本は、其の國の土地の生産力を増進して、その利源を開發することに他ならない。この意味に於て、農村の教育は土地親愛、農業尊重の精神を養ふことを以て其の生命であると言ふべきである。夫れ土は生命の郷土である。人は土の生み出せる生命を食ふて生き、死しては再び土に歸る。人類は畢竟土の育くむ愛し子にして、これを離れて人生なく、これを離れた文化はない。土地に親しみ、土地を愛し、土地に執着してこそ眞の人生を體驗し得るのである。故に國家の經營は、國民をして、能く土壤に執着せしめ、又これを開發せしめ、斯くて土の生命をして文化の母たらしめること

を以て其の要諦となすべきである。一坪の校庭も祖國の一片なりと思ふ時、兒童をしてこれに働かしむるは當に祖國愛の體驗である。殊に我が國體と農業の關係に想倒する時、農業教育が如何にその精神教育的價値の著大なるものなるかを知らしめ難くない。

文化の根源が土壤生命力の發現にありとすれば、この任務を擔當する農業者は眞に人類文化の根源に培ふものであり、又人類を養ふ大宗教生活を體顯するものであると言ふも過言ではない。誠に同胞愛、人類愛を基調として働くものであり、随つて農業教育の徹底は郷土精神の涵養、宗教的情操の養成上有力なるものである。こゝに於て農業的體驗教育を尊重し、これを以つて生徒訓練の重要な施設たらしめなくてはならない。

加之我が國は人口に比して土地の面積甚だ狭少にして、食糧供給の將來頗る憂慮に耐えざるものがある。故に食糧問題の解決は現下最も緊急なる國家問題である。

然るに最近各地に實現せられたる農業經營上の新記録を見るに、科學を應用し、



技術を練磨し、工夫を凝して新農法の獨創を爲せば、驚くべき増産と品質の向上とを遂げ得ることを事實の上に證明せらるゝを見る。由來我が國の文明文化は外國を模倣せるもの多く、國民の苦心努力に依つて創作せとれる文明文化は極めて寥々たるものであつた。然るに近時産業、經濟、學問、藝術其他各般の方面に於て、工夫獨創の顯著なる新事實を見るに至りつゝあることは誠に慶賀に耐えざる處である。然るに、かかる新記録が耕種、養畜、養蠶等に表はれつゝあること上述の如くである。今後益々兒童青年に對し、科學的訓練と勤勞を愛し奮闘已まざるの確固たる精神を涵養し、教養を與ふることに努め、以つてこの喜ぶべき新傾向を益々長養し、以つて眞農業の開發と郷土の振興とに貢献せしめなくてはならない。

現今青年の思想を見るに、其の生活に對する信念極めて薄弱にして、確固たる人生觀を缺如するの傾向がある。吾等は兒童青年の教育に於て、我が國體を尊崇し、我が國民道德を踐み、我が國家社會の隆昌を遂ぐるを理想とし、これが實現は現實生活の中に於て爲さざるべからざることを知らしめて、實際生活を直視し且つ體験せしめ、かくて吾等の郷土、吾等の家庭、吾等の業務は、尙幾多改善を爲し創造を加

ふ可き餘地があり、これを成し遂ぐることを以て身を修め、家を齊へ、村を興し、延いては國家の隆昌に貢献し得るものなりとの信念を興へ、郷土生活の中に無限の歡喜を發見せしめ、而して奮闘主義に立ち、これが實現に向つて力行已まざらしめなくてはならない。

凡そ一國の文明文化を二大別すれば、都會の其れと農村の其れとに分たる。さて都會には政治、經濟、學業等、社會百般の事項が蝟集し發展して居る。隨つて都會に於ける社會的、經濟的状態は國家社會の注意を促し、急激なる發達を示しつゝある。然るに、概して其の發達は物質的であつて、文明の發展とも云ふ可きである。これに反して農村は政治、經濟の中心ではなく、又學業、文藝等の發達は到底都會のそれに比較すべくもない。然し農村には都市に於て見るべからざる文化の存在するものである。「生活は教育なり」と、ベスタロッチ氏の謂ひし如く、農民の生活は些の虚疑なき自然の法則に順つて天地の化育に翼賛し、これと一體となつて力行竭まない生活をつゞけてゐる爲に生活によつて教育され鍛鍊せられて、自らは誠實にして身體強健、我が國民性の生粹なるものを傳承し維持して、農村獨得の文



化を保有してゐる。この農村文化は都市文明と渾然一體となつて一國文化を形造るのである。

加之農村は農民の健全なる血液を都會に送り市民の體位を維持し向上して都市文化の根源に培ふのである。而して其の生産する物資は國民生活の根基を爲し、その多少は忽ち國家社會の運命に影響するものである。故を以て都會と農村は各其の長所を發揮して、恰も鳥の兩翼、車の兩輪の如く相並立し、國家社會の安寧と進展とを遂げしむるものである。

さてこの意味に於て農村文化の進歩發展を遂げしめ農村をして都會と相提携、相併進せしめんには上述の如く法政的、經濟的の施設を改善充實するの必要がある。これと同時に社會活動、文化建設の根源とも云ふべき思想の健全なる發展を遂げしめることが必要である。而してこの思想の開發を爲さんには先づ第一に農民思想の現状とその特質とを知悉しなくてはならない。抑々農民は自然を相手とし、自然の懷に於て天地の化育に翼賛するものである。随つて農民の間には長年月に亘つて都會人に見るべからざる独自の民性を生ずるに至つたのである。

その具體的事例は第一編第一章に於て述べたる特殊なる郷土精神である。故を以つて農業に親しみ、自然と一體たる生活を爲す農業者は自ら誠實にして敬虔の念厚く、勤勉利用の心に富むこととなりこの處に独自の民性を建設し傳統的精神として、今日まで傳はり來つてゐるのである。閑靜にして平和なる農村の生活は、競争、闘争の激甚なる都會生活に比すれば極めて保守的の性格を帶ばしめ易く、自然に積極改造を忌み、消極退嬰に安住するに至らしめた。然るにこの農業者の社會觀、人性觀は昔時のまゝに維持することは甚だ困難なこととなつた。即ち、學藝の進歩、交通の發達、教育の普及等によりその自覺を促し、從來の社會觀を脱して、農村の國家的社會的地位を認識してこれが向上進展を要望するに至りつゝある。翻つて我が國現時の思想界を見るに、眞に憂ふ可きものが尠くない。例へば宗教理想を顧みざる唯物主義、個人主義が彌漫して、人間性を失ひたる各種の爭議醜き修羅場が展開しつゝある。かの都會勞働爭議の如きは其の一例であるが、今や其れが農民に傳染して、小作爭議其他種々の農村問題を惹起するに至つて居る。今後農民の社會生活の推移を考察するに過去及現在に於ては概して小數の指



導者に導かれて、國民的社會的生活を爲して來たのであるが、將來最も必要なるは國民大衆の正しく透徹せる自覺に基き建設せられる國民的文化でなくてはならない。今や時勢はこの過程を辿つて回轉しつゝある。然るに國民一般の知徳の水準線が依然として現状に止まり、然も國家生活社會生活の中心が時勢の潮流に漂はされてこれ等の民衆に轉じた場合を思へば眞に寒心に堪えざるものがあるかくの如くして、民衆化したる文化は文化の墮落である。この時勢の趨向を捕捉すると共に之に順應する所置を誤つてはならない。此處に於てか、國民の國家生活、社會生活の眞意義を悟らしめ、社會生活の各方面に於て協同生活に對する強き信念の下に社會的正義を把持して力行已まざらしめんことを痛感する。農村の文化建設には、各種組合團體の向上教化施設の擴充、自治の刷新等幾多の問題があるが、何れも如上の思想問題の解決に依つて遂げ得らるゝものである。

農民の有する特殊の思想傾向は、一定の土地に定住し土地を基礎として動植物を育成するが故に郷土を愛するの念強く、従つて愛國心の熱烈なることである。即ち、忠君愛國の至情に富み、又誠實、勤勉、忍耐の諸徳を具へて居る。又農民は日常

必需品を自ら生産するが故に、獨立自治の精神に富み自然の化育に翼賛して現在の生活に安住するの性質を持ち概して保守的で、政治思想は中正を保ち、殊に業務上自然の制裁を受け自然を友とする故に質朴である。

凡そ古今東西の歴史に徴するに農を以つて經國の根本となし、農村の興隆に力を致した國家は必ず繁榮して居るが、これに反して農村を顧みなかつた國家は必ず衰滅に歸して居る。要するに農民は國民中の健全分子であり、而して國民元氣の中心である。而して健全なる文化建設者として重要な役割を演ずべき者である。



## 第二編 農村小學校の經營

### 第一章 農村小學校の使命

#### 第一節 農村の小學校教育

##### 第一項 農村文化の基礎

農村文化建設の根本問題は、その村人をして郷土に愛着して熱心に職業に従事し共存共榮以つて自治生活の濟美を期し精進して已まざらしむるにあるのである。近年農村青年の間に嫌農思想瀰漫せんとし、亦農家經濟の不況、各種爭議の頻發等不祥なる傾向あることは邦家の爲めに憂慮に耐えざる處である。今にして文化建設の方途を講究樹立してこれを斷行するに非ずんば、噬臍の悔遠きにあらざるを憂ふるものである。

さて、この頽勢を挽回して新しき農村文化を建設せんには、土に親しみ郷土を愛して農業農村の興隆に精進する熱烈にして奮闘力ある村民を養成しなくてはな

らない。而してこれが方法多々ありと雖も先づ第一に小學校教育の方法を改善して兒童の個性を尊重し、郷土に立脚したる教育を施すべきであると信ずる。

而して小學教育改善の方針を定めんには先づ以つて今後の農民は如何なる資質能力を具備せざるべからざるやを知らなくてはならない。新時代の農民の具備すべき條件を知らんには、其の前提として農村文化の本質を明にするを要する。

抑々文化農村は熱烈なる郷土愛に燃ゆる農民に依つて、農業は興隆し經濟は充實し、而も其の生産品は農民の生命力の結晶であり藝術品でなければならぬ。農業生産品は譬へ米粒と雖もこれを構成する因子は化學的分析に依つて證明し得る元素のみと考ふべきではない。何となれば米粒は天然要素の外に生産者たる農民の勤勞と文化的因子とが多分に加はつて始めて産出せられたものであるからである。この文化的因子とは國民の科學的知識、道德、宗教の如き精神内容と各種共同組合、團體教育的機關官廳等法令制度によつて成立し活動する諸種の國家的社會的機關の力とである。

故を以て農家の經濟を充實せんには、農民の公民的、道德的、科學的教養を高めて



産業組合畜産組合森林組合農會その他諸組合團體を振興せしめてその機能を十分に發揮せしむると共に他面に於ては農業經營の方法を改善し収益を増進し且つ日常生活上の冗費を省き以て經濟生活全體を合理化することに力を注がなくてはならない。又農村財政の基礎を固むる爲めには上述農家の經濟を充實せしむると共に植林開墾貯蓄等により基本財産の造成に努むべきである。これと同時に健全なる精神は健全なる身體に宿るの格言の如く、健全なる文化は民衆體位の優れたる社會に宿るものであるから、農民體位の向上を圖ることは實に文化建設の基礎事業である。されば民衆に對して衛生體育の思想を鼓吹し病院を設置し、其他各種傳染病の豫防驅除に關する設備の完成飲料水の改良等消極的衛生施設の充實に力めると共に、老幼男女及職業別に各適當にして然も極めて民衆化せる簡易なる體育を奨励し普及せしめ、或は又營養的研究を進めて食物の合理化を圖らなくてはならない。例へば海濱の蔬菜に乏しき地方は肉食に偏し、山村に於ては概して菜食に偏して居る。故を以て何れも、村民經濟上に缺陷あり、身體の發育良好ならず、且つこれが諸種の内臟疾患の原因となることもある。これ等營養

上の問題並に各種傳染病の問題を解決する上に看過すべからざるは臺所である。臺所の文化的改善は漸次世人の重視する所となり、今後社會の新運動たらんとして居る。これ寔に當然の現象であり、喜ばしい傾向である。

又農村文化の基礎建設の一方面として、小規模の發電に依り燈光、動力の供給及び水道、公設市場、同浴場、同質屋を設置して、産業及び家計上の合理化を圖るも肝要なことである。かくの如くにして農村生活の物質的向上を圖り文化の基礎建設を爲すと共に更に進んで上段建設即ち精神的建設を圖らなくてはならない。

## 第二項 農村の精神文化

前に述べたる如くにして、農民體位の向上を圖り、農村の財政、農家の經濟を充實して、此處に文化生活の基礎成る時は、進んで精神文化の建設を圖らなくてはならない。精神文化の建設は、家庭教育、小學教育、青年教育、成人教育、圖書館、農村教育網の完成、一般中等教育の堅實なる發展等によつて、農民品性の向上を圖るを要する。さて農村教育の擴充を圖らんには先づ其の前提として文化農村を構成すべき新時代の農民は如何なる條件を具備すべきやを明かにしなければならぬ。



抑々我國農民の具備すべき要件は日本國民として具ふべき一般的教養は勿論なるも、特に左の諸件は不可缺のものであると信ずる

一、職業の中で國家的、社會的に最も尊貴なる農業に従事することを、文化國民の名譽とあり本懐であると自覺せる人たること

二、農業に對して深奥なる趣味を有し、従つて田舎を愛し、郷土の開発に對して眞摯、熱烈なる態度を持つる人たること

三、社會的正義の觀念に燃え、共存同榮の念に富む人たること

四、質實剛健の氣象に富み、而も勤勉力行の人たること

五、堅忍持久の力に富みたる奮闘主義の人たること

六、秩序を重んじ規律節制を尊ぶの人たること

以上の項目は逐一これが説明を要せざるべきを以て其の一二に就きて要説せん。農業は國家的にも社會的にも極めて尊貴なる職業なることは、理論に於ては何人も共鳴する所であらうが、然し乍ら事實に於ては泥土にまみれ、汗を流して働くことは決して容易の業ではない。然るに、農事の改良に力めて其の效果の認む

べきものあるを體驗し、意識する時は樂自ら其中より湧出して、此處に無限の歡喜を發見するのである。斯くてこそ始めて眞の尊農者たるに至るであらう。

### 第三項 農村の小學教育

如何なる山村に入るも、亦如何なる漁村を訪れるも、一際目立つて美しき堂々たる現代式建築は小學校である。小學校は只に建築に於て現代味を帯びて居るのみでなく、教育の内容其自身が新時代の國民を養成するものである。随つて學校教育は實に次代の社會や國家を建設する重要使命を帯びたるものであるから、其の經營方針には些の過誤をも許さない。熟々考ふるに兒童期に於ける精神的感化は、生涯を通じて魂から脱け去ることなく人の生涯の運命を左右するものである。故に兒童青年に對しては、土に親しみ郷土を愛するの精神と工夫創作の能力とを涵養し、勤勞を愛するの習性を啓培することは、やがて次代の國民をして農村の獨創的文化を建設せしむる所以である。既に前編に於ても述べたる如く、一國文化は都市及び農村の文化より成りたる兩脚文化でなくてはならない。農村文化建設の基礎たるべきものは當に小學校の教育である。而して、斯かる使命に應



ずる小學校の經營法は學校をして十二分に農村的色彩を帶ばしめ、而して其校風を理想の農村家庭の如くあらしめるにある。農村的色彩を帶ばしめんには先づ學校長自らが鋤を取つて立ち職員一同これに和して兒童青年を導かねばならぬ。斯かる校風の一度確立せらるゝや學校は恰も理想の農村家庭の如く其の校風は校庭の一木一石にも表現さるゝことゝなるであらう。眞に教育の目的を達するの根本義は校風の確立である。醇美なる校風なくしては其の教授も訓練も到底十分なる効果を收め難い。故に校風を尊重することは眞に學校教育上の要件である。而して農村文化の根本力は斯くの如き校風の下に感化せられ、建設せられたる精神である。この意味に於て、農村小學校の農村化は單に將來農民たるべき兒童のみならず、將來官吏或は商工業者其他社會の各方面に活動すべき農村兒童の爲めにも必須なる教育方針であると信ずるのである。

以上の意味に於て農村小學校教育に郷土的特色を附することは決して單なる職業教育の意味ではなく、人格の積極的教養を與へ、日本國民としての魂を與へるものである。故に農村小學校の郷土化、農村化は農村學校教育に對して生命を賦與

する所の不易の眞理である。

## 第二節 農村小學校に於ける農業科の地位

國民教育は言葉の上に於ても種々に解釋され亦その觀點の相違によつても種々の意味に解釋されるのであるが、然し小學校令第一條に規定せる小學校教育なる言葉は、被教育者たる兒童をして日本國民たらしむるの主義方針により教育する事を意味して居る。換言すれば兒童に日本國民としての魂を打込み、以つて眞の日本國民を作り上げることの意味するのである。而して、この目標たる日本國民とはこれを徹底的具體的に表明すれば、何々縣何々郡何々村何々家の何某を完成することである。この意味に於て國民教育は、兒童の個性を尊重し、これに立脚して施すべく、亦其の環境を背景として地方化したる教育を施さねばならぬ。而して亦前述の如く個性を尊重すると共に、その個性に最も適應する職業的教養の基礎を確立し、此處に始めて國家の一員としての資格備はり日本國民として生命づけられるのである。若しこれを誤つてその個性、その環境、その將來の職業を閑



却して教育する時は極めて劃一にして概念的な教育を施すこととなる。この概念的、抽象的國民教育の不可なる所以は明治以來の教育の事實が有辯に物語つて居るのである。

木を作らむとすれば、梅、松、櫻、それらの種子を播かなくてはならない。松には松の生命あり、梅には梅の生命あり、梨、桃、櫻各独自の生命がある。故に其の各々の種子を播いてこそ具體的樹木を生立たしむる所以である。然るにそれ等何れの種子をも播かずして樹を作らんとするは、これ即ち概念に捉はれたものであつて、其實をとげることは出来ない。國民教育も亦これと同一轍であつて、從來の教育は抽象的、全人を作らんとすることを叫んで、眞に日本人たるの全人を作ることには徹底せず、抽象的概念的に全人教育を施して居た。惟ふに日本國民としての特色は、先づ政治的一團體として之を見る時は、國家の體様である處の國體として表はれて居るのである。而して亦これを文化の一團體として見る時は、言語、風俗、習慣、思想、感情等の上に特色が認められるのである。随つて兒童をして日本國民たらしむることは、言語、風俗、習慣、思想、感情等をば國民的に特色付けしめ、亦進んで我が

國體に合致せしむべく、人格を完成し、而して亦立憲政體の要求に適合する資格を與ふる様に教育しなければならぬ。斯くして始めて我が國の國體の特色を發揮するに至るべく、以つて國民教育の目的を達し得るものである。故を以て國民教育を極めて平易通俗的に説明すれば、白紙の如き兒童をして日本國民たらしむる運動である。随つて修身、國語、歴史其他總ての教科目を授ける場合に於ては、以上の趣旨を以つてしななければならない。

然るに、かかる教育運動を徹底せしめんには、机上の書物教授、口頭上の教授等によつて概念の構成、知識の詰込を以てするのでは到底眞の日本人たらしむることは出来ない。此處に吾等は、兒童の環境と個性とに立脚して眞に有爲なる個人、眞に有爲なる村民を作り、而して始めて眞に有爲なる日本國民を作り得るのである。農村に住みて農業に従事する者は、其の全人格を農業に傾倒し之を透して社會國家に實現する人にして始めて眞に國家社會の一員たる資格ある者である。而して此の性格を養はんには、農業教育の徹底を圖らなくてはならない。嘗て文部省の發したる訓令の中に、



一高等小學校ノ目的ハ義務教育ヲ終リタル兒童ニ對シ更ニ進ミタル普通教育ヲ施シ國民道德ヲ涵養スルト共ニ生活ニ必須ナル知識技能ヲ授ケ卒業後各種ノ業律ニ従事スルニ適切ナル性格ヲ得シムルニアリ」とある如く

農村の兒童には農村生活に必要な知識技能を授け、將來農業に従事するに一層適切なる性格を得しめなければならない。而してこの性格を與へんには、高等小學校に至つて始めてこれを授くることは既に遲きの感がある。宜しく尋常一學年の時から學校園地の一片をなりと、或は植木鉢の一個をなりと與へ、これに草花蔬菜等の植物を栽培せしめて、早くより土に親しましめ、祖國の一片を愛し天地の化育に翼賛せんとするの精神を養ひ、以つて農民的性格の素地を培はなくてはならない。かくの如き施設は、やがて兒童に對して、一輪の花、一株の野菜を作り出さすの樂を體驗せしめて、早くも七、八歳の時より農村的感化、職業的陶冶を施し得る理である。

漸く物心付きたる兒童が日常の遊びに、土を掘り、草木を植えて楽しむの事實は、環境を尊重するこの農業的陶冶が當然、尋常一學年より施さるべきものなること

を證して餘あるのである。以上述べたる農民的性格の陶冶は、應て郷土に親しみを深くし郷土を愛し、進んでこれが開發を圖るの念慮を啓培することとなる。斯くの如く郷土を愛するの念、熾烈なるは、即ち國を愛するの念、熾烈なる所以である。故を以て農業科は實に祖國愛、人類愛の養成上、重要な教科目であるのである。國家はこの重要な農業教育の徹底を圖らむが爲めに、高等小學校の實業科目を尊重しその教育をして一層實際生活に即せしむるには、教授時數を増加するの必要あることを認めて大正十五年小學校令及同施行規則に改正を加へこれに就て文部省令を發布したるが、要旨並に施行上の注意事項は次の如くである。

前略

近來國民好學心ニ伴ヒテ尋常小學校卒業者ノ高等小學校ニ入學スル者年々其數ヲ増加シ最近ノ統計ニテハ其ノ歩合百分ノ五十五ニ達スルノ情況ナリ。亦以テ高等小學校カ教育制度上重要ナル地位ヲ占ムルヲ知ルニ足ラム。隨ツテ其ノ制度ヲ改善シテ之カ充實ヲ圖ルコトハ眞ニ當今ノ急務ト謂ハサルヘカラス。今尙之ヲ實現シ得サルヲ遺憾トスレトモ高等小學校制度ヲ改善シ地方ノ事情ニ適切ナル教育ヲ施スニ至ラハ今後一戸當リノ入學者ヲ收容スルコトヲ得義務教育延長實施ノ時期ヲ促進シ更ニ圓滑ニ之カ實施ヲ期スルコトヲ得ヘシ又彼ノ相競フテ中等學校ノ門ニ走り而モ半途ニシテ退學セサルヲ得サルカ如キ者ヲシテ初ヨリ安ンシテ高等小學校ニ來リ



學ハシメ中等學校入學難ノ弊ヲ救済スルノ一助タラシムルヲ得ヘシ。

高等小學校ノ教科目ニ關シテ從來ノ必修科目ノ外ニ圖畫手工及實業ヲ加ヘ女兒ニ對シテハ裁縫ノ外ニ別ニ家事ヲ必修セシメ且手工ニ於テ簡易ナル程度ノ手藝ヲ課スルコトトセリ。蓋シ高等小學校ノ兒童ハ先卒業ノ後多クハ社會ノ實務ニ從事スヘキモノナルヲ以テ其ノ教育ノ内容ヲシテ實際社會ニ一層適切ナラシメンコトヲ期シ以上ノ改正ヲ施シタルナリ。

(中略)

實業ハ農業商業工業ノ一科目又ハ數ケ目トシ其數科目ヲ置キタル場合ニハ兒童ヲシテ其ノ内一科目ヲ選擇セシムルヲ原則トス。然レトモ土地ノ情況ニヨリ實業ノ或科目ヲ課スル際適宜他科目ノ教材ヲ加味シテ教授スルハ固ヨリ之ヲ認ムル處ニシテ以テ教材劃一ノ弊ニ陷ラサシムムコトヲ期セリ。尙手工ノ教授内容ハ往々ニシテ工業ニ於テ課スル處ト趣ヲ同シフスル場合アルヘキヲ以テ工業ヲ學習スル兒童ニ對シテハ手工ヲ課セサルヲ得シメタリ。而シテ今回ノ改正カ高等小學校ニ於テ實業ヲ必修科目トシテ實際生活ニ適切ナル教育ヲ施スコトヲ主眼トシタルニ拘ラス特別ノ事情アル場合ニ限リ縣知事ノ認可ヲ受ケ實業ヲ隨意科目トスルコトヲ認メタリ。但シコノ場合ニ於テハ實業ヲ實習セサル兒童ニ對シテ每週教授時數ヲ他教科目ニ配當シテ之ヲ教授セシメ及ブ限リ教育ノ効果ヲ減殺セサルムコトヲ期セリ。(中略)

今回改正カ高等小學校ノ教育ヲシテ實際生活ニ適切ナラシメンコトニカメタルコト前述ノ如シト雖モ高等小學校ハヨリ普通教育ヲ施スコトヲ本義トスルモノニシテ尋常小學校ニ於ケルヨリモ一層進ミタル程度ニ於テ道德教育及國民教育ニ力ヲ盡ス必キアリ、此レヲ以テ修身及國史ノ教授ニ最善ノ道ヲ講シ兒童ノ徳性ヲ涵養シ國家觀念ヲ鞏固ナラシムルト同時ニ公民的陶冶ニモ

深ク意ヲ用ヒテ立憲政治ノ精神ヲ體得セシメ殊ニ普通選舉實施ノ際等ニ處スルノ道ヲ誤ラサラシムム事ヲ期スヘキナリ。(中略)

其ノ教材モ亦複雜ノ度ヲ如フルヲ以テ教員ヲ人格的感化ト共ニ教科目教授ノ徹底ヲ圖ラムトスルニハ教員ノ配當上教科目擔任制ヲ加味スルヲ必要トスルヲ認メサルヲ得ス之レ教員ノ配當ニ關シ前記ノ改正ヲ施シタル所以ナリ。昨年ノ改正ニ係ル師範學校專文科ニ於テハ各生徒ヲシテ共通ニ學習セシメル學科目ヲ加ヘタルヲ以テ其ノ卒業生カ欲スル處ニ從ヒ教授ノ任ニ當ルハ最モ希望スヘキ處ナリ。

以上を以て如何に國家が農村小學校に於て農業教育を尊重すべきことを要望せるかを窺ふに足る。

### 第三節 農業科と他教科との關係

#### 第一項 修身科との關係

修身科は道德的知識の傳達に過ぎない場合に於て、之は單なる口頭禪であると云ふべきである。故に該科は兒童生徒の生活事實の全的體驗であるべきであり、兒童の學ぶあらゆる教科目を通じて修身ならざるはない。以下特に農業科が道德教育を眞に徹底する上に於て缺くべからざる教科目たることを高調せんとす



るものである。

惟ふに、農は古來、列聖國本として特に大御心を注がせ給ふた處である。畏れ多くも、今上陛下は御手づから稻を栽培し給ふと漏れ承る。抑々農業は人類生活の資料を生産せんが爲め天地の化育に翼賛し動植物を撫育する業務であるから、大自然の理法は些の虚偽なくこれを支配するのである。随つてこれに親みこれと一體となりて働く農業者は、自ら誠實にして敬虔の念に厚く勤勉利用の心に富むものである。農業科は斯かる貴重なる業務に關する教科目であるから、その眼目は、教育勅話の御趣旨に基き兒童の徳性を涵養し道徳の實踐を指導するを要旨とする修身科と自ら到達點を一にするのである。故に修身科に於て教授する忠君愛國、孝悌親愛、勤儉、信實等の諸徳目と連繫を保ち、體驗に基いて適切なる施設を講じ、主要なる訓練施設としてこれを勵行し徹底せしむべきである。

如上の意味に於て都市小學校に於ても農業的作業教育の必要を認めるものであるが、農業を以つて立つ農村の小學校に於ては、特に農業的作業を中心とする道徳教育を重視するの必要を痛感するものである。

## 第二項 國語科との關係

國語科は國民生活に必須なる日常須知の文字及び普通文の讀方綴方等を授くるを以つて本旨とするのであるから、勉めて農業に關する材料を多からしめて、田園趣味を長養しなくてはならぬ。而してこれが爲めには教材を農村化し生活化せしむべきである。かくて兩科の聯絡は愈々緊密の度を加へ教育の效果亦加はるべきである。即ち田園の生活並に風趣を叙述せしめ、亦之を味はしむることを忘れてはならぬ。かくの如く國語科は農業科と聯絡し農村化することにより、始めて實際生活に即し兒童精神界の琴線に觸れたる教育たり得るのである。一方農業科に於ても國語科に於て授けられたる知識を活用して、始めて好く教授の効果を收めることが出来る。尙田園文學の趣味を鼓吹して汗の勞働をも藝術化して情味溢るゝ精神生活を創造せしむる様導かねばならない。

## 第三項 算術科との關係

算術科教授の要旨は、日常の計算に習熟せしめ生活上必須なる知識を與へ、兼ねて思考を精確ならしむるにある。されば問題は主として農村及び農業上に材料



を求め、兒童の環境及び生活に適合せしめなければならぬ。教授の要旨に「日常の計算に習熟せしめ生活上必須なる知識を與へ」とあるに拘らず、從來は教授者がこの點に深き考慮を拂はないで、都市農村劃一的な教材を以つて教授せるやの嫌ひがある。

農業は經濟的事實であるが故に、耕種、養畜、養蠶、林業、農産製造等の經營、土地の丈量、産業組合、農業倉庫の如き、何れも算術簿記の好材料たらざるはない。而してこれ等のものより問題を採り來るときは、經濟觀念の養成に資する處大なるべく、殊に我が國農民の最も短所とする計數的觀念、經營的才能を養ふ上に効果大なるものあるを覺ゆるのである。

彼の實際生活に極めて關係薄き問題や、又は農村に於ては恐らく全生涯に亘つて關係なく特に都市生活に關係深き問題を選択しながら、前述の如き切實なる問題を棄て、顧みざるが如きは決して吾人の與し得ざる處である。

#### 第四項 國史科との關係

國史科は我が國建國の大勢、皇統の無窮、歷代天皇の盛業、忠良賢哲の事蹟、國民

の武勇、文化の由來、外國との關係等の大様を授け以つて、國體の尊嚴を知らしめ國民たるの志操を養ふを以つて要旨とする。然るに開闢以來、農業が我が國及び我が民族の發展と如何に密接なる關係あるものなるかは歴史の明證する處である。殊に上古の歴史は農政に關係深き政治的歴史であり、民族發展の歴史は即ち農村發展の歴史であるから、農村に住む兒童は農業國民たるの自覺を以つて自重自愛農村の發展に盡し、延いては國家の興隆に貢献し以つて、陛下の大御心に添ひ奉らなくてはならぬ。故を以つて農業科によつて養はるゝ誠實勤勉なる思想は、益々之を鞏固にし民族的精神を涵養することも出来るのである。又郷土の歴史には農政に力を致したる明君碩學僧侶等があり、又明治以來の産業革新の時代に於て郷土農業の爲めに功績を樹てたる先覺の事蹟を知らしめ、以つて該科の要旨を徹底すると共に兒童をして感奮興起、郷土の開發に當らんとするの信念を堅からしむることが出来る。單に英雄の事蹟や過去の文化を教えるのみでなく、我が國古代文化は、まほみたからたる農業者の建設に係るものであつてこれが幾千年の歲月を経て終に今日の盛美をなすに至つた所以を反復理解せしめて、今日の農民



も其の環境と職業とより來る特色ある新文化を創造してこれを後代に傳へざるべからずとの信念を養はなければならぬ。

#### 第五項 地理科との關係

現今我が國民の衣食住に用ふる材料は外國品の輸入に俟つものが少なくない。従つて國民の農業生活は、世界經濟の影響を受くることが甚だしい。又一地方の産業經濟は國內他地方の産業經濟と密接不可離の關係を持つて居る。殊にこれ等の關係は最近まで自給自足の孤家經濟に閉籠つて居た農業經營に於て、一段敏感に影響するものである。故に農業科は地理科と深き關係を保ちて教授する處がなくてはならない。小學校令施行規則第十三條に

農業ヲ授クルニハ特ニ地理科等ノ教授事項ト關聯シ時々其ノ土地實際ノ業務ニ就キテ示教シ其ノ智識ヲ確實ナラシムコトヲ務ムヘシ

とある。地理科の要旨は

「地理ハ地球ノ表面及人類生活ノ狀態ニ關スル智識ノ一般ヲ得シメ又本邦國勢ノ大様ヲ理解セシメ兼テ愛國心ノ養成ニ資スルヲ以テ要旨トス」

とあるから地勢氣候交通産物の大要より進みては本邦の政治經濟との狀態並に

外國に對する地位の大様等を授くることとなつて居る。地理的自然の事情は直ちに人情風俗に影響しこれに生育する生物の種類、生育狀況等に影響し、更に又交通、運搬、商業的取引等に及ぼす所著大であるから、農業經營上に密接の關係あるものである。

普通農村に栽培する小麥に就いて見るも國內産額を以てしては到底其の需要を充し得ないので、年々北米合衆國よりの輸入によつて不足を補つて居る状態である。随つて輸入小麥の價格は全國小麥栽培面積を左右する状態である。かかる産業地理的の知識を與ふることによつても、今日の農業經濟が世界經濟の波濤の上に漂へることを覺らしめ農業經營改善の必要を知らしむることが出来るのである。其他衣食住の材料として諸外國より輸入する物質は驚くべき金額に達し、其の種類又多數であつてこれを知らしむることに依つて國內農業の國民を養ふに足らざるに喫驚せしめ益々斯業開發を圖るの必要を痛感せしめ、農業科と相俟つて祖國愛に基く熱烈なる尊農心を養成し得るのである。

#### 第六項 理科との關係



理科は通常の天然物及び自然の現象に関する知識の一般を得しめ、その相互及び人性に對する關係の大様を理解せしめ、兼ねて觀察を精密にし自然を愛する心を養ふを以て要旨とする。農業科も自然科学と深き關係ある研究を爲すものであるから、實にこの兩科目は互に密接の關係を有するのである。何となれば農業科は理科の知識を基礎とし、これを應用したる教科目であつて農業科教授の効果は理科的知識の深淺によつて支配されること尠くない。例へば高等小學第二學年に於て下肥の教授を爲すに當つて、先づ既授の理科的知識を基礎として學習せしめんとすれば。

#### 理科的智識

- 一、食物動植物質の消化吸収
- 二、體力消耗と尿
- 三、バクテリアの存在  
食鹽の含有はこれがバクテリアの繁殖  
及腐敗分解作用との關係が深いこと
- 四、アムモニヤの性質

#### 農業的智識

- 肥料成分の量
- 一、食物の種類と成分
  - 二、年齢の差と肥効
  - 三、下肥の貯藏上稀釋の必要  
(腐敗促進)
  - 四、肥溜の構造、木灰、石灰、石灰窒素を加へざる

#### 五、植物根の吸収作用(滲透作用)

右は農業科の學習を爲さしめるに當つて理科の既知觀念を基礎として下肥の成分並に其の取扱法を理解せしめんとする場合の一例となすものである。先づ其の一は食物の種類が動物質の場合に於ては肥料の成分に於て窒素及磷酸に富み植物質の多き場合に於ては概ね加里に富むも窒素に乏しい。又排泄物は呼吸作用の結果血液中の老廢物が腎臓にて尿となり體外に排泄せられたものであるから、尿素尿酸等の如き含窒素有機物を含んで居るが老人に於ては窒素分多く幼年者に於ては體量増加するが爲めに、自然含窒素物たる蛋白質が體内に蓄積せられるので、尿中には窒素分が乏しいと云ふが如くに理科的智識を基礎として下肥に関する學理並に其の實際施用法を授けるのである。其の他は右表に依つて類推することが出来る。

一方理科は亦農業教授の助によつて始めて其の應用的方面の教授を完成し得るものが少くない。

#### 五、農度(作物の種類及發育程度)

こと水にて稀釋し揮發を防ぐ



### 第七項 體操科との關係

體操科は四肢の動作を機敏ならしめ、全身の健康を保護増進し精神を快活にし剛毅ならしめ兼ねて規律を守り協同を尊ぶの習慣を養ふを以つて要とする農業科に於て行ふ實習教授は、これと目的を同じくする點がある。即ち實習作業は四肢の動作を必要とし、然も流汗力作を爲すを以て全身の健康を増進し質實剛健の氣風を養ふ上に効果著大なるのみならず、その作業は協同的に行ふこと多く従つて協同を尊ぶ習慣を養ふを得るのみならず、農業は其の性質上時を守るべきものであり、又剪定、整枝、植付、播種加工等の如き規律を守る習性を養ふ上に効果著大なる作業もある。尙又農業的作業は其の性質上身體の活動が或一部に偏する傾がある。故に農業實習の直後に於てもこれを矯正して身體各部を均齊に發育せしむべく、短時間適當の體操を爲さしめ卒業後農業に従事せる後と雖も引續きこれを實行するの習慣を養ふが如きは大切なことである。余は近時行はる、ラヂオ體操が民衆化しつつある如く農民も早朝簡易なる體操を爲して、又休業時間及び作業終了して鍬を洗ふや簡易にして適切なる體操を爲すが如きは極めて必要なる

ことであると信ずる。亦古來農村に特有なる體育競技として行はれた俵擔ぎ、石擔ぎ、俵裝、競犁等の如き農民的體育競技をも適宜獎勵するが如きも今後十分に考究を要すること、信ずるのである。

### 第八項 圖畫科との關係

圖畫は通常の形體を觀取し、正しくこれを描くの能を得しめ、兼ねて美觀を養ふを以て要旨とす。而して圖畫を授くるには、他の教科目にて授けたる物體及兒童の日常目撃せる物體につきこれを描かしむ、兼ねて綿密を尙ぶ習慣を養ふ點に特に注意を拂ふべきである。故に農村小學校に於ては田園の風景、農業生産品、農業手工品、農業に關係深き動植物等を畫題として描かしむるは極めて有意義のことである。又斯くの如くして美觀を養成することは、やがて農村生活の愛好となり農業の藝術化への基礎訓練ともなるのである。

### 第九項 唱歌科との關係

唱歌は平易なる歌曲を唱ふるを得しめ、仍つて以つて美觀を得しめ、徳性の涵養に資するを目的とする。歌詞及歌曲の雅正なるものは、兒童の心情を快活、純美な



らしむるものである。農村小學校に於ける唱歌は、其の材料をなる可く田園を讚美し、田園の風光に關するもの、及び農業に關するものを採り、その純美悠暢なる情趣を歌へるものが少なくないが、更により多く田園趣味、田園の情調を叙したるものを選択することが肝要である。尙農業の作業の間々も呼唱し得る唱歌の適當なるものを選択するが如きは、農村藝術の高調されんとする今日兒童教育上考慮すべき問題である。彼の鄙猥な俗謡に代ふるに、之等の田園趣味や、純朴にして悠暢な、田園情調を歌へるものを以つてするなれば、農村の生活に裕を加へ、風俗を改善し、氣品を高むる等所謂農村生活の藝術化に影響する處著大であると信ずる。小學校兒童をして斯くの如き題材の下に、斯くの如き唱歌の教授を爲しやがて青年となりたる場合は、この基礎の上に一層高き趣味を長養することを得、随つて彼等の農業生活をして美化し、淨化せしむるに至るであらう。

#### 第十項 實業科との關係

小學校に於ける農業科以外の實業科は、商業、工業と農業科に包含せられたる水産科とがある。大正十五年に改正せられたる小學校令及同施行規則の改正、要旨

並に施行上の注意事項にも述べられたる如く、各實業科は土地の情況に應じて、適宜商、工、水産等の教材を加味して教授する場合もあるが、著者は農業科の教授に於ては或程度まで、何れの地方に於ても商業的教材を加味する必要があると信ずる。例へば農産物販賣、農業經營と簿記、農産物の商品化と實習教授の如きであり、又農業手工は工業科と深き關係がある。故にこれ亦手工、工業科と深き關係を保たなければならぬ。又水産科は、廣義の農業科に屬せしむる場合もあるが、漁村に於ては寧ろ獨立科として取扱はるゝ場合が多い。然し乍ら多くの漁民は半農半漁であり、亦漁村經濟の充實進展を圖らむには、河海に出漁せざる老幼婦女の業務として、養蠶、養雞、園其他農業手工業を經營せしむる必要なる地方の少なからざるを認めるものである。随つて漁村に於ても農業科を加味す可きであり、又純農業地方と雖も、養魚は將來相當普及と振興を圖るべきものである。農村生活の向上即ち農村振興は、單に販賣用の農産物増産のみを以つて其の唯一の方法と考へてはならない。山村、魚肉に乏しき地方に於て養雞、養鰻、鮎の人工繁殖等の如き、新養魚を興してこれを自家用として使用することも應ては農村振興の一助である。小學



校に於て青年教育等と相俟つてかくの如き平凡なるが如くにして而も新味あり  
尊き價值ある有力なる農村振興運動をも計畫實施しなくてはならない。

## 第二章 農村小學校の農業教育

### 第一節 農業教育の眞諦

農村の小學校を視察して常に感ずることは、農業科の經營に關する文書の計畫  
は、何れの學校もよく立てられ、又よく説明せられて居ることである。然し乍ら、其  
の實際施設の上に於て、又實際教授訓練の上に於ては、その計畫、その説明と著しく  
相隔たるものあるのを見るが多い。これ勿論學校長及び教員の不熱心より  
來るものではなく、何れも熱心に研究し、亦熱心に行つて居るけれども只この小學  
校令に於て規定せられたる趣旨の要點を適切に實行する事に於て缺くる處ある  
が爲めであると信ずる。故に先づ第一に該科の目的に就きて十分に研究し、然し  
て之が運用の眞諦を検討することが肝要である。

さて、小學校令第一條に規定せられてある通りに、小學校農業科の教授も究極の

目的は國民教育でなくてはならない。小學校に於ける農業科教授の要旨を見る  
に「農業ハ、~~農業~~農業ニ關スル普通ノ知識ヲ得シメ、農業ノ趣味ヲ長シ、勤勉利用ノ心ヲ養  
フヲ以テ要旨トス」と。

今之を分解せば三綱目となる。

- 一、農業に關する普通の知識を得しむ
- 二、農業の趣味を長ずる
- 三、勤勉利用を養ふ

農業科は以上三綱目の徹底を主眼とするものであるが、決してその一に偏する  
ことなく、三者を何れも相並行して效果あらしめなくてはならない。即ち單なる  
智識教授に偏してはならない。又技術、勞働に偏して、趣味の長養や普通の知識を  
養ふことを忘れてはならない。飽くまで小學校令第一條に基き、農業科教授要旨  
の全體の目的を達せしめなくてはならない。然るに、此處に特に注意を要するは、  
農業に關する普通の知識を得るにも、勤勉利用の心を養ふにも、先づ以つて體驗に  
基いて、農業の趣味を長じ、深き興味を喚起して、好く農業の本質を理解し、農業その



物の中に無限の歡喜、即ち隨喜の泉を發見せしむる事が肝要である。かくしてこそ農業作業に勞苦を忘れて従事し、學習する事となり、隨つて普通の知識を得、勤勉利用の心をも養ひ得るのである。

この意味に於て、農業科教授の目的を達せんには、實習實驗を中心として、體驗に基きて教授する事がその要諦である。而してその實習實驗たるや、學科教授に於て授けたる原則を實際に應用せしめ、その效果の顯著なることを體驗せしめて、科學の應用が如何に農事の改良に效果大なるものなるかを知らしめ、又新しき技術の發見を目標として、試験的研究的の實習をなさしめて、創作的、研究的の態度を養成すると同時に、農事改良や新技術の創造工夫が可能であり、亦その趣味深きことを知らしめる等、證明的實驗之れに試験的實驗を配するが如きは、深奥なる農業趣味を養成する上に於て最必要なことである。

この深奥なる趣味を解して、無我の境地に立つて農業的勤勞に當る者は必ずや、不知不識の間に勤勉利用の心を養ひ、又農業に關する普通の知識技能をも了得し得るに至るであらう。又斯くの如き過程を辿りてこそ、嘗て文部省訓令に示され

たる「高等小學校ノ目的ハ義務教育ノ終リタル兒童ニ對シ、更ニ進ミタル普通教育ヲ施シ、國民道德ヲ涵養スルト共ニ生活ニ必須ナル知識技能ヲ授ケ、卒業後各種ノ事業ニ従事スルニ一層適切ナル性格ヲ得シムルニアリ」と言へる中に於て、「一層適切ナル性格ヲ云々とある中であつて、性格」の文字こそ、前掲小學校農業科教授要旨を包含する意味深き語句であると信ずる。更に切言すれば、小學校農業科の教授は、實習を重んじ之を體驗せしめ、知識技能を透して農業趣味を養ふにある。

著者は且て或小學校を視察せしに、教場の後方に數俵の米俵が積まれてあるのを見た。學校長は説明して曰く、「此れは春以來教員生徒一體となつて栽培した成績品であるが、穂孕みの頃に教師は病氣の爲めに長く缺勤したが、生徒は時々教師の枕頭に見舞ひ、且つ指導を受けて熱心に栽培して、平年以上の農作を得たその勞作の結晶であるから、これを調製して室内に積んで、やがて行ふ農産品評會に出品する筈である。」と著者は此の説明を聞き、深き感銘に打たれたことを今も尙忘れないのである。米や果實や花卉等の栽培法を教ゆるよりも、米、果實乃至花を作り出すその楽しみを體驗せしめる事がその重要な眼目である。畢竟するに、小學



校農業科教授目的達成の要點は、農業的體驗を中心とする知識技能を教授し、兼ねて農業に對する趣味と興味を湧出せしめ、又勤勉利用の心を養ふが如き訓練の徹底を期するにある。凡そ、兒童の有するあらゆる機能は趣味、興味の中心點に向つて集中する事となるので、上述の體驗教育は實に教育上貴重にして意味深長なる教育である。

## 第二節 農業科教材の選擇

### 第一項 農業科教材の範圍

農業は土地を使用して動植物を育成し、衣食住の原料を生産する營業である。而して農業はこれが原理原則を研究して改良發達を圖ることを目的とするものであるから、その内容は頗る廣範である。廣義に於ける土地即ち天然力、天然物の一切は直接間接に農業に關係せざるはない。随つて自然科学の一切を擧げて農業の基礎であると言ふことが出来る。又人類の社會生活の一現象であるが故に、哲學社會科學精神科學等も亦直接間接にこれに關係を有するものである。故に

古來農學のことを論ずる學者は、農學は自然科学並に社會科學を基礎とせる應用科學であると言つて居る。今此の農學の分科を示せば、次の如くである。(ゴルツに依る、横井博士著農業及び農學)

#### 1、農學通論

農業の性質、農業の起原、農業史、農村等

農業生産額

#### 1、耕種學(植物生産學)

##### a、通論

(土壤、肥料、氣候、作物生理及化學、育種、病理、害虫等)

##### b、特論(栽培學)

##### c、通論

作物通論、園藝等

##### d、各論

作物各論、桑樹、蔬菜、促成栽培、花卉等

#### 2、畜産學(動物生産等)

##### a、通論

實驗遺傳學、動物生理學、動物生理化學、家畜飼養

##### b、特論(飼育學)



通論

各論

3、農業經濟學

1、通論

農業經營の原理、農業要章の研究

2、特論

a、農業經營學

b、農業評價學

c、業簿記學

以上に依つて農學の組織とその範圍の大體を了解することが出来るであらうが、尙この外農政學の研究に俟つべきものがあり。又農業が農民の社會生活の一事實であることよりして、近時米國に於て隆盛に趣きつゝある處の農村社會學の必要を起るのである。又宗教、哲學等も農村問題農民教育等の上に重要な關係を持つが故に農業教育に従事するものは、之等の全般に通じて郷土の農業、及び農民の開發に適切なる農業教育を施すの用意がなくてはならない。尙此處に注意すべきは、農學は自然を對象として研究する應用科學なる故に、宜く自然的事實を

具體的に研究調査することが肝要である。單なる書本的教授でなく、教育の道場を郷土の全野及び郷土の生活の全野に求めて而して活事實を對象として教授し訓練しなければならぬ。斯くてこそ始めて眞に生きたる農業教育と言ふことが出来るのである。

第二項 農業科教材の選擇

農業の性質以上の如くであるから、これが教授に當つてはその全體の中より狀に重要なものを選択しなくてはならない。その重要な教材は、如何なる點より見て如何なる事項を選択すべきかに就きては教師の透徹せる見識を以つてしなくてはならない。先づ文部省が教材選擇に就いて示されたる標準を掲ぐれば（小學校令施行規則第十三條）次の如し。

農業ハ土地ニ狀況ニヨリ農事若ハ水産ヲ授ケ又ハ農事水産ヲ合セ授クヘシ農事ハ土壤水利肥料農具耕耘栽培養蠶養育等ニツキ土地ヲ狀況ニ適切ニシテ兒童ニ理解シ易キモノヲ授クヘシ  
水産ハ漁撈養殖製造等ニツキ其ノ土地ノ業務ニ適切ナモノヲ授クヘシ



農業ヲ授クルニハ特ニ地理理科等ノ課業ニ關連シ時ニ土地實際ノ事象ニツキ  
指導シソノ知識ヲ確實チラムコトヲ務ムヘシ

右は農業科教授上教材選擇に關する大體の方針を示されたものであるが、學校を經營するに當つては、先づその根本に於て小學校教育の本旨に基き農業科教授の要旨に鑑み、最もその郷土に適切なる事項を選擇してこれを最も有効に運用しなければならぬ。今これ等の要件に鑑みて、選擇するに當り注意すべき點を擧ぐれば次の如し。

1. 土地の狀況に適切なることを要す、その土地の農業の實際に徴して、深く日常の農業經營に價值多きものを選択しなくてはならない。凡そ農業科教授は、郷土を出發點として學理を授け更にこれを郷土に歸着せしむべきものであるから、教材は郷土に多く栽培飼育せられるもの、及び將來盛に栽培飼育せらるべき見込あるものを選択することが肝要である。要は郷土農業の地位を知らしむると共にこれが開發に貢獻するの素地を導くことを忘れてはならない。
2. 教材は普遍的なるを要す。若し教材の選擇にして一局部に偏せんか、農業に

關する普通の知識を得られざること明であつて、隨つて小學校農業科教授の本旨に悖ることとなる。言はゞ農業科教授は農業常識を授けることが一の要件とも云ふべきであるから、稻作地方と雖も、蔬菜、園藝等をも選擇する必要がある。又土壤、育種等に關することの如きも、作物栽培に關することと合せて授けなくてはならない。又耕耘方法を教授する場合は農事試驗場その他に就きて各種の農具、新しき農用機械等の使用状態を見究めしむることが肝要である。

3. 代表的のものを選ぶべきこと、前項の方針に基いて教材を選擇せんとするも郷土の農業の對象は實に茫漠としてその何れを採るべきやに苦しむものであるから、慎重考慮の上に於て、最も代表的の事項を採らなくてはならない。これが爲めには先づ郷土農業の内容に就きて吟味し、共通或は類似の事實と理法のあることを見究めなくてはならない。この原則に基く、共通の方法に就きては各その中から代表的のものを選んで教材と爲し、他はこれに依つて類推せしむべきである。例へば根菜類の栽培に於ては、大根を中心としこれを詳細に授け他はこれに依つて類推せしむるが如きである。又畑に於ける穀作は、麥粟作に



就いて授け他はこれによつて類推せしめる如きである。又かの育種の知識を與へんとするには農事試験場、農學校等と聯合し、作物に就いては稻、麥、養畜に於ては鶏の品種改良に就きて授け他はこれによつて類推せしむるが如きである。要するに代表的のものに就いて、原理原則を知らしめて、精確なる基礎觀念を與へることが、その要諦である。

4. 兒童身心の發達程度に適應せしめること。兒童身心の發達程度に應じて教科並に教材を選択すべきは言ふまでもなきことである。確實なる知識は、明確なる理解を前提とすべきであつて、明確なる理解は新觀念が舊觀念に依つて、能く類推さるゝ場合に得らるゝのである。又實驗、實習に關する事項も餘りに程度低く、心身を練磨するに十分ならず、又その學習的興味を惹くに足らざる如きものは、適當ならざるは言ふまでもないことである。然りと雖も徒に高尚に過ぎ、理解に困難なるものの如きは、却つて兒童を過勞に陥らしめ、又學習興味を惹く能はずして、只にその教授を不成功に終らしむるのみならず時に兒童をして嫌忌の情を起さしむることがないでもない。

5. 形式的陶冶に適切なる教材を選ぶべきこと。農業教育が形式的陶冶の方面に於て特に主眼とすることは、農業の趣味を養ひ、誠實勤勉の心を長じ、勤勞を愛し、獨創力を啓培することが、やがて將來の良農民、良國民を作る上に於て、極めて大切なことであるからである。故に、學科教授に於て又實習教授に於て、この目的を達するに適切なる教材は力めてこれを採擇しなくてはならぬ。例へば、郷土に荒蕪地あればこれを開墾して實習地となすが如き、又は農林産に關する實習施設を特設して勤勞を愛し、郷土産業の改善に工夫、創作的貢獻を爲さしむるが如きこの一例である。

6. 男女に依つて、適宜に教材を選ぶべきこと。男子と女子とはその生活の上に相違あり。又精神的、肉體的に相違して居るのであるから、教授時數に於ても女子は著しく減ぜられて居る。随つて、これに對する教材の選擇及び範圍の上に多少の差違あるは當然のことである。例へば女子にありては、園藝收穫物の調製、利用等に關する方面に重きを置き、畜産につきては、養雞、小動物を選び、その他養蠶、養魚をも加設する時は更に結構である。



以上は教材選擇の法則を述べたるが、これが運用に當つては、郷土の自然と農業の狀況を知悉し、十分なる見識の下に行はなければならぬ。實際經營に當つてこの問題に蓬着する時、容易に劃一的教材より脱して、郷土的色彩を濃厚ならしめることが困難であることは、その實際に當つて痛感する處である。

如何に教材の選擇宜しきを得るも、その分量に於て過不足あらんか到底所期の目的を十分達成し得ざることとは言ふ迄もなきことである。體驗に依れば現行はるゝ普通の教科書の内容に加ふるに、より實際化せる教材、例へば栽培法又は飼育法を加味することが必要である。又農業以外の學科と深き關係を有すること前述の如くであるから、これ等も關係ある事項に就いては、適宜これに關聯せしめて教授することが肝要である。例へば麥の教授に於て我が國麥作と北米合衆國のそれとの關係を説き、養蠶の教授に當つては、人造絹絲或は支那の養蠶と關係せしめるが如き、耕地整理の教授に當つて、明君その他の農業土木史に就いて授くるが如きそれである。

最後に農業科教授は國民教化として、又人類文化の内容として授けるものであ

るから形式的陶冶は殊に重要であることを忘れてはならない。殊に該科は勤勞作業を課する機會が多いのでこの陶冶を行ふに極めて好都合である。故に教材の過多を避け、形式的陶冶を施すの餘裕を相當に置く必要がある。

### 第三項 農業科教材の排列

教材の排列法には數種類あつて、各一長一短を有するが、今これを一々列擧して説明するの繁を避ける。要は農業科教授の目的に鑑み、各方式の長短を探り、土地の事情に即して決定しなくてはならない。即ち農業科教授の目的は農業に關する普通の知識を得しめ、農業に關する趣味を養ひ、勤勉利用の心を養成するにあるから、先づ第一に兒童の環境たる土地の事情並に兒童の身心發達の程度を基調とすべきこと明である。故に先選擇せられたる各教材の特質を究め、各種の主義の長短を探つて排列すべきも、特に季節と、兒童身心の傾向とに鑑み、分題排列主義を採らなくてはならない。

分題排列主義とは、選擇せる教材を適宜分割して、一年次毎に、其内容を明示する題目を與へ、これを教材の性質、兒童の身心發達程度、他教科の進度に鑑み成るべく



季節に適合せしめる様排列し、以つて易より難に、具體より抽象に、特論より通論に、事實より理論に、分題より全題に進み、然も全般の教材間に聯絡を缺かない様に排列しなければならぬ。例へば麥の播種なる一題目の下に於てその郷土に於ける播種の時日、深淺、播種量、その方式等を總括的に教授する代りに、これを分題して單簡なる一事項とし、播種の事實を、溫度と種子發芽關係の後に教へ、播種量を授くるには、先づ日光と生長との關係を授けて、然る後に授くるが如きである。最後に播種に關する事項を一括、整理し、統一するが如きが、即ちこれである。

この主義は高等小學校の兒童の程度に於て最も適當である。今最後に一言するを要するは學科教授と實習との關係である。學科と實習の關係は、よくこれを密接ならしむべきであるが無理に聯絡せしめんとして、野外に實演場、實習地を有するに拘らず、殊更に教室内に實物、鉢植等を持込むが如きは、却つて兩者の聯絡を亂るものである。施肥の適期を知らしむる學科教授は、麥の過肥の季節に於てし、實地に農場に於て、これが實演を爲さしめ、原理、原則より入つてその實際方法を了得せしむべきである。

### 第三節 農業科教授の方法

#### 第一項 農業科教授の概観

教育は宜しく實際生活を基調として行はしむる様その内容を改善すべしとは當に世論の一致する所である。吾人はこの實際生活なる問題に就いて、農村の家庭生活の事實を見るに常住農業及びこれに關係せる生活を營み殆んどその全部が農業生活である。農村の家族はその生命を維持せんが爲め、又その物心兩面の生活を向上せんが爲めに全力を傾倒して働いてゐるのであつて實に職業を離れたる生活はこれを認め得ないのである。而して、兒童も亦近き將來に於て、この生活を營まんとするものであるが故に教育の實生活化は、これを具體的に言へば常に教育の農業生活化と言ふべきである。随つて農村小學校の特色は農業科教授を徹底することにあるのである。換言すれば農業科教授は農村小學校に對して生命を與ふべき重要な使命を帶ぶるものである。然るに従來は、農村小學校にして堂々たる校舍と一般的設備とを有するに拘らず農業科の設備に於ては一坪の



實習地、一挺の鋏さへ具へざるものあるの有様であるから、農業科の徹底は夢想だもなし得ないものが尠くなかつた。斯かる状態にありたればこそ農村兒童が農業科を嫌忌し、やがて青年となつては、農業を棄て、郷土を脱走することゝなつたのも怪しむに足らない處である。かかる農村小學校に於ては到底その村の待望する國民教育を達し難い。寔に農村小學校教育の不徹底これより甚だしきはなくその眞使命を全くすることが出来ない。斯くの如き情勢を醸すに至つたのは教育精神の上に一大缺陷あることを否み難いのである。校長にして農村小學校の眞使命を悟り、その根本方針を誤らなかつたならば、斯くの如き缺陷はこれを見ざるべく又教師にして、郷土を親愛し、農業生活に對して敬虔なる態度を持し、白熱の志氣と、燃ゆるが如き研究心と、而して堅忍不拔の精神を以て、農村的教育の眞使命の達成に全生命を傾倒するあらば、必ずや農村小學校は農村文化の源泉となり、今日の農村各方面の行詰を招來することはなかつたのであらう。

農村の兒童青年には農村生活に愛着してこれが向上、發達に對して貢獻し得るに十分なる先天的素質はあるもこれを啓培し、これを擴充して善良有爲なる國民

公民たらしむる上には、如上の如き生命ある教育教授に依るにあらざれば、到底その目的を達すること能はないであらう。

## 第二項 農業的獨創力の養成

工夫創作の性能と勤勞愛好の習性を養成するには、到底農業科に優るものがないと信ずるものである。彼の農村の環境は、農民の爲めには、自然的並に人爲的に結合し、形成せられたる一大藝術であり、一大創作である。然して農民の努力は天地大自然の法則、大創造力への翼賛であり、換言せば、宇宙の大生命力への奉仕である。故に農業科の實驗、實習的勤勞作業は天道を敬し、人類を愛するの極致を體驗するものであるから、理科其他の教科目の到底企及し能はざる尊き教育的効果を收め得るものである。該科に依つて修得したる道徳的、科學的並に技術的の教養は實に偉大なものであつて、總ゆる教科目の教授の綜合であり、歸結である。誠にその廣さに於て、全教科目に關聯すると共に、その深さに於て、亦他の教科の足らざるを補ひ、農村に於ける國民教育の眞諦に徹せしむるものである。その一例を擧ぐれば、理科が短時間の實驗觀察であるに拘らず、農業科に於ては數ヶ月間或は數



年間に亘り作付より收穫までの實習を一通りなさしめ得るのであり、この間精密にして繼續的の勤勞學習を要し、又その實驗研究の材料は死物にあらずして、動植物の如き活物を相手とし、これを撫育し栽培するものであるから、これに依つて生ずる研究的態度の養成や藝術的陶冶の如きは到底他の追隨を許さざる獨自の教育的價値を有するものである。況んやその過程には、風水害、旱害、病虫害等自然の迫害を卻け、動植物を撫育するが故に自ら精神を鍛鍊し、奮闘的精神を涵養するこゝとが出来来る。

### 第三項 農業科教授上の原則

農業科教授は単に知能の教授ではなく、その中に偉大な道德教育及び國民教育上の價値が含まれて居ることを看過することは出来ない。随つて該科に於ては訓練の大使命もあるを忘れてはならない。さて、この知識及び徳操の涵養と公民たるの基礎的訓練との兩面の目的を達成するの手段は、農業實習と、農業學科教授とを契合し融合徹底せしめなくてはならない。その方策としては實習實驗を中心とする農業教育たるを要する。これを換言すれば勤勞作業を中心とする農業

教育である。即ち汗と血の結晶より成る體驗生活に依つて學習せしむることが該科教授の眞諦であるのである。

農業知識の練達に就きて考察するに、元來農學の研究によつて得たる原則は普遍的、一般的のものである。故にこれを或村の或土地に適用するには、氣候、土質、作物の種類、栽培の目的、市場との關係、農家經濟の狀況、交通運搬の便否、其他の幾多の自然的、社會的事項を斟酌するを要する。故に或原則を實地農業上に應用せんには換骨脱體の妙用を以てしなくてはならない。學理の應用に高能率なる技術を要することは、この理由に基くものであつて、而してこの手腕力量の養成は農業教育に俟つべきものであるが故に特に兒童期に於てその根本的資質を啓培し置かなくてはならない。

實習作業の使命は上述の如く學科教授との連絡に注意するは勿論であるが、農業趣味の養成が、重要な目的の一であるから、學校に於ては花壇、盆栽、溫室、溫床等の設置、樹木の栽培等による校庭綠化運動の如き農業趣味涵養の施設を爲し、以て農業的勤勞をして藝術化するの境地にまで導かんことを期しなくてはならない。



#### 第四項 農業科學習の要訣

##### 一、記載式學習法

兒童は慈母の乳房を田圃に慕ひし當時より早くも自然を喜び土地に親しみ、  
 々長じては兩親兄弟の農業生活の中に浸り種々なる經驗と體驗とを重ねつゝあ  
 る。故にこの經驗と體驗とを基礎として、郷土に於ける農業の状態を研究調査せ  
 しめて、疑問を起さしめ、これを適當に輔導して農業科の學習を進めしめなくては  
 ならない。この研究と調査とを重んずることは、該科學習輔導上の新機軸である。  
 かゝる方法に依つて教授を爲さんには兒童をして次の如き形式の筆記帳を使用  
 せしめなくてはならない。

例へば、或農村小學校に於て麥の施肥に就き教授を爲す場合を示せば、

項目	調査及觀察	原理、原則及經驗	改良方案	改良實施

上の表の記入法及び學習輔導法の大要を示せば次の如くである。

改良實驗又は試験成績	第一年成績	第二年成績	第三年成績

##### 1、項目

元肥、補肥、三要素量、石灰施用量、施肥法、肥料種類を含むを記入す。

##### 2、調査及び觀察

各項目の下に自家又は自己の部落の農家施用法の實際を記入し、成功並に失敗の事實はこれ  
 を具體的に示さしめ、何故に其の然りしやに就き疑問を起さしめ、次項の原理原則によつてこ  
 の疑問を解決せんとする旺盛なる研究心を誘起せしむ。

##### 3、原理、原則及び經驗

原理は元肥に用ふる肥料の種類、三要素量、肥料配合上の原理、元肥の麥成育上に重要な理由、  
 補肥に就いては時期、用量、三要素量、施用方法  
 原則及び經驗に就いては、農事試験場、村農會等の發表せし改良事項及び兒童の家庭又は村内  
 の老農の經驗談を記入せしむ。尙原理、原則につきては教師の教授に俟つべきは勿論である  
 が、兒童の理科、農業、數學等に於て得たる既知觀念を應用して記入せしむるもよい。



#### 4. 改良方案

上記の調査観察の結果、即ち自家又は自己部落の施肥法が果して合理的なりや、又如何なる缺陷ありやを、原理、原則及び經濟欄に對照して考察し、如何に改善すべきかを本欄に記入せしむ。

#### 5. 改良實施

上欄に解決したる改良案を我が部落、我が家又は我が擔當實習地に如何に應用し實施すべきやを具體的に計畫記入せしむるのである。

#### 6. 改良實驗又は試驗成績

右の改良法案を連續實施し其結果の要領を記入し、麥施肥に對する改善上の見識を得しむるのである。これを三年に分ちたるは高等小學校第三學年の教授を考慮せるものである。

次に農業には動植物を育成して衣食住の材料を生産する方面と而して經營をして永久に有利に營むべき經濟的方面との二方面がある。而してこの生産方面に關する教授に於ては事物の本質を正しく觀察して、以てこれに對する操作を適確ならしめなくてはならない。例へば作物栽培に就いては、先づその作物の形態、生態、生理等を能く觀察研究し、これを基礎として肥培、管理等の操作を有效適切に施さなくてはならない。此處に於て好く農用動植物の觀察を正確ならしめ、確實なる知識として修得せしめなくてはならない。而してこの事物の觀察を正確な

らしめんには教師輔導の下に其の急所を觀察せしめ而してこれを正しく描畫し、以て正確なる觀念の養成に資すべきである。

經濟的方面に於ては郷土の產業的經濟的事項に關する簡單なる調査を爲さしめ、これを統計又は圖表として能く理解せしめ、以つて確固たる農業經濟上の基礎的觀念を養成しなくてはならない。

この第二方面を顧ることに於て農業科教授上實驗、觀察、調査等を重視しその方法を考案實施することは農業科教授に新生面を開拓するものなりと信ずる所以である。

#### 二. 觀察と描畫法

農作物の品質を改良し收量を増加せんが爲めには、學理の應用に必須なる技術の堪能を必要とすることは論を俟たざる處である。然るに學理の應用には勞作と科學の渾一融合されたる高能率的堪能の力に依らずんば、金玉の學理も決して作物の品質を改良し收量を増加すること能はざるのみか却つて品質粗悪、收量減退に陥ることもある。例へば葱の軟白の原理は莖部に日光を透射せしめざるに



ある。然るに日光を遮る方法としては、土壤又は有機物を以て莖を被覆するにある。然るに單にこれ丈の教授を以てしては決して優秀なる成績を收めることは出来ない。何となれば培土の程度は葉の分岐點の直下までを覆ふことである。若し作業を誤つて其れ以上を覆はんか決して健全なる發育を爲し能はないのみならず幼時に於てはこれが爲めに枯死することさへあるのである。而して第一回の培土は必ず莖の太さが略々、品種獨特の太さとなりたる時に爲さなくてはならない。又若し作業の時期を誤つて遅速あらんか莖の伸長肥大に著しき悪影響を及ぼすのである。この理解を徹底せしめんには葱の莖葉の觀察を爲さしめ、これを解剖的に縦斷面の觀察生理的葉の方向、着生狀況、葉の分岐點に於て新葉の生ずる狀況及び其の基部より分蘖の生ずる狀況等を正確に知らしめて、而して後に培土の程度及び其の時期の誤るべからざることを知らしむれば必ずや正確なる培土の觀念を與ふることを得るのである。然して更にこの觀念を明確ならしめんには實習地に於て證明的實驗の方法に依り體驗、研究せしむべきである。故に胡瓜の栽培には地表に被覆物を施し且つ肥料を地表に近く施すことが肝

要である。斯かる理法を能く理解して被覆材料の選擇、肥料の種類、施肥の方法、灌水等を適當ならしむる時に於て始めて優秀なる成績を收め得るのであるが若しこの理法に明かなりと雖も其の作業を誤り高能率の堪能を缺くに於ては却つて顆の收量品質を低下せしめることもあるのである。かくの如くにして精密なる觀察眼を働かせ、常に疑問を生ぜしめ、其の根本原理を追究するの習性を養ひ、進んではこれに基きて工夫創作し新方法を案出するが如き能力を啓培することが肝要である。かゝる創作性を涵養することは單に農家子弟に止らず其の他の一般兒童に對しても亦極めて價值多き施設である故に都市小學校に於ても假令校庭美化の作業としての程度に於てなりとこれを課すべきものである。

我が國農民の缺點として農業經營上、組織的計畫的能力に乏しく、且つ數理を應用せる設計及び取引上の能力に至つては、更に一層短所とすることは第一編に於て詳述せる如くである。故に兒童をして郷土の農業狀況を觀察調査せしめ、これに依つて統計表又は統計圖等を製作せしめて郷土に於ける農業の發達狀況、並に其の一般經濟上に於ける地位、設計、計畫等の能力を養ひ又一方農村物價高低の



狀況を圖示せしめ、或は農産物市場の景況、貨物取引の狀況を調査し圖示せしめて、經濟上の傾向と法則とを知らしめ、以て新時代の農業者たるの基礎的教養を與へなくてはならない。

### 第五項 記載式學習法の運用

#### 一、記載式學習法の特徴

前項に述べたる如き形式の表を利用して、兒童各自の獨自的活動に依り、作物の觀察、描畫、統計表の作製を爲さしめて、動植物育成に對する知識技能を會得せしめ、又は産業、經濟に對する一定の法則を探求せしむるが如くする。又前項の學習表に基いて、成る可く兒童が中心となつて研究し、單に書物の上の研究でなく、自己擔當の實習地又は學校園に於て、試験、實驗せる處をも加味して學習せしむる方法である。かくの如くすれば、兒童は事物に對して心眼を開き、自己の接する總ての環境から、常に何物かを發見し、何物かを創作せんとする欲求が熾烈となり、疑問——解決、此處に研究的態度と、創作的能力とが啓培せられ、眞に文化の進展に貢獻する工夫、獨創の尊き性格が芽生えるのである。而して若し此の方法を青年期にまで

持續する時は、大に獨創力を長養することが出來、隨つて農業の發達、郷土の開發に貢獻し、延いては國民的文化に寄與する處大なるものがあるであらう。

農業科は自然現象に關係する應用科學的教科であるから、學習法は歸納法を採用すべき處が大部分である。然るに認識に至つては歸納法のみにては未だ不完全なるが故に、適宜演繹法にまで發展せしめなくてはならない。而して科學的の研究法に於ては、事物を觀察調査せる事に對して常に疑問を起させ、これを解決せしむることに依つて更に新しき疑問を起さしめてこれを解決せしむるが如き方法を採らなくてはならない。かゝる方法に於て必要缺くべからざるは自由の學習精神である。故に適宜相互學習の方法をも加味し自由なる精神活動を以つて、この疑問の提起と解決に當らしめなくてはならない。

#### 二、記載式學習法の過程

凡そ、作物に關する教材を取扱ふには、先づその栽培の目的物が作物體の如何なる部分であるかを考へ、その部分の十分に發育して、以つて收益多く品質良好なるものを得る方法を知らしめなくてはならない。而してこれが爲めには、其の作物



の性状、即ち生態學的、及び形態學的、生理學的、方面的の既有觀念を基礎として、これに最も適應せる栽培方法を會得せしめなくてはならない。然るに從來一般に行はるゝ教授法は、概して文字の教授や形式的陶冶に偏する傾向があつて、眞に其の學習せる處を以つて、實際栽培法の改善に深き交渉を有せしむるが如きことなきやの弊がある。然らば作物の性状を基礎として如何なる方法に依つて教授すべきかを馬鈴薯栽培法に就きて具體的に説明せん。尙この實例は小學教育のみならず青年教育に於ても參考たらんことを期し、稍々詳細に述ぶることとする。

先づ種子に就きて授け、種子より生ずる苗を育て、栽培するは新品種の育成に應用するのであつて、今日の馬鈴薯の品種が幾百に上つて居るのはこれが爲めであることを知らしめる。而して既習事項と關聯する點は、農業科及び理科、高等小學校三學年に於て授けたる品種改良、遺傳等に關係ある既知觀念に結合せしむるがよ。

地下莖即ち薯を以つて繁殖せしめる方法は普通行はれる處であるから成るべく、兒童各自に實物を持たしめて、芽の着生狀況、斷面の構造、表皮、形成層及び貯藏澱

粉を知らしめ、更に基部及び頂部に於ける養分含有の差異を覺らしめ、特に澱粉は顯微鏡に依りて實驗せしめ、理科に於ける既習事項を聯絡せしめ、更に皮部に近くそらにん<sup>の</sup>の形成され居ることを實驗により確かめしむることとする。かくの如くにして、含有成分をよく知らしむると同時に斷面に依り構造を知らしめ、特に切斷面の癒合作用に就いて理科に於て學びたる既知觀念及び農業科に於て接木法及び挿木法に就きて學習せる處と連絡して會得せしめ、特に木灰を斷面に塗抹してこの癒合作用を促進し、且つ腐敗を防ぐの必要なることと知らしめることが肝要である。尙この實驗は、種々の形狀の薯を縦又は横乃至は斜に切斷し、更にこれに木灰木炭末等を別々に塗抹してこれを各別に畑又は植木鉢に植付けて、根の發生、莖葉の發育狀態を觀察せしむるが如きは最も必要である。

次に根部の性状を知らしめんが爲めには草丈四、五寸となりたる實物をば各個人又は適宜の數に一個宛持たしめて、根の發生する場處は莖の如何なる部分なりや、根群の發生狀況は普通の根菜類例へば大根、蕪菁に比し如何に異なるや、根群の伸長方向は莖を中心として斜下方に擴がるにあること等を知らしめ、以つて肥料



は種薯の下方に與へるは不利にて側方即ち薯と薯との中間及び畦の兩肩の部に施すの合理的なることを知らしめて、又根の滋殖が極めて旺盛に行はるゝものであり、且つその水分吸収力の盛んに行はれる様に、鬚根であること、更に根毛の着生の狀況等をも觀察せしめ、この作物が比較的早魃に強き理由を知らしめ、以つて救養植物として適當なる理由をも知らしめ、且つは其の水分を多く要する本來の性質に鑑み、夏期早魃の際に於て畦間に灌水するの必要なること及び其の理由を推知せしむる。尙莖を挿木となし置きて、發根の狀態を觀察せしめ、以つて挿木法の有動なることを知らしめ、以つて突然變異の薯を發見したる場合又は他地方より、少量の種薯を得たる場合に於ける繁殖法は、此の挿木法を採用することによつて、比較的多量の種薯を得易きものなることを知らしめ、尙これに關する實驗は、植木鉢又は圃地等に於て薯を一個宛の芽を有する様に切斷して斷片となし、これを栽植しこれに發生せる芽を發育せしめ、その枝の長ずるに及び適宜切斷して挿木となし、獨立の苗として、定植し肥料を與へて、以つて種薯を着生せしめ、兒童青年をして、新品種育成方法をも知らしむれば、必ずや新品種育成のことに興味を持たしめ

得るであらう。

莖に就いては、其の土中に在る各節より、根を生ずる外に匍枝を生ずる狀況を觀察せしめ、匍枝の先端に養分蓄積して、地下莖となることを知らしめ、而して地下莖の充實肥大することは葉に於ける同化作用の盛衰と相伴ふものである。故に該作物の栽培要點は、根の發育を盛にして、養分の吸収力を大ならしむると共に、莖葉の完全なる發達を遂げしむることが必須條件なることを會得せしめ、單に其の莖葉たるや、徒に一株の本數を多からしむることは、薯の太さを小ならしめ、且つ不揃ならしめるものであることを實驗觀察に基いて十分に授け、結局大きさの揃ひたる良薯を得んには、一株の莖本數を制限して、二本位となすを可とし、形狀大なるものを得んには、一本立とするの可なることを知らしめる。之に就きても必ず圃場に實驗區を設け、一本立、二本立、三本立、四本立、五本立等數種の比較實驗に依つて、學理と實際を照合する證明的實驗を爲すべきである。

次には、この匍枝の生ずる部分では、莖の地に埋れたる芽の部分である。故に成るべく、莖を土中に埋め込むこと、即ち培土の必要なることを知らしめ、これを圃地



に於ける實驗に依つて證明する爲めに、培土の程度に關する實驗及び種薯の播種の深淺(一寸、二寸、三寸、四寸、五寸等)に關する實驗をなし以つて收量及び品質と、莖の地に在る部分の長短によつて如何に成績上に差を生ずるものなるかを知らしめる。

莖丈一尺内外となりたる時に蕾の生ずる状況を觀察せしめ、これを放置する時は、多量の養分が花及び果實に運ばれて、地下莖に貯藏する分量が少くなる故に摘蕾又は摘花の必要なることを知らしめるのである。

一方肥料三要素の施用分量は如何程にあるべきやを決定する上には該作物の栽培と三要素の關係とを一通り考察する必要がある。勿論深き理論の教授は、兒童に對しては差控ふべきであるが、理科及び農業科に於ける既知觀念は相當この問題を了得し得る基礎知識たり得るものであるから、これに基調を置きて次の如き諸點を知らしむべきである。

先薯の着生の前提として健全なる莖、葉、根を作りて、養分吸収、炭素同化作用、その他の營養作用を旺盛ならしめる爲めには、窒素、磷酸、加里吸收率が適當であるべき

であるが、莖の發育には窒素分の豊かなるを要し、炭素同化作用を盛んならしめ、澱粉の成生を多くして、従つて薯の收量を大ならしむるには加里分の多量を施し、又莖の健全なる發育、根の發生、滋殖を助け、薯の成熟を促進するには、磷酸の効顯著なることを授けて、該作物の増收、並に品質の改善と、肥料の配合、施用量とは深き關係ある事を知らしめ、これ又圃場に於て、實習し、實施せしめなくてはならない。

尙病虫害に關する方面に於ては、連作を忌むの特性と、疫病、痲皮病、腐敗病、青枯病等があることを授け、これ等の豫防法は、栽培法の改善によつて遂げ得ることを實驗によつて徹底せしむべきである。

更に收穫及び貯藏等に就いては、其の地方に最も適切なる方法を授くべきであるが此處にはその細論を省く。

販賣法に就きては、特に經濟觀念の養成が大切であるから、市場に於ける馬鈴薯の取引狀況、主なる供給地方、その品種及び品質の優劣、その市場に於て優越の地歩を占むる爲めには、栽培法の改善、荷造法、收穫及び賣出の時期の如何等を調査して出來得べくんば、兒童生徒をして、生産品を市場に販賣せしめるを宜しとする。



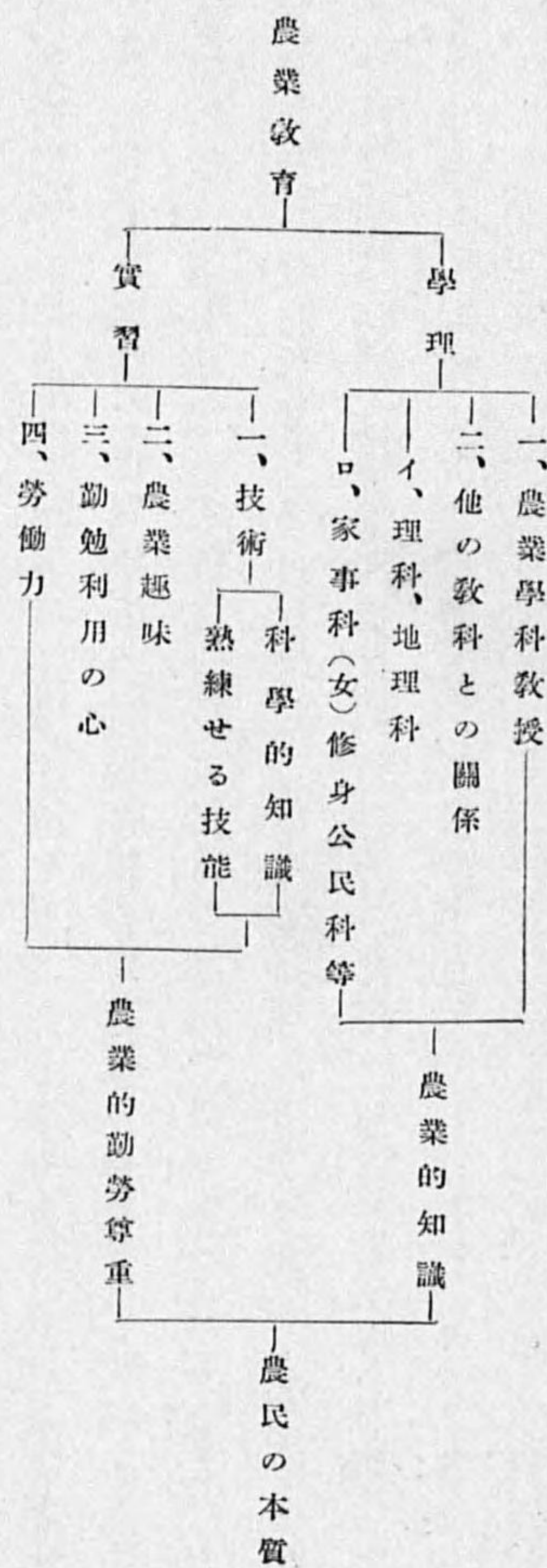
かくて合理的方法に依つて收支計算を明にし、その成敗の原因を研究せしめなくてはならない。家庭に於ける實習に於ては、その収益は些少なりとも、これを信用組合等に貯蓄せしめ、以つて作物栽培は單なる技術的研究に終らしめず、これを生きたる經濟生活に結合して、その教授をして兒童が將來社會に立ち實生活を營むに際しての根本訓練たらしめなくてはならない。

以上は、此の題材の下に於ける學習の重點を述べたのであるが、その重點はこれを二に大別する事が出来る。即ち一は性狀を根本とする栽培法の學習であり、即ち生産學的學習であるが、他は農業を一の經濟と見て、この農業經濟の要訣に觸れしめ、而してこの要訣に徹したる學習並に訓練を施さんとするものである。隨つて學科教授の反面には、實習實驗の教授があり、學科と實習とが渾然一體となりたる教授であり、訓練である。故にこの一題材が科學的教授訓練、精神的教授訓練、體験的生活訓練を爲し得るものであり。隨つて、國民教育、道德教育上貴重なる價値を有することを斷言するに憚らない。即ち實際生活に適應せる生きたる取扱方法であると信ずる。

以上の方法よりして此處に農業科教授の要諦とも言ふべきものを要約してこの項の結論としたい。

三、記載式學習法の歸結

農業教育の要諦は左表の如くである。



抑々、農學は事實を對象とする、形而下の應用科學である。而して、小學校に於ける農業科は既に述べたる如く、國民教育の目的を達する爲めの教科目として、農業に對する普通の知識即ち農學の理論を實際化したる普通の知識として授け、且つ



農業に對して深奥なる趣味を養ふ等、所謂農民魂を打込み、以つて新時代の良農民を養成せんとするものである。故に、該科は當然學理の教授即ち學科教授と、勤勞體驗に基く教授即ち實習教授の二方面に力を注がなくてはならない。而して、學理の教授に於ては、農業科學習の基礎知識を與ふべき修身公民科、理科、地理、家事科等の教授と深き關係を保ち、證明的實驗、試驗的實驗等を課しつゝ、正確なる農業上の知識を與へ、農家日常の業務に對して、相當の理解と見識とを養ふことに努め一方實習に於ては、土に親しみ、汗を流して働くこと即ち農業勞働が大部分の如く見えるけれども、これのみに偏するは、農業教育の常道ではない、宜しく技術の練磨を爲すこと、即ち原理原則を理解せしめ、これを勞働の中に取込み、然もこれを實地に應用するの妙用、換言すれば高能率の堪能の資質を養成し、而してこの資質と旺盛なる勞働力とを合せ持たしめ、且つ農業に對する深き趣味を有し、誠實にして勤勉利用の心に富む人たらしめ、終に國家の要望する良農民たるの本質を與へることが出来るのである。かくの如くにして、農業科を以つて農村に於ける教育上重要缺くべからざる教科目たるの眞價を發揮せしめなくてはならない。又農業科の

使命は一教材の中にもその全部の使命が包含されて居るものである。故に教師は農業教授に當り一教材の教授を爲す毎にも國民教育の使命を徹底するの大抱負を以つてしなくてはならない。單に知識の傳達たるに止まらず、國民教育大使命の徹底をなすべく大なる抱負を以つてするの必要な事を忘れてはならない。

### 第三章 農業實習論

#### 第一節 緒言

農業科の目的は既に述べたる如く、農業に關する普通の知識技能を得しめ、農業の趣味を長じ、勤勉利用の心を養ふにあるのであるが、その普通の知識は農學の研究に成る理法であるから、これが理會を十分ならしめんには實習實驗に俟つべきものが少なくない。又農業に關する技能は原理原則を實地に應用する上に缺くべからざるものである。農學の研究に成る原理原則は時と場所とにより又その對象とする作物家畜の種類、經濟關係等に依つて、千變萬化すべきものであるからその實地應用には換骨脱體の妙がなくてはならぬ。而してこの妙技即ち高能率の



なる技能は兒童期に於て萌芽を養ひ基礎を築き、青年教育に於ては更に一層之を長ぜしむることに努むるのである。又農業の趣味を長じ勤勉利用の心を養ふことに至つては單なる教授を以つてしては到底その目的を達し難い、必ずや農業實習に依つて土地親愛の精神を啓培することを根本方針としなくてはならない。寔に農業實習は農業的知識技能の傳達、農民的精神の涵養の上に必要缺くべからざる要件であり農業教育の中軸と爲すべきものである。

かくの如く實習は農民的精神の根底を培養するの力であり學理應用の妙諦を會得せしむる鍵鑰である。故に學科と實習とは農業教育の双翼とも言ふべく、小學校に於ては、寧ろ重きを實習に置き、勤勞作業を體驗せしむる間に農業的知識を與へ、農業に對する趣味を喚起せしむべきである。而して、農業實習は兒童の精神を鍛鍊する上に於て、極めて尊重すべき價值あるものなる事を看過してはならない。何となれば、農業の經營に當る上に於て必要なる精神的身體的教養は共に農業實習の鍛鍊的なる力を俟たざるに於ては到底眞の目的を達し得るものではない。故に農業實習は、農村教育上に缺くべからざるものであつて、これが設備並に

實施狀況の如何はその學校教育の眞價を表現するものである。然るに農村教育の實習を見るに、概して、農業實習に對する施設並にその運用が甚だしく遺憾の狀態にあり、甚しきは一坪の實習地も有せざるものがある。又相當これに努力せるものに見るも、過去の硬化せる農業教育思想に閉籠つて、新時代の農村文化の建設に當るべき農民教育の方法としては、甚だ遺憾なる状態にあるものが多い。故に今後は大いにこれを尊重すると共に、舊法を改善して時代に順應せる施設となし農村教育の眞生命を發揮せしむる處がなくてはならない。以下普通行はるゝ農業實習論の形式に拘泥せず、特に將來努力せざるべからざる重要事項に就きて要説することとする。

## 第二節 農業實習の價值

前節に述べたるが如く、農業實習は農業教育の生命であり、随つて農村學校の經營上缺くべからざる教育施設である。故に農村教育に當る者は直接これを擔任するものとする然らざるとを問はず、農業實習の教育的價值を正しく認識して全



員、共同奮闘主義に立つて、これが徹底に努めなくてはならない。

以下農業實習の教育的價値を知育、德育、體育の三方面より分觀して之を檢討することとする。

1、農業的知識を確實ならしめるの價値。「机の上から馬鈴薯は掘り出せぬ」とは、實際の伴はざる學問が價値無きことを道破したる名句である。

抑々農業は、土地を基礎として動植物を育成し、人類生活に必要な資料を生産する營業であるから、これが改良發達に關する理法の研究を以つて目的とする農學は、事實を對象とする形而下の科學であるから、實習教育を輕視して單に書本の上の教授を爲す時は、到底實際に役立つ知識を與ふることは出來ない。小學校令に於て農業科の目的を規定せる中に「農業ニ關スル普通ノ知識」の文句あるは農業上の實際的知識を意味するのである。又兒童の理會に困難なる理論の教授に於てもこれを實習教授の力に俟つ時は、數千言の尙及ばざる説明をも只一舉にして解決し得る場合が少くない、而して又農學の研究にかゝる原理、原則の實地應用の妙諦は實習教授に依つて始めてこれを體得せしむることが出来る。この外農業

に關する學理を實地に應用して、その效果顯著なことを體驗したる場合に於ては、推究的興味油然として喚起さるゝものである。彼の農業と一體となり生涯を斯業の開發に獻ぐる老農の經歷に見るも、幼時より農業を體驗して基礎的訓練を受け稍々長ずるやその改良を念願して學理と技術とを修得し、これを實際に應用して農事の改良に精勵し或は生産の増加に新記録を作り、或は新しき品種を創作する等科學と經驗の契合より成る技術の威力を認識し、益々農業に對して深く強き趣味を喚起し遂には農業そのものゝ中に無限の歡喜と隨喜の泉を發見して、正に自然と一體となれる農業三昧の境地に到達せるものである。

著者は又優良青年の生立ちを調査せるに何れも十二三歳の頃より家庭に於て農業を手傳ふ間に、父兄の適切なる躰によつて健實なる農業觀や人生觀を確立するに至つたものゝ尠くないことを認めて居る。

故を以つて兒童に對して農業趣味を涵養する方法としても、矢張り農業實習に俟たなくてはならない。校庭に美花の咲き亂れ、田面に黄金の波を漂はせ、或は又孵化せしめたる雛の日々長育するなど日常の努力が直ちに事實の上に展開せら



れ、而してそれが農事の改善に貢献することを見る時に於て、誰か無限の興味を催さないものがあらうか、心身の發達未だ十分ならざる少年と雖も適切なる實習教育を施すならば、深奥なる農業趣味を有せしめ、農業そのものゝ中に隨喜の泉を發見して、農業に従事することは當に自己の無上の幸福であると考へ、農業尊重、郷土愛護の精神に燃ゆるに至るであらう。近時農村青年の間に嫌農思想瀰漫せんとし、農村脱走者多きを加ふるは、小學教育に於て上來述べたる如き教育施設を重視すること無かりしことが、見のがすことの出來ない原因であると深く信ずるものである。

我農村教育に従事する者はこの缺陷に對して深く想を致し、農業實習の施設を速に完成せしめなくてはならない。農村財政急迫の度加はれば加はる程益々これを必要とする次第であるから、町村理事者に於ても積極的態度を以つて十分にこれを援助すべきものである。

## 2. 品性の陶冶に資するの價值

品性の陶冶は、良師の教養に依ること最も大であるけれども、又その環境の影響

に俟つ處も大である。農業は自然の懷の中に於て人類生活の資源を開發し、天を敬し、人を愛するの極致を體驗せしむるものであるから、その感化を受くる處は蓋し絶大である。更に農業は、大自然の法則の下に柔順に行はるゝものであつてその努力の結果は、極めて正確に成績の上に表はるゝものである。故に何等の虚偽もなく、何等の秘密もない。隨つて之に従事する間に農民性の性質たる誠實勤勉の徳が養はるゝのである。惟ふに誠意ある一の實行は、實行の伴はざる數千萬言の修養談を聞かしまるゝに優る、教師の人格を以つて薰化するの度には限りがあるけれども、實行は人の努力の中に在つて、而して教育上效果あること前言の如くである。殊に近代の教育に於て缺ける處あるは精神の鍛鍊——この鍛鍊——と言ふことの眞の意義の徹底が出來ていないことである。既に度々繰返した如く、農業教育、特に農業實習の中には、偉大なる人格教育力が含まれて居る。この教育力を發揮せしめて、以つて教師の教育力の尙足らざるを補ひ、眞に敬天愛人の境地に到らしむべく努むることは、單に農村小學校に限らず、中學校、高等女學校等あらゆる種類の學校に於ても尊重しなくてはならない處であると信ずる。



この外人類の生活文化の根源に培ふ農業の體驗は人類生活一切に對する理解と信念とを惹起せしめ進んで社會奉仕の精神を啓培する等價值甚大である。

### 3. 宗教的情操養成に資するの價值

宗教の信仰は、人生理想の完成状態を客觀に投影して、天を畏れ、神を敬ひ、佛を崇め、これに絶對歸依することによつて、人格を統一し、永遠の生活を豫想せしむる事によつて現在の生活を淨化せしむるものであるから、幼年期より宗教的情操を養成して、その自然的の發育を助け、全生涯に於ける全行爲の正しき動機を與へなければならぬ。而して宗教的情操の發達は幼時期より兒童期へ、兒童期より青年期へ、青年期より成人期へと發達し、又種類の發達に於ても、未開より半開に、半開より文明に移るに従つてその宗教意識も、次第に低劣より高尚に進むものである。又その信仰の對象は、山川、草木、木片、石塊の如き有形的、感覺的の物から、英雄偉人祖先と云ふが如き、特定の人格的のものに進み、更に神佛の如き超人格の觀念のものとなり、又は自己を統一し得る原理若くは原則に信仰を繋ぐに到るものである。故を以つて宗教的情操の養成は年齢に依り、民度、國情等に依つて同一でないのみ

ならず、その教養の場所も或は家庭に於て、或は學校に於て、或は寺院教會に於て或は又劇場、作業場その他社會の種々なる所にて行ふ等一様ではない。今これを農村兒童の場合に就きて考察するに、農業的體驗即ち家庭及び學校に於て、農業的作業を課する場合に於ける效果の大なることは吾人の看過すべからざる處である。漸く學齡に達したる兒童に對して校庭の草花に水を注がしめ、花壇の雜草を採取らしめ、或は雛に餌を與へる等、動植物愛護の體驗をなし、且つ自然界との接觸を爲さしめることは、宗教的情操養成の有力なる教養の第一歩と云はなくてはならない。又彼の大早魃に慈雨を受けて甦生する草木の光景を見、早春芽生へ出づる新芽を見ては天日の恩恵を偲ぶ等は、やがて神佛の愛又は慈悲の有難きを悟り、従つて神佛に對して敬愛にして、之に依憑するの念を旺盛ならしむることが出来るのである。この外、眞面目なる農業勞働の結果、幾多の美果が生産せらるゝ有難き光景を見、その結果を體驗する時、誰か大自然の恩恵の有難きに感激せざるものなからむ。かくの如き農業的體驗、大自然的道場に於ける大感化の中に生ひ立たしむる農村味豊かなる教育が宗教的情操に大なる力あることは、更に叙説するを俟た



ない處である。故を以つて少年期に於ては、早くも七八歳の頃より土に親しませ農業的體驗教育を取入れることに留意せしめては、校庭の花壇、學校園の一部分をなりと擔當させ、漸く長じて五學年ともなれば、早くも農業實習に當らしめて然るべきである。小學校に於ける農業實習は、只に耕種のみならず、養蠶、養雞、養魚、植林等大自然の威力と思想とを滿喫せしむるに恰好の材料に滿ち滿ちて居る。又農園の收穫一段落を告ぐる時は、その生産品を神佛に捧げ、或は之を祖先の靈前に手向けしめ、以つて敬神崇祖の念慮を啓培し、國體の尊貴なる所以をも悟らしめるに到るのである。又農業の體驗と共に、他面修身、地理、歴史等と聯絡して、而して農業が人類生活の根本であり、民命の源泉であることを知らしめて、資生生産是佛道の眞意義を覺らしむる時は、農業は最も尊貴なる業務であり、大宗教であるとの信仰を持たしめることも出来るであらう。

#### 4. 國民公民的協同精神を涵養するの價値

實習地の經營は全體として協同的なるのみならず、部分的擔當の場合に於ても數名又は十數名を以つて共同分擔となす故、不知不識の間に協同觀念を養成し延

いては共存共榮の念慮を啓培し得るものである。

凡そ協同の必要を悟り、その尊貴なることを自覺せしむるには體驗に如くものはない。春播きて秋收むるまでの間に於ける農耕は眞に並大抵のものでないのである。この困難に打勝つて五穀の豊饒を捷ち得るには到底人力の協同のみでは爲し能はない處であるから神の大前に叩頭して職員生徒一同協同和樂の努力を祈念し神護を仰ぎ、而して十數名一團となつて責任を負ひ、刻苦精勵努力の結果收穫したる美穀の初穂をば伊勢大廟、明治神宮に献穀し、而して郷土の神前に捧げて奉告し感謝する間に於ける皇室尊崇、祖國愛に徹したる協同精神の涵養は、他の教育施設の遠く及ばざる深みある國民的、公民的施設である。

#### 5. 兒童生徒を通じて郷土の農業並に民風を改良し得るの價値

農業は自然の恩恵の下に營まれるけれども一方土地には報酬漸減法則行はれ其他風雨干魃等自然の迫害はこれを妨ぐるものであるが、然しこれ等に對しては人力の如何ともする能はざるものが多い爲に農民は長き年月の間に宿命的的人生觀を植付けられて著しく消極的となり、業務の上に進歩せる科學や技術を採り入



れて之が改善を圖らんとする態度に乏しい。従つて商工業の隆盛に赴くに反して、農業は常にその激甚なる經濟界に於ては落伍者たるの地位に取殘されつゝある状態である。かゝる農業者の經營に比しては假令小學兒童の經營とは云へ、科學を應用せる實習地は一際目立つた成績を示して居る。この事象は當に農民に對する大驚異であり、又農業への警鐘である。かくの如き學園に教養せられ、引續いて青年期に於て適切なる教育を受け、確固たる人生觀、職業觀を確立するに於ては延いては郷土農民への自覺を促すの原因となり、隨つて郷土の産業の刷新向上に寄與する處偉大なるものがある。著者が地方小學校の農園に於て實際に調査したる處に於てもその郷土の農業に劃期的刷新を與へたる實例に乏しくない。この外職員生徒一同野外に出で、土にまみれ、汗を流して働く情景を郷土に現出することの民心に與ふる感化は、實に大なるものがあるのである。

### 第三節 農業實習の本旨

上に述べた處に依つて、小學校に於ける農業實習の目的並に眞の教育的價値を

闡明する事を得たこの目的を達成するが爲には宜しく實習教授の主義方針を確立しなくてはならない。

第一に農業實習に於ては試験的施設を尊重することが肝要である。

實習の目的は既に教授したる事項を實地に應用してその理論を了解せしめ、應用的實驗或はその學理の正確なる事を立證する、證明的實驗を普通とするが、時には他日教授せんとする教材に對する出發點を與へ、若しくはこれが了解を容易ならしめんが爲めの經驗を與ふる、豫備的實驗を以つて目標とすることがある。

理科は自然物または自然現象を學習せしむるものであるが、農業科はその研究の結果を基礎として農業の改良發達を研究する學科なるが故に、何れも實驗を重んじなくてはならないが、特に農業科に於てはその學びたる理法を實際動植物の育成の上に應用する事を體驗せしめて、始めて確實なる知識とこれが適用に必要な技能の教授を全うし得るのである。故に試験的實驗的の計畫なき農業實習は到底所期の効果を收め難いのである。殊に農業の實習は相當長き期間に亘つて繼續するを必要とする、一作物の播種より收穫までには、數ヶ月長きは十數年を



要するものもある。随つてこの實習を爲さしめるには時と場所とに應ずる獨特の工夫と周到なる注意の下に、適切なる計畫を以つて試験的實驗的實習を爲さしめる事を要するものである。就中、果樹の如き長年月に亘るものは、組分擔として、同一樹木を在學中引續き擔當して施肥、剪定、整枝、摘果その他の實驗的實習に當らしむべきである。

第二に實習には教師先頭に立つて範を示し、踐導躬行、訓練の徹底を期せなくてはならぬ。

農業は、その業務の性質上土に親しみ、汗を流して働くものであるから、その實習教授を爲すに當つては教師の指導宜しきを得なければ或はこれを嫌忌し、或は性行粗野に流れる等、種々の弊害を醸す虞がある。これに反して、教師が農業に對し深き趣味と確固たる信念を有し然も農村生活に對して敬虔なる態度を持する人格の人なる時はその人格的感化と、農業本來の教化力とは期せずして尊き教育的成果を收めしむるものである。故に先づかくの如き熱意あり、人格優れたる教師を得る事が訓練徹底上、必要なるは云ふまでもない事であるが、更に學校經營の方

針に於て、實習地を以つて、兒童訓練の中心道場となし、精密周到な計畫の下にこれが徹底を圖らなくてはならない。勿論この訓練徹底の上には、學校長は先づ全職員に對してこの主旨を十分に了得せしめ、農業科擔當教師を援助して學校一體これに當らしむるを要する。

又一般教師は圃場の一隅に職員實習地を設け、農業實習を爲すが如きは上述の意味に於て最も適切なる施設である。又學校訓練の中心を實習地に置くの主義を徹底せんが爲めには、校地の隣接に實習地を設定して作物をして兒童の伴侶たらしめ、又これに親しみこれを愛撫するの機會を多くすることが肝要である。

尙訓練の方法に就いては作業に對して不屈不撓の精神を以つて當り、又誠心誠意、土壤を改良し、作物、家畜を愛護するの至念より不屈不撓の精神を以て風雨、旱魃、病虫害等自然の迫害の防除、土地の改良に努力するが如き、協力一致作業の完成に勵むが如き、農舎、農場の管理、農具の整理整頓等に強き責任觀を以つて當らしめる如きその一例である。要は、學校經營上の方針を農業的作業の上に移して、眞に生きたる訓練を施さなくてはならない。



第三は農業科の眼目たる農業趣味の涵養は主として實際農事を體驗する間に養はるべきものであるから、農業實習に於てはこれに應ずる施設方法を講ずるを要する。

然しながら農業趣味の涵養は漫然たる農業的作業に従事せしむる事を以つてしては到底農業趣味を涵養する事は出来ないのみならず、却つてこれを嫌忌せしむるに至る事さへある、故に作業の目的を十分に會得せしめ、學科教授と聯絡し、成敗の原因を推究して、原理、原則の動かすべからざる事を感知し、以つて推究的興味を喚起する事に力めなくてはならない。又生産品に加工し、或は之を調理して試食せしむるが如きは農業趣味の啓發に資する處が尠くない。

尙、農業趣味の養成と、勤勞に従事し、勞苦を嘗めしめることとは、兩立し得ざるやにも感ぜないではないが、實際の成績に徴する時は、教師の確固たる信念の下に適切にこれを行ふ場合に於ては、相當過度の勞作に當らしめるも何等弊害を認めない許りでなく、却つて農業趣味の啓培上、良結果を認むるのである。現今各地に行はるゝ農業的勞作教育の實績に徴する時は、益々その確信を深くするのである。

尤も著者は兒童の體質をも顧みず、過度の勤勞作業を課すべしと主張するのではない。勿論兒童心身の發育程度、作業の種類等に鑑み、適當に按配すべきことは言ふまでもない。

#### 第四節 農業實習地經營

今日小學校に於て、農業科が他の教科目に比して不振なることは、主として農業實習成績の十分ならざるに原因する處が多大であるとは、齊しく一般の認むる處である。故に實習教授の改善充實を圖るべしとの聲は、教育關係者のみならず、農政の局に當る者に於ても、又は農村有志の間に於ても、可なり強く叫ばれる處である。最近著者は地方を視察して、その聲を聞き、又實習教育の實況を眺めては、益々この感を深くするものである。而して、これが改善の方法如何の問題に就いては、教師、設備並に指導機關の充實等に亘つて大改善を加へる必要がある。以下これに對する所見を要述することとする。

##### 1. 教師



農村の高等小學校には農業専科正教員を設置することとし、而してその教師は農業に對する知識技能と確固たる職業觀を把持すべき事は言ふまでもないのであるが、更に一般科學並に哲學上の常識を有し、特に小學校の各教科目に對しても確固たる見識を有し、之等諸教科目と農業科との聯絡を圖る上に於ては十二分の力量を表はし得るものでなくてはならない。かくて始めて兒童の前に權威ある教授、訓練を爲し得るものである。また自己の有する農業並に農村に對する抱負、譚見を提げては、農村振興運動の中心に立ち、宜く民衆を指導し、その信賴の中樞となつて献身犠牲の奉仕的活動を爲す氣魄と實力とを養ひ、以つて重大な自己の使命を自覺し、これが達成に向つて奮闘已まざる國士的性格を有しなくてはならない。かくの如き教師は先宜く郷土を調査し郷土の天然的要素並に人的要素に精通し、而して産業の振興、生活の改善、自治の刷新興隆に對して、不斷の研究調査に力めて已まず、確固たる信念の上に立つて教育の實務に當るべきである。凡そ如上の事項は單に農業教員のみならず、學校長、その他教職員共に力むべき修養であると信ずる。著者は嘗て、農業補習學校教員の養成に當つて小學校教育に對して相

當の見識と實力とを有する師範學校卒業生並に小學校本科正教員有資格者を入學させ、農業教育、公民教育を授け、殊に實習による作業教育に重きを置き卒業後はこれを農業教員たらしめたのであるが、漸時上述の眞價を發揮し成績優秀なるものは次第にこれを學校長たらしめ又は教育の指導監督の局に當らしめられつゝある。今日農村の不振甚しく教育の刷新益々切實なるを加ふるに際し、農村に於ては漸くかゝる教養を有する教育者の遍滿せんことを要望するの聲高からんとして居る。學校長以下かくの如き教師が満ち／＼てこそ、始めて眞に農村小學校の特色を發揮し得るであらう。

小學校の農業實習に必要な土地を地目別に擧ぐる時は、田、畑、山林を主なるものとし、特別の場合として養魚及び蓮栽培等の爲めに池、沼を利用する事がある。而してその位置は、成るべく校地の隣接地にこれを設定するを理想とする。往還より正門に到るまでの道路の兩側に蔬菜園或は果樹園を設くる時は、學校をして農村化し且つ兒童をしてこれに親しましむる上に於て効果最も著大である。又校舎の南面の空地は日當りよくして早春、溫暖、作物よく成育するが故に苜又はチ



ユーツプ、スイートピーの如き草花栽培に利用する時は、園藝實習の目的を達する外に校庭を美化し、又は宅地利用の模範的實習を課する事に於て妙を得たるものである。又桑園、竹林の如きは校地よりも稍々離れたる箇所を設定するも宜しいが、出来得べくんば校舎裏手の日當りの好き箇所を撰ぶが宜しい。水田の位置は灌漑の便否により、必ずしも一定し得ないが、これ又成るべく校地に接近して設定するを可とする。苗代及苗床は校舎の南方日當りよく、且つ西北風を防ぎ得る温暖の場所で校舎に隣接し管理至便の箇所たるを要する。かくの如くすれば、學科教授と相俟つて實習を課し、兩者の關係を密にする上に便利なるのみならず、休憩時間には、自發的に觀察し、又休憩時間中に簡單なる手入、病虫害の驅除豫防を爲さしむることを得て兒童をして農業趣味を涵養するに極めて効果あるものである。林地は、普通の場合に於て、若干の距離をへだつる事を忍ばねばならない。然しこれを他面より考察するに、植樹又は林地手入の爲めに、半ば遠足を兼ねたる意味に於て、職員生徒早朝より實習林に出掛け、一日の楽しき作業の中に林業實習を爲し合せて、清新なる空氣を吸ひ、山地を跋涉して身體を練るの價値は亦教育上沒

すべからざるものである。實習地の面積は、幾許を以つて標準となすべきやは宜しく校下の實狀、各學年に於ける男女別兒童數、農業實習の回數及びその時數、實習地の種類等により適宜決定すべきものである。然るに一般的標準を示せば、故農學博士、稻垣乙丙氏は

水田 || 兒童一人に就き約二坪宛當

兩者の比一と四

畑地 || 兒童一人に就き約八坪宛當  
を適當とすると言つて居るが、實習作業を以つて兒童の精神的、肉體的鍛鍊をも爲さんとする場合に於ては、少くとも水田五坪、畑地十五坪はこれを必要なりと認め

次に考慮すべきは、實習地の地味は如何に就いては、理論上より言へば、郷土に存在する各種の土質を有せしむるを理想とするもかくの如きは到底望み得ない處である。仍つて、優劣二種類の土地を選び、然も上田、上畑を大部分とし、瘠地、低濕地、傾斜地等これを小面積に止めるが宜しい。是れ瘠地を選べば作物の成育十分ならざるを以つて附近農家の作物に劣るを免がれないのであつて、終に失望をまねき、



爲めに實習に對する趣味を減殺するに至る。さればとて、瘠地、低濕地、傾斜地の如きは、郷土に於て相當、大面積に存在するものであるから全然これを有せしめざることは當を得たことと云ふことを得ない。事情の許す限り小面積にこれ等を選定して、土地改良に力めしめ、又これが利用上の工夫を爲さしめて、以つて肥沃なる土地と異らざる成績を擧ぐるに力めしむることは、土地を親愛し知能を鍊磨し且つ工夫創作力を養ふ等農業教育の本旨に徹したる施設と言ふべきである。

以上は實習地の設備に關して注意すべきもの、中、主要なる事項に就いて要述するに止めた。その詳細なる事項に就きては他日改めて論ずることとする。

農業實習に必要な農具の設備に就いて特に留意すべき事項は、日常使用する鍬及び鎌は兒童各自に一挺宛與へて責任を持たしめる事が肝要である。何となれば鍬、鎌は恰も兵士の銃劍にも比すべきものであり、農民魂の宿る處である。故に兒童各自をして、責任を持つて手入し大切に保存せしむる事は、教育上、極めて緊切なる事であるからである。この理想よりせば、高學年に於ては、兒童家庭の許す限りに於ては、一つの學用品として自家の物を使用せしむるを可とする。

作物栽培に用ふる農具は地方によつて著しく趣を異にするものがある。故に以下一般的に使用せらるゝものを標準として示すこととする。

— 畑作用農具 —

品名	設備すべき數量等
一、鍬	上級生には自家用のものを持たしむるを可
一、唐 鍬	一學級に就き二挺
一、レ ー キ	一學級に就き三挺
一、ホ ー ク	同 上
一、シヨベル	一學級に就き二挺
一、移 植 鋏	實習組數の倍數
一、剪 定 鋏	三 挺
一、如 露 床	五 個
一、溫 床	二框以上、コンクリートにて永久温床とせば一層宜し
一、鉋	一 挺
一、鎌	實習組數、但し稻麥の收穫の場合は自家より持參せしむる事がある。
一、桶(カケヤ)	二 個
一、箕 飾	一 個











て畑地水田共にその設計書は相當綿密に之を作成し、單に栽培の過程を記載するに止めず、收穫、調製、販賣及び賣上金の處理に到るまで明に記載し、且つ上述の諸記録は、これを保存して將來の參考に供せしむるを要する。

實習地に栽培すべき作物は、一定の方針に基いて代表的なるものを選ぶこととし、その選に漏れたるものは見本園に栽培するを可とする。而してその作物選擇の方針は、栽培作業の難易、成長の遲速、實驗觀察との價值及びその地方に於ける輕重等に留意すべきものである。今これ等の諸點に考慮して、標準とすべき條項を示せば、

一、播種より收穫に到るまでの手入法の模式的であり、代表的であるものを選定する事。例へば、夏作禾穀類にては粟、陸稻、根菜類にては大根、馬鈴薯と言ふが如きである。即ち大根は人參、牛蒡等の根菜類中最も普通に栽培せられ、その栽培が法模式的代表的のものであるからである。

二、性强剛にして随つて栽培容易なるものを選定すること。作物が優秀なる成績を擧げ、美果美菜を產出することは何物よりも有力に農業趣味を涵養せしむる

ものである。例へば蔬菜類に於ては南瓜、馬鈴薯、玉葱、花椰菜、慈姑と云ふが如きである。

三、生長速にして、毎日、又毎週變化ある觀察、實驗を爲し得るものを選ぶこと。彼の蕃茄、南瓜の如きは日々著しき生長をなし、摘心、摘芽、人工交配、整枝等毎日又は毎週變化ある實驗を爲すことを得て、兒童心理に合致し、趣味涵養の上に又學習心鼓舞の上に効果が大きいである。

四、學科に於て授けたる理論を應用して試作し、又は學科教授に於ける實驗觀察資料として必要多き作物を選択すること。從來の學科教授が主として教室内に於て行はれたことは、該科教授の一大缺陷とする處である。將來の農業教授は出來得る限り實習地を教場となし、黑板の如きは實習地にも設備して、臨地教授を力めて行ふの必要がある。此の見地よりして作物の選擇を爲すには、言ふ迄もなく實驗、觀察上の必要の度を標準として採否を決すべきである。

五、郷土に於て現在重視せられる作物、及び將來望みある作物を選択すること。農業科は農業に關する普通の知識を與ふることを目的とするを以て、當然郷土に



於て現在栽培する作物及び將來有望なる作物を採擇すべきである。

尙、農業趣味及び農業常識の涵養に必要な作物の選擇標準の説明は見本園の項に譲ることとする。

見本園には普通作物、特用作物、園藝作物等の中より主要なるものを選びて栽培し、又時には珍奇なる品種を選擇し、農業趣味涵養に資するも妙である。而して一作物又は品種に充當する面積は、作物の種類により大小、分蘖力等性狀を異にするを以て適宜斟酌すべきであるが、大體三尺平方より、三坪までとする。尙、水稻にありては品種見本區を設け、其の府縣内に獎勵せらるゝ品種を栽培すべきである。

#### 第五節 農用動物の飼育

小學校に於て飼育する家畜は兒童心身の發達程度、實習經費の多少等の事情を顧慮して選擇しなくてはならないから、牛馬の如き大家畜にして、飼育の困難なるものはそれを避け、其他の家畜中より適當なるものを選択すべきである。さて兒童は、其の心理的傾向として自己の好むものを伴侶とし、これに親しみ、之を撫育す

る特性がある。而して兒童の一般に愛好するものは形貌溫雅優美にして、體質強健、動作活潑なるものである。然し乍ら、小學校に於ては家畜飼育の爲に、牧夫を設置しないから飼育、手入等に幾分周到を缺く虞がある。故に、特に飼育の容易にして、特別なる技術を要せざるものを選ぶがよい。又農業經濟の立場より見て、地方的に價值あるものを採擇する事に留意しなくてはならない。而して多數の家畜中にてこの標準に近きものは鶏である。著者は地方の小學校を視察して普通に行つて居るのは養雞實習であり、然も其の教育的効果は他の家畜實習に比して最も優れて居る。

これに次ぐものは養蠶であるが、これには相當の設備と、時間の配當上小學校に於ては稍困難の伴ふ嫌があるが、實際經驗の上に徴すれば、高等小學校生徒に於ては、これを實施して良好の成績を收め得るものである。前述の如く設備の上に稍困難を伴ふが如きも、最近發見せられたる簡易なる飼育方法を採用すれば、別に大なる支障なくして實習せしむることが出来る。要は、學校長及び擔任教師の考案と努力に依つて十分これを課し得るのである。



この外、兎、山羊は山間地方に於ては一般農家の飼育に適し、且つ児童心身の發達程度に順應したものである。又幼鯉を水田に放養し後これを適當なる養魚池に放養する事を得る場合に於ては、適當なる教材である。更に校庭、學校園の中に蜜蜂の幾箱を養ふ事も亦妙である。

これ等の實習はやがて児童を通じて、家庭の農業を促進し、又郷土生活に價值ある食品を生産して農村振興に寄與する處亦尠なからざるものあるに到るであらう。

以上の如き小家畜を飼育せしむる時は、児童はこれを愛育して不知不識の間に慈愛の念を啓培し宗教的情操の涵養上に效果極めて大なるものがある。又養蠶は、その飼育の過程に於て綿密周到なる態度を養ひ、時間を尊重し規律を守るの習性を養ふ等、その徳育的效果は實に偉大なものがある。又一方青年教育は普通に小學校に於て行はれるが故に、その地方に適切なる家畜實習を行ふ事は、青年教育に與ふる効果も亦没すべからざるものがある。

以上述べたるが如き價值あるに不拘、養畜實習は、小學校に於てこれを適切に實

施するもの、少きことは、實に教育上の缺陷と言はなくてはならない。全國小學校は速かにこれが調査研究をなして、一日も速かに實施されん事を望んで已まな

いものである。

- |                      |          |
|----------------------|----------|
| 1、養鶏用具               |          |
| 一、砂箱                 | 一種に付一個   |
| 一、食器                 | 同上       |
| 一、水入                 | 同上       |
| 一、巢箱                 | 同上       |
| 一、産卵箱                | 雌雞一羽に付一個 |
| 一、貯卵箱                | 一個       |
| 2、養兔用具               |          |
| 一、箱                  | 一箱       |
| 3、養蜂用具               |          |
| 一、巢箱                 | 若干       |
| 4、養蠶用具 (蠶量一匁を飼育するもの) |          |
| 一、蠶箔                 | 四〇枚      |
| 一、蠶筵                 | 六〇枚      |



一、掃立紙	若干枚
一、蠶網	六〇枚
一、蠶架	四〇枚を架する位
一、寒暖計	一個
一、乾濕計	同上
一、桑切臺	二個
一、桑切庖丁	二個
一、羽筭	三個以上
二、桑切鎌	同上
一、給桑用笊	四個
一、給桑臺	四個
一、桑披籠	四個
一、桑折器	若千個
一、秤	一個
一、天秤	同上

### 第六節 農産製造の實習

農業は、原始生産を以つて主たる内容として居るが、更にこれに加工することを

副業として行ふ。例へば、農産製造の如き、林産製造の如き或は亦各種農業手工の如きこれである。農産製造は、男女共に之れを課すべきであるが、女子に在つては家事科手藝と聯絡を保ちて十分にこれが徹底を圖るべきである。

小學校に於て採擇すべき農産製造實習を擧ぐれば次の如くである。

- 一、日常農村生活に必要な普通の食品、例へば醬油、味噌、各種漬物、蔬菜の乾製、納豆、ジャム、ゼリー、トマトソース等
- 二、郷土に於ける特産品の防腐、貯藏、例へば筍、果物、蔬菜等の罐詰、鹽藏、糠藏等の瓶詰
- 三、郷土に於ける生産品の製造加工、例へば澱粉、製茶、白柿、切乾、麥稈、眞田、甘酒

右に述べたるものは、高等小學校一二學年に於ては兒童の身心發達狀況設備、其他の事情に制せられて容易に行ひ得ざるものもあるけれども、女子に於ては、一の如きは家事科と聯絡して是非とも實習せしむる必要がある。又男子と雖も三學年に於ては成るべくこれ等の實習を課すべきである。

- 四、郷土生産物を原料とする農業手工、我が國農村の疲弊を救濟する必要方法多



々ありと雖も、適當なる副業を選択してこれを大量的に生産せしむることは、最も有力なる方策の一である。然して、副業の原料となすべき物の中で如何なる農村に於ても容易に、然も多量に産出せらるゝは、藁及麥稈であつて、又山間地方に於ては竹、木材等を生産する。故に小學校に於て、之等を原料として農業手工を實習せしめることは極めて價值ある事である。殊に勞作教育高調せられ、従つて手工科が小學校に於て重視せらるゝに際し、これが農村化せられたるものと認むべき農業手工を振興することは、極めて適切なる施設と言はなくてはならない。左に農業手工の重要なものを示さん。

1. 藁を原料とする手工

イ、繩類—大小繩、各種器具に用ふる繩

ロ、編物類—草履、牛馬沓、各種蓆、蓆筵、蠶簇、擔架

2. 木材を原料とする手工

養畜用具の簡易なるもの、農場用表札類、簡易なる木製品及び農業實習建物の修繕

3. 金屬等を原料とする手工

養鶏用金網、農具の研磨、三和土、コンクリート、壁塗等

4. 竹材を原料とする手工

間尺、竹鎖、天秤棒、害虫驅除用の竹筒、竹製農具の修繕、竹垣、簡易なる花器等

以上の教材を適宜選擇することは、現今小學校に於て行はるゝ手工科を農村化する所以であつて、教育的價值大なるのみでなく、相當市場にまで進出し得る見込があるから農村不況時代とは言へ之を實施するは經濟上の見地よりも認容し得ることである。更に近年一部の人に依つて高調せられつゝある農民美術は、これを小學校の農業手工の参考とすべきものがあるのであるから、教師は之に就いても調査研究を爲すべきである。又地理科と聯絡を保ち、全国各地に於ける手工的名産を蒐集して、農業手工の参考とすることは、延いて地方産業にも資する處が少なくない。尙、農業教師は、手工擔當教師と聯絡して、農業科に於て課し得ざるものは、手工科に於て之を課することとし、又重要なものは、手工及び農業兩科に於て課すべきである。



農業手工實習に要する時間は、到底潤澤に之れを與へ得ざるを以つて、教材の種類に依りては、家庭に於て實習せしめ、その製作品を學校に持參せしめて之れを批評し指導することもあるべきである。

此上の農産製造加工及び手工實習に關する用具は次の如くである。

一、木	二	個
一、金	同	上
一、依	若	千
一、鍔	若	千
一、鋸	三	個
一、鉋	一	個
一、鉋	若	千
一、針	同	上
一、藁	若	千
一、釜	若	千
一、釜	五升	個
一、釜	五升	個

一、鍋	若	千
一、組	二	枚
一、庖	各	種
一、桶	大中小	若千
一、漬	若	千
一、甕	若	千
一、柄杓及び杓子	若	千
一、臼	一	個
一、杵	一	個
一、笊	若	千
一、二	若	千
一、鐵	若	千
一、蒸籠	一	組

右は設備の大體標準を示したのであるから、實際に設備せんとする場合は、地方産業の狀況及び經費を考慮して適當に按配すべきである。



## 第七節 農業實習用建物

上に述べたるが如き、各種の實習を爲すには各々相當の建物を設備する必要がある。然るに、實習の多種多様なるに適應する各々の建物を設けることは限ある農村財政に於て到底負擔し得ざる處であるのみならず、農業の本質に鑑みる時は建物其他の設備は、出來得る限りその建築の方法内部の構造に工夫を凝らして節約を旨とすべきものである事を忘れてはならない。例へば、一の農舎を造りその内壁に添つて農具を秩序正しく整頓し、又その一部を區劃して穀物の貯藏、肥料、農産製造品、養畜飼料等を貯藏することとし、屋根裏には農具の一部、藁、竹等を置くこととし、軒には庇を出して堆肥舎、家畜舎を設くるが如きである。

以上は大體の標準を示したに過ぎないから各自に工夫を凝し、獨創的な構造設備を爲すべきである。

尙之等の建物の位置は作業上の便利、學校衛生等に考慮を拂ひ、なるべく實習地に近く、且つ家事室、小使室、井戸等に距りたる處を選定すべきである。

## 第八節 農業實習指導法

實習指導の方法を適切ならしむるに必要な設備に就いては既に述べたる處であるが、この設備を十分に運用して、教育の目的を達せんには、實習指導その宜しきを得ざるべからざる事は論を俟たざる處である。而して實習指導の上に於て、第一に考究すべきは實習地の設計である。小學校では既に述べたる如く、學級分擔圃、見本圃、實習林等とし、學級分擔圃に於てはこれを數組に分ちて共同耕作せしめ、見本圃及び畜圃は全生徒の共同經營とするを原則とし、都合に依りてはこれを適宜或學年に主たる責任を持たしめる事がある。而して學級分擔圃は、同一區を年々聯絡して擔當せしめ、組合分擔となす時は兒童の競争心と名譽心とを適當に利用して成績の向上を圖ると共に、共同精神の涵養に效果大なるものである。然るにこれを個人擔當とせば、徒に利己心を煽るの弊害がある。故に學級分擔圃は組分擔とするを適當とする。

學級分擔圃は各組に於て教師指導の下に設計書を作成し、これに基きて栽培し、



製産品はこれを調製して販賣實習を行はしむること既に述べたるが如くである。實習の設計成る時は、教師は實習管理の方案を作成し、實習全體の運営を適當ならしめなくてはならない。教師はこの實習運営の主能者として生徒と一體となつて經營に従事すると雖も、其根本に於て教育者として實習を教育的に十分に價値あらしむることを忘れてはならない。今教師の爲すべき任務の主要なるものは、一、實習監督、二、實習設計、三、實習年中行事作製、四、日々の行事、五、各種設備の保管、六、收穫物の處理、七、收支計算、八、經費豫算案作成、九、諸帳簿の記録及び保管、十、各種組合、團體及び當業者との聯絡提携等である。

以上の設備整ひ、管理の方針定まる時は、次いで實習教授の方法を研究して適切なる指導をなさなくてはならない。農業實習を適切に指導せんとするには、教材の取扱宜しきを得なければならぬ。教師は自ら實習作業に便利なる服裝を整へ所定の兒童集合の場所に始業時刻前に出で、始業時刻の合圖あるや直ちに兒童を集合整頓せしめ、出缺を正確に點檢し、然る後當實習の組分けを行ひ、而して後實習の種類に應じて適切なる説明をなし、各自實習場所に就かしめる。終了の際

も同様所定の場所に整頓せしめて、正確に點檢し、當日實習に關して公表並に適切なる訓諭を爲す。而して教習の際に於ける指導に就いては、教材の種類により適宜の取扱を爲すべきものであるから、以下種類別に順を遂ふて説明することとする。

第一、農業の學科教授に於て既に授けたる原理、原則の證明又は實驗をなすものは、種子の輕重と、成育並に收穫との關係、播種の時期、深淺疎密等の影響、肥料試驗、果菜果樹類の剪定、整枝法の如きものであつて、之等の實習に際しては、先づ既授事項の復習をなし、當日實習の目的を明瞭ならしめ、これを農業筆記帳に記入せしめ、且つ試験、實驗に關する説明をなして後作業に就かしめる。作業終る時は、當日行ひたる試験又は實驗に就いて爾後日々觀察すべき要項を問答法によつて會得せしめ、且つこれを農業筆記帳に記入せしめ、特に觀察の要點を具體的に知らしめなくてはならない。例へば、蕃茄の剪定に就いて實驗觀察せしめんには、先づ結果の習性を復習して然る後第一回の剪定をなし、之より主枝を出さしめ、爾後は側枝を剪定して、専ら結果枝をこれに着生せしむべき事や結果枝の剪定法、葉の剪定法、枝條



の縊り方等を正確に授けるが如きである。又農場には黑板を具へつけて、隨時觀察並に手入上注意すべき事項並に偶發事項を記載して觀察の指導に遺漏なきを期せなくてはならない。

第二、主として技能の熟練を目的とするものであつて、例へば耕耘、畦作、播種、農産物加工、農業手工、土地丈量の如きものである。之等に就いては先づ教師は、實際に就いて示範をなし、特に作業の急所を分解的に説明して、然る後實習に當らしめる。實習作業中には、全體的に批評し、又個別的に指導する。例へば、稻の除草實習を課する場合は、先づ學科教授に於て授けたる要點即ち分蘗期に於ては根元の土を搔除きて淺柱の形となし、分蘗を促進し、最後の除草には根元に土を押寄せて深柱の形となし、以つて無効分蘗を抑制すること、又温度低き雨天よりも、温度高き晴天に於て行ひ、土壤を温め、根部の發育と、肥料の分解を促すこと、稗と稻との區別、水田雑草の種類、性狀、除草せる雜草の押込方、除草前後の灌排水の方法、除草中の病虫害驅除、枯損、其他の原因による補植等の事項に就いてよく復習問答し、行はんとする除草實習の理論と實際方法とを明にし、これを記帳せしめ、然る後作業に就かしめる。

教師は生徒の後方より身體の構へ、操作、作業の狀況等を見て常に懇切に指導し、此の間に於て、學科の理解を進め、作業の習熟を圖ると共に學習の趣味を喚起し、且つ農民的躰け即ち訓練の徹底を期しなくてはならない。

第三、學科教授の中には實習する事に依つて容易に理解する事が出来るものが多いので、斯くの如き教材は實習と同時に進行するべきであつて、例へば鹽水選、病虫害豫防驅除劑、接木、壓條、挿木等の方法の如きものであつて、之れが教授に當つては、周到なる準備の下に適切なる方法を講じなくてはならない。先づ、目的を指示し、理論及び操作の順序方法を授けて、然る後その順序に依つて作業に當らしめ、之れを終りたる後、教科書に依つて理論及び方法を纏め、其の主要點を記帳せしめることとする。

第四、調査、記録、計算等農業經營に關する實習、例へば各種作物の經濟的價值を調査し、農場日誌、設計、農業實習諸帳簿等の記録、收支計算、年中行事の作成等の如きである。これに就いては、調査の方法を授け、又は適當なる問題を與へて之れを解決せしめ、或は老農や、實際家の意見を聴取せしめ、精農家の農業上に於る新記録を調



査せしめるが如きことに當らしめて、教師は適當に之れを輔導し、兒童の自發的活  
動力、工夫創造力を養成する様力めなくてはならない。  
兒童をして自宅に於て實習せしむる事は、教育上極めて意義深く、效果顯著なる  
ものがあるのである。

### 第三編 農村青年教育論

#### 第一章 農村青年教育の本義

青年教育は、青年をして何處に住ひ、何種の社會的責任を分擔せしむべきやの目  
標を明にし、而してこれを基調として其方針を確立しなければならぬ。現行制  
度に於て青年を教育し修養せしむる機關は實業補習學校、青年訓練所及青年團の  
三である。而してこれ等の機關は互に有機的聯絡を保ちながら各その職能を發  
揮しつゝ、青年教育の理想を實現しなければならぬ。

抑々青年教育は小學教育の基礎の上に勤勞を第一として公民教育、職業教育及  
び體操教練を施すことに依つて人格教育を完成し、以て善良有爲なる國民、公民を  
養成するにある。先づ小學校に於て、將來國家の善良有爲なる國民、公民たるべき  
礎地を築き又健全なる人生觀の萌芽を生ぜしめるのであるが、かかる礎地の上に  
勤勞教育を徹底し、かかる萌芽を愈々長養せしめ眞に國民、公民としての人格を完



成し、確固たる人生觀を確立せしむるのが即ち青年教育の目的であり、且つ任務でなくてはならない。人格の完成とは生活の整理でありその調和を圖ることである。

而して生活を整理し調和する爲には、内的生活を調和すること其の一、自己と自然界との關係を調和すること其の二、自己と社會との關係を調和すること其の三である。この三つが完全圓滿に行はるゝ時に於て、眞に人格完成せりと言ひ得るのである。

其の一は主として修身、公民、國語、歴史等の普通學科及び唱歌、圖畫、手藝、手工等の藝術的學科目の教授並に宗教的情操陶冶に依つてその目的を達することが出来る。其の二は地理、理科、職業科等の教授によつてその目的を達し、其の三は、實業、手工、家事、裁縫の如き職業方面の學科目及び地理、歴史、公民科等の諸學科目によつてその目的を達することが出来る。この意味に於て、精神科學的學科にのみ重きを置きたる教育は現實を離れた概念の世界を打立てるのみであつて、眞に實生活に即したる理想生活にまで到達せしめることは出来ない。故を以て人格教育は單

に精神科學、自然科學、社會科學的の學科目即ち所謂普通學科目のみを以ては到底これを全くすることは出来ない。其上に職業的學科目による教育、體操教練を施すことに依つて始めて眞の人格陶冶を遂げ得るのである。青年教育に於て職業教育、公民教育と體操教練を三大眼目として特に重きを置く所以は實にこの點に存するのである。

以上述ぶるが如く、青年教育は青年に對して新時代の國民生活、社會生活に適應する人格教育を徹底せしむるにあるが故に、從來の教育が陥りたりし抽象的概念的教育はこれを探らずして、實際生活に即し郷土に立脚したる教育を爲さなければならぬ。即ち教室に閉ぢ籠つて行ふ活字の教育にあらずして、郷土及び郷土生活の全體が教室であり教材である處の教育でなくてはならない。この主義を眞に實現せる學校に於て教養せられたる青年こそ實に新時代の國家社會が待望する國民であり公民である。從來の青年教育は小學校を卒業し上級學校に進學せざるものを對象とするものであつたが、近年中等以上の諸學校を卒業せる者も、亦青年團員中に多數に包含せられ、これ等は前者と相伍し、相握手して修養し活



動しつゝあるのであるから、今後青年運動はこの趨勢に應じて進歩發展せるものでなくてはならない。

昭和五年十二月文部大臣が青年教育擴張に關する訓令を發したる中に於て、中等以上の諸學校に於ても、教職員をして出來得る限り青年教育に盡力せしむべきことを命じたるは、實にこの種の比較的教養ある青年に對する教育を充實せしめんとする趣旨も多分に含まれて居る。此意味に於て中等學校、高等學校又は大學の擴張運動即ち成人教育運動の如きは今後の青年教育に大に取入れなくてはならない處である。要するに從來の青年教育の觀念と、今後の青年教育の觀念とは、多少その趣を異にするの趨勢にある。隨つて其の教育の方法上に相當改善を加ふるの必要あることを知らなくてはならない。

## 第二章 農村青年教育の眞價

### 第一節 農村振興と青年教育

青年教育の徹底は農村振興の根本也。現今の青年教育機關は、實業補習學校に

しても、青年訓練所にしても、青年團にしても、何れも家庭の職業に従事しつゝ、其の傍ら學習し、修養し得るの制度であるから青年は、極めて自由に就學しつゝ、一方に於て一家經營の中堅となつて働いて居る。故に彼等が眞劍に勉學してその學びたる處を直に家庭生活、郷土生活に實現する時は、一家經營の上に又郷土振興の上に貢獻する處大なるものがあるのである。現今地方青年教育の狀況を視察すれば、かくの如き事例は到る所にこれを見ることが出来る。例へば生徒の家庭實習地、共同實習地の如きは現代の進歩せる科學を應用し、又産業當局の獎勵する農業政策を取入れて、極めて新鮮味ある經營を爲し、青年の學習に資すると共に、地方産業の改善振興上尠なからざる功績を擧げつゝある。かゝる事象は只に青年の修養、一般農家の啓發をなす上に効果あるのみならず、近來頗る萎微衰頹に傾きつゝある農村に清新の氣分を漲らせ、農村振興の機運を此處に勃興せしむるのである。著者は從來地方に旅行して斯かる事例を目撃し、益々斯教育の眞價を認めて居る。例へば實業補習學校専任教員や青年が中心となつて稻三化螟虫の豫防に關する研究をなし、その成績が家庭實習地に表はれ、更にこれが郷土の全般に及び終に郡



農會の獎勵する處となり、年々郡下に於て二十萬俵の增收を爲すに至りたる如き、農業開發上驚異すべき功績を表はした事例は枚擧に遑ないのである。

曩に文部省は公民科教授要綱を制定し、これを地方青年教育の上に實施せしめ、特にその方法は實際生活に即して行ふ様指導獎勵を加へた爲に、漸くその効果は青年の日常生活に表はれ、更に青年を通して郷土民衆の自覺を促し、社會改善の上に顯著なる効果を擧げつゝある。かくして共存共榮の精神、社會奉仕の精神は漸く青年の頭腦に植付けられるに至り種々なる組合團體の組織並にその活動や共同的運動の如きは青年を中心として行はるゝに至つた。例へば産業自治、衛生、社會教化の如き民衆の輿論やその實行に俟つべき事項に就ては男女青年が中心となり先驅となつて民衆の間に健全なる輿論を作興し又は實行を促すに至つた。かかる傾向は青年をして愈々農村振興に對する確信を強め希望に生かしめ此處に献身犠牲の努力となつて、漸く萎微沈類に傾きつゝあつた農村には勃然として新機運が湧き出づるを視るに至つた。農村振興の要諦は郷土の自然界及人事界の萬般の事象をして、千態萬様變化の間に自ら調和統一を保たしめて、此處に獨自

の農村文化を構成せしむるにあるのである。かかる調和統一ある田園美の創作を爲さんには郷土に立脚せる、獨創的な文化運動に依らなくてはならない、此處に於てか先づ郷土の調査に基き美點はこれを長養し短所はこれを補つて自然の調和統一と、人事の調和統一とを遂げしめ、更に進んで、この兩者を渾一體とせる獨自の一大藝術を成し農民をしてこれを喜び、これを楽しんで益々その開發に努めしむるにある。而してこの境地を開拓せんとするには、進取向上の氣分に燃え、創造建設を喜ぶ青年期の教育を十分ならしめて其の奮勵努力に俟つの外はないのである。世の農村振興を希ふの士は宜しくこの根本問題に着眼してこれが達成に向つて精進しなくてはならない。農村文化建設の要件多々ありと雖も、これを要約する時は次の數項と爲すべきである。

#### 一、自然的要素の調和統一

#### 二、人的要素の調和統一

##### イ、農民性の啓培

##### ロ、社會生活の充實



### 三、國力の源泉

#### イ、國民糧食の生産

#### ロ、國民體力の源泉

凡そ一國の盛衰を卜せんには其の國の山林を見るべしと言へる如く、一郷一村の盛衰はその山野の形相に依つてこれを卜することが出来る。青年が自覺して郷土の開発に努力し民衆これに共鳴して協力せる農村を訪れるならば山には造林よく行はれ又田野には學問技術の應用にかゝる新式農法が展開せられて大地の力は湧出して時に精繭を結び時に美穀を生み出して此處に、大自然の調和と統一が行はれるを見る。この調和統一に満ちたる平靜雅健の郷土に融和渾一せらるべき村民生活を顯現しなくてはならないのであるが、これ亦青年の自覺奮闘に依つて着々創造建設されつゝあるのである。

この豊なる自然の抱擁の中に、古昔より傳はり來りし民謡、舞踊等が人々をしてその藝術的感興に陶然たらしむるは、素朴にして純真なる農民性の特質が極めて自然に表現されて平靜雅健なる四圍の自然と調和融合し此處に田園独自の藝術

を顯揚するからである。この藝術的創作は只に民謡、舞踊の如きに限られず、日常生活の一言一行の間にも示現されてゐるのである。

由來農民は、その精神的特質として、心志潔白にして利慾の念薄く、誠實、勤儉にして風俗敦厚、質朴にして虚禮を退け、獨立心に富みて而も從順に、忠君愛國の念厚く、献身犠牲の精神に富むのであるから、國民元氣の源泉であり將又國民精神の中樞であり、眞に國を守るの民たるのみならず、この精神的雰囲気よりして、善良なる經世家、政治家又は武人を出だし、動ともすれば浮華矯激に陥り易き、都會の風俗を中和し、健實なる一國文化を建設するものである。

斯かる精神力の表現されたる郷土生活は一家の經營に於て、自治の運用に於てその他、組合諸團體の活動に於て、皆その特色を發揮し社會生活を充實するのである。

生々發展、地に満たんとする我が國人口の増加は今や當に九千三十萬人を數へ、多々益々糧食の充實を迫つて已まざるに際し、これが供給の重任を果すものは農村である。農民大衆が土に親しみ、郷土に安住して、生々化育をこれ樂しみとする



に於ては、尙將來永く糧食の缺乏より免かれることが出来やう。

大自然に調和して相應はしき民衆の身體は、筋骨隆々、強剛にして、調和ある發達をなし、質實剛健なる精神を伴はなくてはならない。この健全なる體力、この健全なる血液は都會に流入して、市民の體位を向上せしめ國民保健の源泉を爲すものである。

斯かる農村文化の開發運動は青年の自營奮闘に依つて始めて實現せらるゝものである。農村振興の根本義諦は青年教育の擴充にありと斷言するも敢て過言にあらずと信ずる。

## 第二節 農村青年教育の特色

青年教育は、一般中等教育と對立せる獨自の貴重なる生命がある。青年教育の振興を圖るに當つては、教育當事者は勿論、一般大衆の絶大なる後援を俟たなくてはならない。故に先づ從來の教育觀より脱して、新時代の教育觀を創生し、この新教育觀に立脚して、始めて眞に青年教育の興隆を圖ることが出来るのである。而し

てこの新教育觀を建設するには、青年教育と同じく青年期の教育たる中等學校に於ける教育とを比較してその使命と效果とを検討する必要がある。現代教育は、世界的に社會生活の中に醗酵せられたる思想上經濟上の一大颶風の前に立つて居る。随つて學校に於て、抽象的、概念的に教育せられたる者は今後の實社會に立つて、勤勞を第一とする奮闘生活に適當しない。即ちその蘊蓄せられたる概念は、頭腦の中に飽滿するとも一度これを生活に役立たせて、自然及び社會との調和を遂ぐるに至らしめ、内的生活の調和と相俟つて眞の人格完成を期するの點に至つては、實に遺憾の狀態にありと言はざるを得ない。而してこれが實證は我が國現下の世相が最も雄辯にこれを表明して居る。かくて教育内容の刷新は必至の國策として重視し實行されつゝあるのである。かくの如く一般教育が時代的大刷新の渦中に在るに拘らず、夙に制度を刷新して公民教育、職業教育を二大旗幟として毅然として時代の要求する目標に邁進し來つたのは、唯一青年教育あるのみである。今斯教育の特質を擧げて説述せんとする。

一、青年をして日常一家の興隆と郷土の開發に眞劍に努力せしむることそれ自



體が青年教育の本質である。

凡そ青年教育は職業に對し敬虔的態度を持し、農村開發を以て生涯の事業とする奮闘主義の教師に依つて行はるゝが故に、青年をして農業を尊重し郷土を親愛して、専心その開發に努力するの良農民たらしむるのである。故に又この教育方法は、植民地發展上必要なる基礎訓練である。即ち斯教育に依つて養成せらるゝ熱烈旺盛なる奮闘的精神と、堅實周到なる經營的才能等の發揮によつて、はじめ海外異郷の地に民族發展の新天地を建設するの難事業を達成し得るのである。

地方農村の開發上爲すべき事業は山積して居る。而して之れが解決は何種の教育を受けたる青年に依つて爲さるゝやを考察するに、中等諸學校卒業生は實業學校卒業生の一部を除く外、大抵官吏、實業その他の職務に従事して郷里を離れるのであるから、勢ひ青年教育を受けたる大衆青年がその局面に當つて活動すべきものである。青年が郷土に於て如何に活動し、又は修養すべきかは此處にこれを省略するも、一般中等教育に比して独自の尊き使命を果すことを此處に指摘することゝした。今後の農村を背負つて立つべき農民は實に上述の青年教育を受

くべき青年である、眞に青年教育は農村開發の根本問題なりと謂はなくてはならぬ。

青年教育は自家職業に就きて實際的且つ専門的に學習せしめる生きたる教育である

最近農業學校規定は改正せられて、同校經營の上には相當に自由を認められ、特に専門的なる事項に亘つて、狭く深く教育することをも認められた。又卒業生を或期間召集して再教育を施すこととしたるが如き眞に時世の要求に應じたる名案と云はなければならぬ。然るに、現代社會の要求に應ずると共に家庭及び郷土實生活に對して極めて適切に合致せるものは現代青年教育である。何となれば、青年教育に於ては、郷土全野を學校となし、或は共同實習地を作り、或は個人實習地を設けて、農業の實地研究を爲し、或は家庭及び郷土の生活に出發して公民教育を施すのであるから、その學ぶ處は、直ちに自家農業の改善であり、又一家の興隆、郷土の開發運動である。又生徒の學習、それ自身が農業的生産であり、従つて教育即生産である。他の一般學校が公的設備にて農業實習を爲すに對し、青年教育に於け



る實習は、それ自體が生きたる自家の生産經濟であり、その成績の良否如何は直ちに家庭及び地方農業の振否に關はるものである。此の如く一舉にして生きたる教育を施すと共に地方産業經濟を充實せしめ得る處に、斯教育が他に優越せる生命を有することを認め得るのである。

一般中等學校は少數子弟の教育機關なるも、青年教育は大多數の産業公民の養成機關である。

小學校卒業者にして中等學校に入學する數は僅々二割にも達せず、爾餘の八割餘は當然實業補習學校に入學すべき者である。

この無慮六百五十六萬人に達する大衆青年が、實業補習教育を受けざるべからざるものであり、而して二十歳迄の青年大衆は、實に八百萬人を越ゆるの實況である。これを以つて見るも、斯教育が如何に時代の待望に應ずる新教育たることをかを明知するに難くない。

一般中等教育は醇朴性を損する處あるも

青年教育は其の事殆んどなし

教育の効果が環境の影響を受くることは、今更ら此處に論ずるまでもない。殊に農業教育の如く、自然を對象とする實務に關係するものに於ては、一層その著しきものあるを認めるのである。かくの如く郷土に於て、都會の悪影響と隔絶して行はるゝ青年教育は、實に理想の農民教育である。單に教師の人格力に依るのみならず自然の大感化力の援助を受け、此處に始めて眞乎農民教育の徹底を期し得るのである。

青年教育は經費を節約して

露天學校の特色を帶ぶ

一般中等學校が校舍、設備殊に其の經營に巨費を要するに反し、實業補習學校及び青年訓練所は簡略な經費及び設備によつて行はれ、然も郷土の自然に親しむ露天學校の特色を帶びしめ、土に親しみ郷土を愛する國民を養成する。

農村青年教育が郷土の全野を教場となし、實生活に徹したる教育をなすことは已に述べたる處である。故にその教場教材は郷土に展開する自然及び郷土生活の全野であつて眞に實生活に即せる教育を施し得るのである。此處に露天學校



の特色を帯ぶる青年教育の優越性を認識せざるを得ない。殊に近年に於ける我國教育界に往々壯麗なる校舎の建築を競ふ風潮ある事は、國家並に地方財政の急迫を告げ、且つ農村生活の危機を招來しつゝある秋に際し、此の風潮を見るは、新國民を養成する教育としては、斷じて認容すべからざる傾向であり、一日も速に打破せざるべからざるものであるが、農村青年教育が時代の尖端に立つて露天學校を以つて、その旗幟となすことは誠に我が國現代教育界の誇であらねばならない。夫れ吾人の理想は青年教育をして昭和維新の事業に參畫すべき國民を養成せしめなくてはならない。熱烈なる祖國愛と眞摯なる職分精神に満ち／＼たる國民を養成する青年教育の道場は當に「昭和の松下村塾」なりと言ふべきである。凡そ青年教育に當るの士はこの意圖を以つて奮闘主義の大旗を掲げて精進努力する處がなくてはならない。

以上述べたる處によつて、青年教育が現下最も急を要する文教問題であり、又國家問題であることが明になつたのである。故を以つて吾等は國を擧げてこれが廣充振興に努力されんことを切望して已まないものである。

### 第三章 農村青年教育の缺陷

#### 第一節 緒言

青年教育に従事する人々は常に其の重大性を叫ぶと共に、この重大なる事業に對して、國家社會が更に一段の努力と援助とを惜まざらんことを要望して居る。

翻つて、斯教育の現況を眺むるに男女青年相率ゐて修養に力めた爲めにその成績漸く顯著なるを致し、斯教育を受けたる者にして自治産業その他の方面に大なる貢獻を爲したるものも尠くない。輒近社會の情勢は更に一層青年の教養を高め資質の向上を圖るの要切なるものあることを痛感する。即ち今日の青年教育に於ては尙今後新しき努力を要すべき幾多の取殘されたる部面の存することを看過することは出来ない。而してこの取殘されたる部面あるが爲めに斯教育の眞價を發揮し得ざるものが尠くない。かゝる實情にある地方にては到底自治團體が安んじて經費を増額傾注し得ないのである。故を以つて斯教育の任に當るの士は速に今後努力を要すべき缺陷を調査考究し其の缺陷を補ひ、實績を擧げ社



會をしてこれが擴充を迫つて已まざらしめるの機運を作興し、かくて國家及地方自治團體が安じて積極的態度に出で得るに至らしめなくてはならない、左に現今青年教育の缺陷を要述せん。

## 第二節 農村青年教育方針の缺陷

教師の教育力が教室の中に局限せられ、門外一步をも踏み出さざるの傾向は、青年教育の上にも浸潤しつゝある。現下、國家社會が經濟上、思想上其の他各方面に行詰りを生じたる原因は勿論種々錯綜せるものあるべしと雖も、概ね上述せる如く近代の學校が社會との間に高さ城壁を築きて行はれたるに因る事も亦大なることを見逃し難いのである。然るに此の病弊であり、大缺陷であることが最も自由郷土に即して建設せられ、生活其の物を教材して行はざるべからざる青年教育に浸潤しつゝあることは實に其の生命を蝕まるゝものと言ふべきである。斯かる精態にある青年教育は到底その眞使命を達すること能はざるに至り、全く有名無實の境遇に陥つて青年及び村民の信頼を裏切り、遂にはこれが存立の基礎を

も危くするに至るであらう。青年教育の急務は正に其の社會との間に於ける障壁の徹廢にある。これ著者が全村教育即ち郷土全野を以つて教場と爲す露天學校を青年教育の新方針たらしむべしと主張する所以である。

凡そ教育は過去の社會の遺産たる文化を被教育者に傳達すると共に、これを基礎として新文化を建設創造せしめなくてはならない。然るに従來我が國の教育は西歐の文化を模倣傳達するに急にして、吾が國獨特の文化を傳達すること、殊に郷土文化を十分に傳達する點に於て甚だ遺憾であつた。近時郷土教育の勃興しつゝあることは模倣思想の反動と見るべきである。而して、教育は斯かる文化の傳達模倣を以つて満足せず新しき文化を建設する力を養はなくてはならない。これに就いては教育方針に於て、工夫獨創の精神を養ひ、勤勞を尊ぶの習性を啓培し、奮闘努力以つて産業を起し、之を基礎として精神文化の建設に貢献するの獨創的、建設的の性能を養ふ事が必要である。然るに今日の青年教育には今尙抽象的概念的教育行はれ、模倣教育より尙一步をも踏み出だし得ざるものが少くない。これ青年教育が社會より重視されざる一原因と云はなければならぬ。著



者が後章に於て工夫獨創的啓培を以つて青年教育の重點となすべしと力説せんとする所以は此處に在る。

青年教育の眞使命を果す爲めには、先づ村民の信頼を受けて而してその總動員の援助を受けなくてはならない、青年教育が全村教育、露天教育でなければならぬ性質に鑑み、特に村民の支持及び後援を必要とするものである。而して村民總動員を以つて斯教育を後援するには、先づ村民の斯教育に對する感情が吾等の學校、吾等の村の誇りであると確信して學校と一體となるの境地にあらしめなくてはならない。而してこれが爲めには學校長以下職員生徒が一團となつて全身、全靈的の熱と火と力とに例によつて村民を感動せしめ、共鳴せしむるのでなくてはならない。此の灼熱的精神運動によつて動くものに村民全體の精神的後援力の醸成せらるゝ事を忘れてはならない。現下幾萬の農村青年教育機關には果してこの状態が表はれて居るであらうか。

### 第三節 農村青年教育方法の缺陷

教育を實際化すべしとは、あらゆる教育への要求であり特にこの點に關して、我が國教育界の尖端に立つて如實にこれを實行しつゝある青年教育に於ては、今更ら改めて、教育方法の實際化を叫ぶの要はない形である。然るにも拘らず此處にこれを論述せざるべからざるは著者の最も遺憾とする處である。固より教育實生活化の問題はあらゆる學科目の教授並に訓練的、體育的施設に於て注意すべき處であるが特に公民教育と、職業教育との上に於て、其の必要を痛感するものである。然して今日この兩教育を見るに概して遺憾の状態にありと斷言せざるを得ない。

抑々公民教育は、善良有爲なる公民を養成するを目的とする。而て善良有爲なる公民とは國家社會と政治經濟に關する知識と、徳操とを具へこれを實際生活の上に實現するものである。

而して、この目的を達せん爲め、文部省はその要件を規定して、先づ全國實業補習學校に實施せしめた。その要項を大別すれば、先づ人と社會との關係を明にし、正當なる人生觀社會觀の確立を必要とすることを知らしめ、次いで家生活、市町村の



生活に關する事項を授け更に進んで府縣及び國家に關する教養を與へ、進んで人類愛を基調とする國際的教養を與ふることとなつて居る。然るにこれ等の各事項に就いて深く考察する時は、青年は日常生活に於て直接之に關する體驗をなし、或は又新聞雜誌に其の他種々の方法によつてこれを見聞し、經驗しつゝある處である。故を以つて公民教育の實生活化は少しく教師の努力あらば、極めて趣味的であり價値ある教授訓練の方法である。殊に、其の家庭及び郷土に於ける教育に至つては、經濟的價値意識、社會的價値意識の漸く發達しつゝある青年としては極めて興味を持ち易く、喜んで努力すべき性質のものである。教師は青年の精神構造と各人の個性と環境とを基調とし、公民教育の方案を立て以つて適切なる教授訓練を施さなくてはならない。

この見地に立つて現下の青年教育を眺むる時に於て、尙幾多の缺陷あることを認めざるを得ない。例へば、家庭及び郷土の公民的教材を適切に取扱はんには、先づ第一に郷土調査を爲さなくてはならない。現今この調査の完全に行はれて居るものは寥々たる有様であるのみならず、譬へこれが行はれ居るとするも教育の

實際はその調査を十分に取入れ居るものに至つては甚だ尠い状態である。又公民科の教授に於ても理論に偏して實際に即せざる嫌がある。實際に縁遠き公民教授は蠟を嚼む如く、何等の感激をも起さしめることが出来ない。斯くては公民教育の目的を達すること能はざるのみならず、青年をして該科を忌み嫌ふの傾向をさへ生ぜしむることがある。

公民教育を生活に即せしめんとするには、勢ひ職業教育との關係に想到する。抑々個々人の生活の大部分が職業生活なることは、吾人日常の體驗の事實が明證して居る。随つて社會の種々相には、個々人の營む職業が深くこれに關係を持つものである。故に公民的生活と、職業的生活とは恰も一物の兩面であり、随つて一體である。故に教授及び訓練に於ては職業と深き關係を保つてこれを行はねばならない。例へば公民教育の目標の一なる共存共榮の精神の如きは、日常郷土に於ける産業組合、農事改良組合、其他各種團體の結合並に運營の間に具現せられて居るものである。故に職業教育に於て重視する共同經營や、生徒の共同實習地經營等の間に於て、この共存共榮の精神を啓培することが出来るのである。世間動



ともすれば、公民教育の實施に就て、職業教育と切り放つて考へ、別個にこれを行はんとするが如きものあることは、實に誤まれるの甚だしきものである。

この見地に立つて著者は過去十數年の經驗より歸納して、公民教育の眞の徹底を期せんとするには、先づ職業教育を相當に徹底せしめ、青年をして職業生活を媒介として實際生活に觸れしめ、進んでこれが改善、創造に深き趣味を感ぜしめ、而して後に公民教育に力を加へるのが適切であると信ずる。殊にこの方法は一府縣の青年教育方針に於ても同様であつて當初より、職業を離れて思想の善導を叫び、公民教育の徹底を圖るも其は終に青年をして倦怠せしめ、民衆をして斯教育の眞價を疑はしむるの結果に陥るのである。この思潮は從來の教育界の傾向たりし、職業教育を重視せざりし思想觀念よりすれば、或は直ちに共鳴を受け得ざるべきも、かゝる思想觀念が即ち今日の國難を誘致せる教育上の缺陷を作りたるものであるから、社會にかゝる思想の存すれば存する程先づ職業教育を振興し之れを媒介として公民教育を徹底せしむることが緊切であると斷ぜざるを得ない。

公民教育の實際化には公民訓練の徹底を圖ることが肝要である。抑々公民訓

練は、日常生活の間に於て行ふべきものである。然るに多くの場合に於ては校庭内の訓練、學級の自治訓練に止まつて門前一步をも踏み出さざるものが少くない。かくては公民教育は單に聲のみであつて、殆ど其の實を擧げることが出来ないものである。

職業教育は、その村の産業及び經濟に基調を置き且つ生徒の個性環境に應じて行はるべきものである。故に先づ以つて郷土の産業經濟の狀況に基調せる産業是を確立し、これに依つて職業教育の主義方針を確立し、更に學科教授、實習教授、社會との聯絡、村民産業當局、各種組合團體を保ちて行はれなくてはならない。

而してこれが爲めに必要なるは優秀なる専任教員を設置し、これに對して活動の自由を與へることである。然るに今日の狀況にては、専任教員の設置、普ねからざるのみならず、特に女子の専任教員に至つては尙全部の三分一に設置せられて居るに過ぎない。而してその男女専任教員を設置せるものに就きて見るも、小學校の農業又は家事裁縫科を兼務するが爲めに、青年の家庭又は實習地を指導するの自由を束縛せらるゝものが少くない。こは青年教育に盡瘁する上に於て最も



缺陷とする處である。

職業教育の實際に當るもの、齊しく痛感するは適切なる教科書を選択することである。理想としては、教師自らその郷土に適切なる教科書を編纂することであるが、専任教師の實務の多忙なる容易にこれを望むことは出來ない。此處に於て、この缺陷に應ずる教科書の出現は現今斯界の待望する處である。

小學校に於ける兒童身體の養護、並に體育の問題は近年著しき進展を遂げつゝあつて、教室の構造、机、腰掛、保溫、採光の設備等遺憾なきを期すると共に學校看護婦の設備さへ實現されつゝある状態である。かくの如くにして十二、三歳まで愛育せられたる兒童が一度卒業して、青年教育の門に入るやたちまちにして、その與へられる机、腰掛は尋常小學校一、二學年のものを以つて代用せしめられ、その教場に於ける燈光は十分ならざるものが多い。身長の發育は生涯中に最も著しき時代に於てかくの如き設備を以つてすることは、養護と共に由々敷き缺陷と言はなくてはならない。小學校教育に於ける養護施設の重大視せらるゝこと幾十年にも及ぶに拘らず、その卒業生をしてかゝる非衛生的、非體育的状态に在らしめて、今日に

及びたることは、實に我が國教育の恥辱と言はなくてはならない。小學校卒業を一劃期としその以前に於ては、體育施設に對し、物的にも、心的にも非常な力を拂はれたるが、その後には、恬として顧ざるの情況に置かれたるもの多きは實に教育の不合理これより甚だしきはなからう。

然るに著者は直ちに青年に對し完全なる机、腰掛を作り、これを收むる教室を特設せずとは叫ぶものではない。然し乍ら正にこの合理的の机、腰掛を與ふることの必要を認め、又眞に適當なる燈光の下に學ばしめるの必要を認めるならば、その方法と努力の如何に依つては相當この缺陷より免がれることが出來やう。机一脚は僅かに三、四圓を以つてこれを購ふことが出來る。眞に青年を愛し、これを整ふるの心に燃ゆるの士は年々萬を數ふる經費の中より僅に一脚の經費を節約するの餘地のないことはないであらう。眞に青年體育を思ひ、又青年を親愛するの情に燃えるならば、假令年々一脚宛をなりとも設備し、この缺陷を補ふことに至誠を現はすであらう。

それ健康なる身體には、健全なる精神宿ると、而して健康なる身體も又健全なる



精神も決して金銭を以つて購ふ事は出来ない。此處に人格の尊貴があり、教育の尊嚴がある。眞に教育の尊嚴を思ひ、眞に後進の人格完成を思ふの士は蓋し教育上の一大缺陷を看過するが如きことが出来やうか。心中燃ゆるが如き熱情を以つて、この愛すべき青年の教育を思ふの士は譬へ一脚と雖もこれを製作するに躊躇しないであらう。この一脚たりとも製作する處の精神は、即ち青年教育上の貴き力であつて、かゝる精神ある學校長、教師、村理事者ありてこそ始めて青年を感奮興起せしめ、その就學出席に於て、又その學習的態度に於て、優秀ならしむるを得るであらう。

又一方かくの如き信念に於て立つ時は、何等苦痛を感ぜず、何等特別なる經費を増加せずして極めて安慰にこの缺陷を補ふことが出来るのであらう。著者は、嘗つてその體驗に於て、又實地視察する處に於て、これ等の實例を多分に持つものである。

近時青年の體育振興しつゝあることは實に慶賀に耐えざる處である。體育に係する學科目にして現行はるゝものは、訓練、體育、競技、武道等であるがこれ等の

實施狀況を見るに尙幾多の改善充實を要するものがある。又青年教育に於ては、これ等の中でも、武道の如き、體育の如きはこれを重視せざるやの感がないではなかつた。又農業に於ては作業の性質と身體の活動が或一局部に偏する弊があるから、これに應ずる體育を課し、又職業の性質に適應したる競技を獎勵するが如きも肝要なことであるが、これ又從來十分なる注意の拂はれなかつた傾向である。青年教育は職業に従事しつゝある間に行ふべきは勿論、又農閑時に於て學校、實習地に於て行ひ、又旅行見學の間に於てもこれを施すものであるから、これが實施の季節、場所、教授方針及び種類の如きは實に普通の學校教育に比して大いに趣を異にするものがある。随つて郷土の實狀に立脚して、獨自の方法を創作しなければならぬ。然るにこの獨自の構案とその運用の實狀は尙幾多の改善を要すべき事項がある。

郷土の自然と人事の全般とを教材となす上に於ては教師は極めて廣く、又相當深く精神科學、自然科學等に亘つて研究を要し、更に又職業的教科に就いては専門的の學理と技能とを具備しなくてはならない。又常に研究努力を積み實際を體



驗して、その知能と技術とを練磨する處がなくてはならない。

然るに今日の状態に於ては教師のこの修養に應ずる各種の施設尙未だ十分ならざるやの觀があり、この點深く同情し、一日も早くこの缺陷を補はんことを念願するものである。又教員養成の制度を適切ならしめ、各府縣に於て充實徹底せる養成を爲すことをしなくてはならない現況である。

## 第四章 農村青年教育方針の確立

### 第一節 教室教育より全村教育へ

#### 第一項 農村實態と青年教育方針

一、郷土の實態に醒めたる經營

本邦に於ける明治以來の教育は、文運の發達に偉大なる功績を擧げたけれども、又其の反面に於ては種々なる缺陷を有し、これが爲めに社會に對して弊害を生じたことは卷頭に於て述べたるが如くであるが、今青年教育を論ずるに當つて其の缺點の主要なるものを擧げて、此の弊を再び斯教育に表はさざらしめむが爲めに、

其の弊の因つて來れる原因を探求して、以つてこれを免がるべき新教育方法を提唱せんとするものである。

先づ從來の缺陷の主要なるものは、教育の内容が劃一の弊に陥り、且つ兒童生徒の個性をも尊重せず劃一的に教育したること其の一。

一般的なる陶冶に偏して主知主義の教育に陥りたること其の二。

前述の缺陷が原因となつて、教育が實生活と掛離れ、國家社會に對して眞に善良有爲なる人物を養成する能はざるに至りたること其の三。

以上の中に於て、其の一に就いては、前章第三節に於て述べた處であるから、此處に改めて述ぶるの必要を認めないが、其の二に就いて考察せんに、その教育の方法は、書本の上の教育即ち活字教育であつて、眞に生活上有用なる知識でなかつたのである。随つて教育を受けたる者は、その頭腦には概念が充満せられるのであるけれども、一度活社會に出づればこれを活用せんとするも能はず、随つてまた社會もこれを歓迎し、これに活動の場所を與ふることが出來ないことゝなつたのである。



かくの如く教育を受けたる者が社會に於て、活動の場所を與へられざることは其の施したる教育が生活と掛離れ、社會生活の上に十分に役立たないことになつた事も有力なる原因の一つである。これ其の三の缺陷を生じた所以である。抑々教育が生活と掛離れることは、其の教育の内容に於て、人格的教育の一方面たる個人と社會生活との調和を圖る上に於て重要な教科目たる職業教育、勤勞教育の方面が輕視せられた爲に國家社會に有爲有能なる全人を養成する能はざることとなつたのである。

青年教育に於ける一般的陶冶は修身、公民、數學、國語、地理、歴史、理科、體操、及情操陶冶の教科目たる唱歌、圖畫等であつて、之れに依つて、現在までの文化を傳達し、更に將來新文化の建設に貢獻するの資質を與へるものである。本邦教育に於ては、明治五年に新學制の布かるゝや、小學校よりして一般的陶冶に全力を盡したのである。固より、その効果は顯著なるものがあつたけれども、其の反面には幾多の缺陷を現出したのである。即ち教育が形式的となり、抽象的、概念的な人格の教養に力めた爲めに、自然兒童生徒の個性や、境遇を輕視することとなり、而して其の與ふる

知識は、只管に量の大きなることを欲して、質の如何を顧みなかつた。かくの如くにして與へらるゝ知識は單にこれを記憶に存せしむることを要求するのみであつて、新しき創造、發見をなすの素地を築く爲めに、工夫獨創力を練磨する如きは殆んど見ることが出来なかつた。かくの如くにして、教育は眞に生きたる知識を學ぶのではなく、單に集積されたる概念の分量を誇ることとなつた。かゝる傾向は終に生活の爲めの教育、即ち勤勞を尊重し、職業を營むの能力を養ふことを輕視するに至り、學校は堅き殻を被り、社會と殆ど隔絶するものあるに至つた。一般陶冶偏重が來したる弊害は實に驚く可きものと成つたのである。此處に於て職業教育、勤勞教育の必要叫ばれ、今や、これを實際教育の上に取入れんとする傾向を生ずるに至つた。

## 第二項 農村青年の職業教育方針

職業教育は人格教育上必要缺くべからざる一方面なることは既に述べたる處である。若し夫れこれを缺くことあらむか、決して國家社會の一員として有爲なる人物たらしむることは出来ない。故に勤勞の爲めに教育し、勤勞によりて教育



するの方針を以つて青年教育に當らなければならぬ。言ふまでもなく、この勤勞——この勤勞教育の尊重は、當然の傾向として、職業教育を尊重せしむるに至つた。

職業教育を論ぜんには、先づ職業の眞意義を知らなくてはならない。言ふまでもなく、個人の立場より見たる職業は生業であるから、何人も必ずその個性及び境遇に適切なる職業を有し、自己の生存、一家の經營の爲めに、有爲有能であらねばならない。職業は、以上の如き個人的意義を有する許りでなく、個々人は自己の従事する職業に其の全身全靈を傾倒し、これを社會に實現することは國家社會に對して大なる責任を果たす所以である。蓋し、國家の存立及び其の發達の大部分は全國民が、何等かの職業に従事して、其の國家的、社會的責任を果たすことに依つて顯現し得るものである。随つて職業を有せざる者は、眞に有爲なる國民社會人と言ひ難い。此の意味に於て、職業は社會に於ける個々人の人格の積極的要素であると言はなくてはならない。故に青年教育に於ては、生徒の個性並に環境に基き適切なる職業教育を施すに力め、勤勞に關する陶冶訓練に力をそゝがなくてはなら

なり。

更に農村青年の主職業たる農業の本質に就いて考察するに、其の作業は天地の化育に翼賛する所以であり、宇宙の無限活動の一部をなす有limits的特殊的活動である。故に農村青年が國家社會と職業との關係を、正しき道德觀念を以つて結合し、我欲我執を離れたる無我の境地に立つて自然と渾然一體となる時は、此處に職業の宗教的意義が具現されるのである。

以上の見地よりして教育の方針を討究する時は彼の老農に於て見るが如く、自己と農業とが一體たるに至らしめなくてはならない。ケルセンシュタイナーの言へる如く、「職業的陶冶は人間的陶冶の門である」と同時に又全人教育の堂奥であると言ひ得るのである。

農村生活の實際に就て考ふるに、農民の生活は局限せられたる極めて平靜なる天地に於て營まれ知見を廣むるの機會に乏しく、其の上に従事する業務其の物が恒久性を帯びたものであるから、これに従事する間に於て、その性情も冥々の裡にその境遇に化せられて、進取を厭ひ、保守を喜び、随つて傳統に没入し爲めに時世の



進運に伴なひ、事業の改善を企てんとするの意氣に乏しい。この保守的にして頑固なる態度は終に農業をして、商工業に比し遅れを取らしむるに至つたのである。農民は亦久しきに亘る武家政治の間に於て抑壓せられたる政治的境遇に置かれ、又その業務本來の性質が悠々たる自然を相手に行ふものであるから、これ等の爲めに一種の宿命觀を植付けられ、萬事保守的となり、安住的な人生觀を抱くに至つたのである。故を以つて今日の如き、あらゆる産業が世界經濟の波濤の上に立ち、抜け目なき企業的經營を爲さざるべからざる時に際し、農民は殆どかゝる態度に出で難い状態であつて、彼の商工業者が資本主義の旺盛なる現代に處するに進取發展を理想とし、奮闘主義を標榜して物質的奉養を貴び、その生活内容を彌が上にも擴充せんことを力めて已まざるに比すべくもない。

然るに、近年に至つて斯かる態度が激甚なる經濟的競争場裡に於て、農民をして時代の落伍者たらしめんとし、加之農村の生活益々困難を加へ、農民は農業をいとひ、祖先以來の郷土を振捨て、都市に集中するの情勢を示すに至つたのである。殊にこの風潮は青年に著しくして、其の數年々二、三十萬を以つて數へられたので

ある。翻つて考察するに、農業本來の性質と、これに従事する農民獨得の性情とよりして、農業者の住まふべき天地は商工業者の住まふべき天地と當然相異なるべきものである。即ち現下の經濟界の状態に於て見る時は、商工業者と農業者は、其の住むべき精神界の領域を異にすべきである。故に農民をして商工業の如く、飽くまで物質的奉養を貴び、又生活内容を都市のその如くあらしめよと言ふのではない。が然し今一層農業者をして、企業者としての資格を與へ、農業經營をして現下の激甚なる競争場裡に立ちて雄飛するの力を與へなくてはならない。

以上の理由よりして、農村青年の教育に於ては、特に以上の三點を基調として、適切な計畫を立て、新時代の農民を養成するの方途に出でなくてはならない。

而して農民に對して企業的才幹を與へんには、小學校教育に於て其の萌芽を與ふべきこと既に述べた處である。然るに青年教育に於ては更にこれを長養し、これを精練して、以つて有爲有能の農民たらしめなくてはならない。仍つて特に青年期に於て努力すべき事項を擧げて要述することとする。

#### 第一、農業經營に必要な専門的、實際的知識技能



## 第二、農業者に必須なる性格即ち農民精神

### 第三、農業経営に必要な技術の高能率の熟練

昔時の農業が手に得て、心之れに應ずるものでありたるに比し、今日の農業に於ては、心先づ進んで手これに次ぐの順序を辿らなくてはならないこととなつた。即ち近年農學の進歩は、農業經營上の技術に劃期的進展を遂げしめつゝある。彼の農具の如きは動力學、機械學の貢獻に依つて、全く面目を一新し、農業作業をして恰も工業のその状態に近づけしめつゝある。又耕種、養畜、養蠶、加工の方面に於ても、學理を應用せる新技術は、日々に發見せられ、農業の改善進歩を促しつゝある。凡そこれ等の學理を實地に應用する上に於ては、氣候、土質、作物の種類、栽培目的、經濟的關係、其の他種々の事項を參照して、以つて換骨脱體の妙用を發揮すべきことは前にも述べた處である。原理原則は普遍的のものであるから、これを應用せんとするには、其の時と場合に應ずる實地運用の妙技を會得して居なければならぬ。故に青年期の教育は、兒童期に於て得たる農業的知識、並にこれが實地應用の能力の萌芽を啓發して、實地經營上に須要なる能力たらしめなくてはならない。

青年の心理的傾向として、經濟的の事項を喜び、發明、發見に對して敬虔の態度を持つるの特質あるに鑑みて、彼等をして自ら進んで研究的態度に出でしめ工夫、獨創の能力を養ひ益々これを修練せしむることが肝要である。これ後段に於て、職業教育の實際化を高調し、郷土に立脚したる實習教育を振興して、以つて全村教育の眞意義を徹底せしめんとする所以である。

農民精神のことに就いても、小學校に於て兒童心身の發達に留意して、勞働尊重の觀念を養ふべきことは既に述べたのであるが、青年期の教育に於ては、これを基礎として、更に郷土に於ける農業を體驗研究せしめ、其の現状が幾多改善を要するものある事を發見せしめ、然もこれが改善は、學理の應用と技術の練磨とに依つて容易に遂げ得べきものなることを知らしめ、且つこれを體驗せしめて、愈々その信念を強からしめ、斯くして、終に確固たる職業觀、人生觀を把持するに至らしめなくてはならない。

而して、小學校に於て養はれたる勞働尊重の觀念は、更にこれを確固たる信念にまで導き、これに加ふるに心身の鍛鍊にも力を注ぎ、或は農業實習、奉仕作業に當ら



しめて、汗を流し掌を破りてまでも其の目的を達成せしむるが如くし、或は又風紀の刷新、生活の改善、産業組合の振興、その他社會的、經濟的、教化的の實際運動に當らしめ、農村振興の可能なることを悟らしめ、以つて凡そ奮闘主義に立ち、全身全靈を傾倒して當るならば、何事も成就達成せざるものなきことを知らしめ、而して建設的、進取的なる人生觀を把持するに至らしめなくてはならない。更に農民は、組織的、計畫的の態度を以つて經營に當ること能はないので、經營上幾多の不利を招きつゝあるのであるから、青年教育に於ては、農業經濟に關する教授を一層重視し、且つ公民教育の助を籍りて、この態度を建設するに努めなくてはならない。而して一方自然研究並に社會に關する研究に對する趣味を起させ、真理の爲めに眞理を愛するが如き知力的感情を高め、更に進んでは、此の自然の研究と、社會の研究とを以つて、郷土の開發に力めしめ、如何にこれ等が人文の開展に貢獻するものなるかを知らしめ、これを農業科及び公民科に結合して、農事の改良、農村の開發に深甚なる興味を持たせなくてはならない。これ等の目的を達する爲めには、教師に其の人を得るを以て第一とする。

以上の理想を實現せんが爲めには、決して机上の教授に偏してはならない、實習地の教授に偏してもならない。必ずや郷土の社會状態に立脚し、且つこれを教材として教育する所謂露天學校の實現に依つて始めて其の眞諦に徹し得るものである。これ著者が全村教育を提唱する重要なる理由の一である。

### 第三項 農村青年と公民教育方針

維新の大改革以來の經濟政策は、西歐の其れを直輸入的模倣的に採用したものであつた。又著しく理智に偏して、我が國の民情と獨得の自然の情態を斟酌し、考慮することが缺けて居た、それにして、商工業は事業の性質が理論化し易く、又普通化し易いものであつて、西歐の其れも、我が國のそれも、概して共通の因子を多分に有し、普遍的な經濟的理法の下に營まれるものであるから、此の直輸入的模倣的政策は、商工業の賑盛には貢獻するが著大であつたに拘らず、農業は其の本質上土地、氣候の如く人力を以つて容易に變動し難く、左右し難い要素を基礎として營まるゝものであるから、直輸入的、翻譯的の政策を以てしては、到底これが促進を爲す能はざらしめ、終に農業をして、經濟界の落伍者たらしめ、農村の衰頹は年と共に甚



だしからんとするの傾向を見ることゝなつた。

以上は主として農業に關する方面の觀察であるが、農村經營の内容、即ち自治、交通、衛生、各種組合團體、教化機關等に至るまで直輸入的模倣的のものが大部分を占め、地方々々の實情に即して創造建設せられたものは殆ど見當らないかの状態である。然もこれ等社會各方面に於ける民衆の指導は、理智的に押し進められ人情味が缺け生活を情味乏しきものに導いた。自己のことは、自己最も善くこれを知れるが如く、農村の事は農民自身が最も能くこれを知つて居る。殊に農民の幸福なりや否やは、農民それ自身の感じであつて決して他人の獨斷し得る限りでない。故に農民生活の幸福を増進せしめんには、先づ以つて農民の思想感情がよく政治の上に取り入れられ、地方の實際生活に即したる國家的社會的生活の内容が充實し、而して農村及び農民が良くこれを運用することによつて始めて其の目的が達せられるのである。曩に、普通選舉の制度實施せられ、今亦婦人參政權、其他選舉資格年齢の擴張等行はれんとするの情勢にあることは、益々農村生活の快適を促進する上に於て喜ぶべき傾向である。法令制度は、民衆の幸福を増進せんが爲めに設

けらるゝものであつて、決して法令制度の爲めに民衆が存在するものではない。故に直輸入的、翻譯的、模倣的方法によつて農業及び農村を如何様にも改造し得るが如く考へるは大なる誤りである。故に今後の農村經營は、農民の公民的教養を充實進展せしめて、其の實際生活の體驗より萌へ出でたるもの——其の體驗、研究に基く健全なる要求が輿論となり、其れが取入れられた、人間味あるものでなくてはならない。これ農村經營の根本條件として、公民教育徹底の急須なる所以である。

抑々公民教育の任務、目的如何と云ふに、木村正義氏は曰く、

國民に社會完成の爲めに、社會と政治經濟に關する知識を授け、徳操を涵養して、これを實際生活に實現せしむるを以つて目的とす、と。

人類は社會的動物であつて、社會を離れては決して人間としての生活を全くすることは出来ない。斯く人が社會と不即不離の關係に在りて社會生活を營んで居るからには、社會の完成に向つて努力することが、社會の一員としての責務であり又それが人生の理想であらねばならぬ。



而して、此處に社會とは極めて廣き意味に於ての社會であつて、家も學校も組合團體も市町村も府縣國家も世界も皆之れを含みたる意味に於ての社會である。故に公民教育はこれ等の完成を圖るに必要なる資質を涵養するを目的とするものである。然るに國家生活と云ふも其の事實は或町村の或家を本據とする生活に相違ないのである。この具體的事實の生活を想ふ時に於て、公民教育の徹底は先づ其の郷土の生活、生徒の家庭生活を公民的教授並に訓練の機會とし、又この生活事實の中より教材を求めて教授しなくてはならない。

而して公民教育の客體は老若男女を問はず、總て社會生活を營める一員として必要なる教育を施すのである。青年教育に於ては、直接には其の教育を受くべき青年を對象とするのであるけれども、決して青年をして一般民衆を度外視するものではない。否むしろこれを尊重し、特に郷土の町村理事者各種團體の幹部等の了解と援助とを受けて、青年に對してこれを授ける。又一方青年は日常生活の中に於て公民的生活を體驗することが即ち公民教育であり、此の公民教育を受けたる青年の公民生活が一般大衆の公民教育となるのである。かくの如く青年の公

民的修養即ち郷土生活の改善に當らしめ體驗を積み、而してその努力が社會改善に貢献する處大であり、各自の奮闘努力に依つて農村の振興も國家の隆盛も遂げ得るものなることを自覺することとなり、此處に郷土を愛して益々これが振興發展に貢献せんことを期するに至り、かくして公民教育の理想に向つて愈々近付くのである。

又一面より見る時は、郷土の日常生活は、産業經濟に關する生活、政治に關する生活及び社會的生活等であるが、公民教育はこれ等生活に關する知識と徳操とを授くるのであるから、公民教育の内容は、社會、政治、經濟等の方面より見て、直接に社會の完成、社會の安寧、幸福を増進すること等の材料を取扱ふのである。而して青年をして、これ等の學びたる事項を直ちに郷土生活に實現せしめ、體驗に基きたる知識として修得せしめ、更にこれを道德化し、倫理化して、單なる概念教育に陥らざらしめむことに留意し、而もこれを常に生活に表現して、一家の興隆、郷土文化の建設に對して献身犠牲の努力を積ましめて、社會奉仕の精神を涵養し、奮闘主義に立つて精進する膽力をも養はなければならぬ。



要之、公民教育に於ても職業教育と同様、日常生活の全野を教材とし、又全村を道場とするの方針を以つてこれを行はなくてはならない。

#### 第四項 農村に於ける全村教育

以上述べた如き理由により今後の教育は、従來の如き教室内の教育、活字教育の殻を破り、活社會、活生活を教場又は教材と爲す、生きたる教育を施すのでなくてはならない。此處に於て、青年教育に於ても郷土生活の内容を教場教材と爲し、自治、經濟教化に關する運営に參與しつゝ、郷土民衆と共に文化の建設に努力すること、其れ自體が青年の修養である如くに教育しなければならぬ。而してかくの如く徹底的に社會化したる教育を行はんにはず郷土の民衆が積極的に參加して、青年をして郷土生活の各面に活動することを承認し、進んで教師を援助し、飽くまで此の教育を徹底せしむべく、全村一致の態度に出づるを要する。而してかくの如き状態たらしめんには、先づ最初、學校長は、郷土調査に當つた役員並に村内の各種組合團體幹部及び有志の參集を乞ひ、十分にこの教育方法の了解を求めて、後篇述べんとする處の教育網を組織して、青年教育機關と密接なる聯絡を保つこ

とす。斯くすれば、公民教育又は職業教育の實習、臺所改善等の如き行事を爲さんとするが如き場合に於ては、この教育網の共鳴と援助とを受くるを以て村民をして十分に了解せしめ、積極的にこれを援助し、或は教師と共に青年を指導するが如き特志者も出で來るのである。

かくの如く村民の擧つて參畫するが故に青年教育機關と家庭との聯絡は十分に行はれ、家庭教育の振興と相俟つて、これが實績を益々向上せしめることが出来るのである。

要するにこの方針は、郷土の一切を擧げて教室教材となし、郷土の民衆もこれに參畫し、青年教育と一體となり、眞に郷土生活に徹したる教育を施すにあるのである。

#### 第五項 農村に於ける全村教育方針

##### 一、社會調査の活用

公民教育及び職業教育の徹底を期せんには、郷土生活を教材とする教育でなくてはならないのであるから、此處に全村教育に依り青年をして實際生活にひたら



しめつゝ教育し、生活即教育の極致を如實に行つて、生きたる修養を遂げしめざるべからざることは既に述べたる所である。然るに、全村を以つて教場、教材となさんには、先づ郷土の實態に就きて精密周到なる調査を遂げなくてはならない。郷土調査に就きては第一編第三章に於て詳述したのであるから、此處にはこれを省略する。郷土の調査成る時は調査記録に記載せられたる天然的事項並に人事的事項に含まるゝ内容を、自然科學、社會科學、倫理、道德、宗教、藝術等の事項に分類し、勿論劃然と分類することは出来難きも、而してこれを如何に教授上取扱ふべきやを研究し、實際教材の中に適切に織込まなくてはならない。以下社會調査の分類に基いて、各事項に屬する内容を如何に取扱ふべきかに就いて大體の方針を説述する。言ふまでもなく地理にしても農業にしてもその他の學科目に於ても郷土の全部がその教授と深き關係あるも、左の説明に於ては比較的關係深き部分を擧げて要述し他は讀者の類推を乞ふこととする。

## 二、天然状態の活用

1. 天然状態に就きては、廣袤、地勢、氣象、人口等は地理科教材となし、地勢に於ては

陸地測量部地圖を基礎として作製せる郷土社會調査地圖を利用し、又實地踏査によつて郷土の地勢を研究せしめ、土地の乾濕、灌排水の狀況、海水の侵入等の如き村民生活との關係上重大なる事項は將來適當にこれを改善するの必要を痛感せしめなくてはならない。而してこの研究をなさしむることはやがて公民教育、職業教育に於て郷土改善に關する實際的學習を爲すの基礎たらしむるものである。氣象に於ては調査項目に示したる夥多の項目を調査研究するのであるがその全般に就いては地方測候所の調査研究を參考とし、又教師及び生徒に於て、雨量、溫度、濕度、風向等を實地に觀測し、これを記載し置きて、農耕、養蠶等の教授に利用することとする。

次に土壤、山川氣象の状態は主としてこれを農業の教材となすこととし、村内に於ける地質圖を作成し、農事試驗場又は農學校等に地圖あり、各々の土地に適應せる耕耘、肥培等の方法を研究せしめ、教師は農事試驗場、及び農學校等と聯絡して、十分これが研究をなし適切なる輔導を與へなければならぬ。又教師は酸性土壤の分布と、これが矯正の方法を農事試驗場と聯絡して十分に研究を遂げ、青年をし



てこれを實習地に試験し實驗せしむることを肝要とする。森林に於ては特に林木の標本製作、主要なる樹種及びその造林の状況、村内山林の林相等を實地に調査せしめ、今後如何なる點に改良を加ふべきやを知らしめなくてはならない。又部分林、大字有林、公有林、官有林、社寺林、私有林等の状態を教材として部分林の現状、大字有林統一等につきて研究せしめ、以つて公民教育の活教材たらしむるを要する。次に動植物及び礦物は、標本製作に力めてそれを人生との關係の特に深きものは理科又は農業科等の教材とし、更に一面、害虫鳥虫の種類及び村内に於けるそれ等の分布等に就きては調査に基きて實地に確めさせ、これが驅除及び保護に力めしめるが如きは最も當を得たる、生きたる教授の方法である。

かくの如く自然に對して、體験的調査研究を爲さしむることは、青年をして自然に親しませ、郷土の自然との調和を遂げしむることを得て、教育上尊き効果を收むる事が出来るのである。

### 三、人的状態の活用

人的状態とは郷土に於ける人々の生活現象の一切を網羅せる調査である、以下

項を分ちて、説明することとする。

沿革はその村の草創より今日に到るまでの經歷であつて、その間に於て養はれたる村民性を始めとして、その村の文化を詳にする上に於て必要なる事項である。故に修身公民科、歴史科等と聯絡して村狀の變遷、名勝、遺跡及び村民思想の變遷等を調査研究せしめ、これを基礎として將來に於ける村發展法の攻究をなさしめることが肝要である。

1、戸口状態に於ては戸口數、現住戸に、職業別戸口の變遷を動的に調査しこれを一瞥し得る如く圖表となし、その増減を示すと共に原因をも探求する等以つて公民科に於ける我が郷土、我が町村、町村自治等の教授材料となすべきである。

2、經濟状態に就いては、地目、村内耕地面積、地價、耕作狀況、小作及び地主の狀況、並にその關係を調査しこれに基きて利源開發の方案を攻究せしめ、農業教育、公民教育に於て生産、町村に關する事項と聯絡し教授すると共に、男女青年團、實業補習學校、青年訓練所等に於て開墾又は植林を爲さしむるが如きは、極めて當を得たる方法である。



資本、財産、負債、收支の對照の現状を知らしめて、公民科に於ける生産、財産、一家の生計等の題目の教材となし、又農業經濟の有力なる教材なることに留意し、適切な取扱を爲すを要する。

生産に就いては、生産組織の實狀即ち農業、蠶業、林業、漁業、副業の狀態の調査に基きて其の現状を明かにすると共に將來の産業是を確立し、これに基きて實習施設を充實し、之を中心として産業開發運動に當らしめ、産業振興を圖ることそれ自體が教育である如くしなければならぬ。

取引に關する調査事項中、産業組合、同業組合は、農村の産業、經濟上急須なるものであるから、これと教育との關係は特に綿密、周到なる研究の下に一定の方案を作製しよくこれ等組合と聯絡して教授し、一方青年の立場よりこれ等の振興運動を爲さしむる時はその効果は極めて顯著である。又青年をして、これ等組合に關する知識と熱情とを啓培せんには、是非ともかゝる方法に依らなくてはならない。

3. 教化狀態に就いては、極めて綿密なる調査をなせるを以て、その結果に基きて青年の修養の肝要なることを痛感せしむると共に、兒童並に成人教育、其他一般社

會教育に青年の援助の必要なることを知らしめて、その實際運動に當らしめるのである。この實際運動は公民科に於ける教育、農村と青年、我が郷土、保健と衛生、社會改善等の題目の聯絡を計り適切なる指導たらしむるべきである。殊に青年教育の實績即ち就學、出席及び實習、教練その他學業の成績を反省せしめ、又一方他の優良なる青年教育機關の狀況、模範村に於ける教化狀況等を調査研究せしめ、以つて自省自奮、益々これが向上進展に力めしむべきである。又神社及び宗教の狀況は、公民科に於ける神社、宗教の教材となすと共に、神佛を尊崇し祖先を敬し宗教的情操を涵養する等、訓練を實生活に即して力めることが肝要である。例へば、神社寺院及び墓地への奉仕、献穀田の設置、献穀祭等の如き行事を計畫し、これを青年教育の重要な施設として、繼續實施する如きである。

4. 社會狀態に就いては、農村自治の内容、例へば自治の運用と事務、選舉、黨派の狀況等を公民科の町村自治に關する事項等と聯絡を保ちて教授し、又各種團體に關する調査事項は、農會、金融、教育等の題目に於ける教材となし、且つこれ等の改善と促進に力めしむべきである。



5. 運輸交通に關しては、其の現状をよく調査せしめ、將來如何に改善を加ふべきか又如何なるものを新設すべきや等に就き研究せしめ、その中青年又は村民の奉仕的作業により解決し得るものは、青年を中心として、村民總動員を以つてこれに當らしむる時は交通の改善上裨益する處著大なるものがあるのである。著者は嘗て、道路の改善、路面の修理、路傍の垣根整理等を青年を中心として、村民と共に當らしめたことがある。村役場又は區長に於て保管する土地臺帳、村落地圖、記録等を基礎とし、村落總會を開きて研究する時は道路の位置及び幅員は長年月の間に甚だしく變化し縮小せる部分が少なくなかつた。然るにこれ等は青年幹部が區長有志の援助の下に交渉に當り圓滿に協定せられて舊に復せしむることが出来た。

6. 保健狀態及び社會病的狀態に就いては、現今、内務省、司法省等に於て大に努力せられつゝある處である。農村の保健衛生は甚だしく不備、不振の狀態であつて天與の好環境を有するに不拘、時としては、都市にも劣れる保健狀態の箇所さへある。仍つてこれに關する調査事項は公民科に於ける保健と衛生、町村に關する事

項、教育、我が郷土、農村の開發等の教材の中に編込みて適切な教授を爲すと同時に住宅改善、下水汚物の處分、飲料水の改善、傳染病の豫防、社會體育等に就き青年が中心となつて改善充實の運動を爲さしめるのである。又犯罪者の豫防、精神病、貧窮者、浮浪人、免囚保護事業等に就いても調査に基いて適切なる對策を攻究せしめ、公民科に於ける社會改善、その他、修身科等と聯絡して適切に教授すべきである。

## 第二節 農村青年の工夫獨創力涵養

### 第一項 農村青年の心理狀態と工夫獨創

我が國教育の流弊として、その環境と被教育者の個性に立脚したる教育を施すことを重んじないで、徒に外國の教育を模倣し、又は他の地方の教育を模倣するの傾向が著しいことは、斯界の大缺陷である。この缺陷を矯正すべく、昭和二年十一月文部省は兒童、生徒の個性尊重及び職業指導に關する訓令を發した。此處に於て教育界では、我が國独自の教育、郷土の環境に即したる教育、兒童生徒の個性を尊重せる教育及びこれに適したる職業教育を行ひて、以つて昭和維新の新教育たら



しめんとするの新運動が勃興した。

環境に相應しき教育の方法はその校舍、校地、その他の設備、職員組織は、何れも郷土の實態に立脚して整備せしめその教育方法に至つては青年の個性と環境とに適する如く留意して行はれなくてはならない。

かくして行はるゝ教育は青年の心理に立脚し、又個性の特徴に鑑み各自をして何等かの適切なる問題を捉へしめる様指導を與へ而して一問題に就きて工夫、研究を凝らさしめ、堅忍持久の精神を以つてこれが解決に力めしめなければならぬ。

これを主張する所以は、青年期の心理的傾向は農村文化建設に關する體驗教育を施すに、最も適當なる時期であるからである。今これに基きて行ふべき指導の方法を要述することとする。

## 第二項 農村青年の經濟的意識と指導法

1. 兒童期の終りの頃より、漸次經濟的觀念の萌芽が發達し來つて、青年期に入るや、金錢、財産に對する興味が生じ、農事に關する研究や、農業經營に關する興味が漸

次に湧き出で、好んで農事試驗場、農學校等に入出し、又農談會、品評會、共進會等に出席するを喜ぶに至る。又新技術を研究せんとする欲望や、農業に使用する器具機械を取扱ふことに非常なる興味を持つに至る。この傾向は、青年を教育する者の逸すべからざる機會であるから、實習地の經營、家畜、養魚等の實習を始めとして、農具の改良、新農具の發明等を爲さしむべく、その個性に立脚して適宜指導を爲すべきである。各地に於て青年の創案に係る新農法や、又は青年が中心となりて計畫し成功せしめたる耕地整理又は開墾事業の如き、又青年の援助に依つて産業組合の振興したるが如き實例等枚擧げに遑がない。今若し、教育上この工夫獨創力の啓培に力を用ふるならば、農村の産業經濟、自治、教化の各方面に新建設を爲し、農村文化建設に貢獻せしむる處大なるものがあるであらう。尙此處に注意すべきは青年がかくの如き經濟的方面に興味を持ち、現實生活に工夫創作を爲すことを喜ぶ反面に於て、これと反對に現實を厭ひ理想に憧がれて、終に一種の病的精神状態にまで陥るやの恐れあることである。この點に就いては、教育者は、青年各自の個性に基きて、周到なる注意の下に、かくの如き傾向を醸さざらむことに留意しなくては



ならない。要は、職業生活に向つて深奥なる興味を喚起し、一意専心これが研究と改善に努力せしむべきである。

### 第三項 農村青年の理想的意識と指導法

上述の如く青年期に於ては經濟的價值意識の存在を示す一面に於て、又抽象的の思考發達し、認識の興味が發達して種々なる難問題に就いて討論し、又發明、發見や普通人の容易に爲し得ざる問題の解決等に對して深き敬意を拂ふものである。この心理的傾向に鑑みて郷土に於ける各種の懸案の解決問題、農村振興問題、農業經營の問題等に就いて、相互に意見の交換を爲しかくて共同的研究を爲さしめ、又は教師輔導の下に各自をして、何等かの事項を選択して、これを研究し、實際に行はしめて新機軸を創作せしむるが如き、又先進地方模範農村の見學等に依つてその進歩せる状況に感激して深き敬意を表せしめ、自らも又進んでかくの如く貢獻せんとする熱情を起さしむる如きは、青年期に顯著に發達し來る理想的價值意識に應ずる指導の方法である。

### 第四項 農村青年の藝術的意識と指導法

青年は又山野を跋渉し、名勝を訪ね、動植物を愛育するが如く、自然を愛するの念慮に富み、又これに喜びを感じるものである。故に青年をして旅行、見學等による自然、風物の鑑賞、邸宅の美化作業、禽畜の飼育、郷土公園の設定を爲す等、美を鑑賞せしめ、進んではこれを創作せしめ、更に又田園的文藝の鑑賞とその創作に當らしめ、日常の生活の間より湧出する自己の氣分や、理想を表現することに無限の喜びを感じしむるが如きは、田園生活を藝術化し、農業を藝術化せしむるに到るものであつて、美に憧憬れ、これを享樂するの熱情に炎ゆる青年期の指導方法として、又新農村文化の建設の重要問題として、青年指導者の忘るべからざる事項である。

### 第五項 農村青年の社會的意識と指導法

凡そ青年期に於て、他の期に於けるよりも特に顯著な傾向は、獨居を苦痛とし、他人と共に苦しみ、共に樂しむことを無上の喜となすことである。古來若連中が自由都合宿し、自由に協同的、團體的の生活を爲したることは雄辯にこれを立證するものである。故を以つて、青年に對して公民教育を施して、社會奉仕的精神を發揮せしめ、郷土の振興、各種團體の發展等に努力せしむるが如くし、進んでは、村落に各



種の協同的な教化的、産業的事業の建設、神社、寺院、道路、保健衛生等に協同奉仕を爲すが如きは、最もこの心理的傾向に合致せることである。

#### 第六項 農村青年の政治的意識と指導法

前に述べたる如く、青年期に於ては、社會的價值意識の發達顯著にして、他人と協同せんことを欲する一面に於ては、又他人よりも優越ならんとするの欲望顯著なるを見る。この心理的傾向は、指導を誤る時に於て、極端なる名譽欲を生じ、又自己の年齢、境遇、心身發達程度等を考慮せずして、徒に他を模倣し、自己の優越觀を満足せしめんとするの缺陷に墮するに至るものである。故に教育者は、この優越觀即ち政治的價值意識を善用して、自己の修養、一家の興隆、自己の屬する學校、團體及び郷土の興隆、發展に貢献して、優秀なる成績を擧ぐること、優越を感ぜしめる如くし、終にはこれ等に努力し、貢献することに無上の歡喜を覺へ、隨喜の泉を發見し、一切の毀譽褒貶を離れ、無我の境地に立つて郷土文化の建設に奮闘邁進せしむべきである。

#### 第七項 農村青年の宗教的意識と指導法

最後に農村生活、殊に動植物を育成することによつて天地の化育に翼賛し、人類文化の根源に培ふことは、實に宇宙の本體乃至心的活動の顯現と渾然一體たる所以であつて、此處に農業が大宗教的意義を表はすものである。然るに一方青年期に於ては、漸く宗教的價值意識が燃へ出づるを以つて、この期を逸せず農業的體驗教育を施すことに依つて、宗教的情操を涵養せしむることが出来るのであつて、随つてこれは宗教生活への動機たるものである。(宗教的情操陶冶に就ては第一編第九章第二節に詳述せしを以て此處にはこれを省略する。)

### 第五章 農村青年教育方法上の重點

#### 第一節 農村青年の公民教育

##### 第一項 緒言

青年教育の方針は、全村を教場、教材となし、眞に生活に徹したる教育を施すと共に、工夫、創作の能力を啓培して、新文化の建設に貢献する處あらしめなくてはならないことは既に述べた處である。さて、この方針に基いて公民教育を施さんには、



如何なる方法によるべきや、これ教養上重要な研究問題である。今左にこれが重点を擧げて要述することとする。尙以下述ぶる處は、特に注意すべき事項であつて、尙他に幾多の事項あるも、限られたる紙數と、本書の方針とに鑑みて、適宜これを省くこととし、その詳細は他日の機會に譲ることとした。讀者これを諒とせられんことを。

### 第二項 農村青年の郷土精神陶冶

公民教育の現状を見るに、その教授は、實際生活に即して行ふこと困難にして、随つて法令、制度や、組織に關する教授に陥つて、從來の法制、經濟科の教授と何等選を異にせざるの嫌がある。故に青年はこれに興味を感ぜず、動ともすれば該科の學習を厭ふの傾向がないではない。故にこの缺陷を補つて、眞に公民精神の何であるかを社會人生の根本義から説き導き、これを體驗に訴へて、公民生活の理想信念に燃ゆるの人たらしめなくてはならない。而してこれが爲めには文部省制定の實業補習學校公民科教授要綱に基き適切なる教育をなすべきであるが、それには單なる教授を以てしては決して其の目的を達することが出來ない。必ずや、これ

に加ふるに公民訓練を重視し、これを適切に行ふことを以つてしなければならぬ。故に以下、公民科教授要綱の内容並にその單なる教授の方法を説明することは他日に譲り、公民的訓練を中心とする公民教育の實際法案を要述することとする。

### 第三項 農村青年の團體精神陶冶

團體精神の陶冶に就いて述ぶるに先んじ、自治訓練の眞意義を明にする必要がある。自治とは普通に「自分の事は自分で行へ」の意義に解釋せられ易いのであるが、それは自治の眞諦に合致せる解釋とは言ひ難い。眞の自治は「共同の事を共同でする」處に本質があるのである。この眞の意義に於ける自治訓練を徹底させる處に團體精神の陶冶が行はれ得るのである。故に青年をして自己の屬する團體、即ち家庭、學校、組合、團體に對して強き責任觀を感ぜしめ、小異を捨て、大同に合するの襟度を示し、自己の全心、全力を傾倒して社會に自己を實現し、以つて共存共榮の實現に力めしむべきである。この見地に立つて行ふべき訓練の主要なるものを擧ぐれば、左の如くである。



## 一、家庭生活と訓練

家運の興隆、家族の團欒に力め、社會的訓練の第一歩を體驗せしめるを要する。青年はその男子たると女子たるとを問はず、現に家庭生活の中心となつて居る。即ちその勞働力に於て、又その家事に立働くことに於て家庭必須の一員であり、將又家族信賴の中心である。かくの如く、家庭に於ける地位と自己の責任を自覺し、献身的態度を以つて一家の興隆と、その團欒に貢獻せしむべきである。

家庭と聯絡を圖り、家庭生活を教材となし、次の如く、實際的なる教授及び訓練を施すべきである。

家庭生活の改善——農村の家庭生活を改善せんには、先づ臺所より入らねばならない。農家の臺所は、何れの地方に於ても、概して光線の透射不十分にして陰鬱の感あるのみならず、その衛生上に於て、整理整頓の點に於て、又食物調理法に於て極めて遺憾の状態にある、故に青年をしてこれが改善に當らしめなければならぬ。

一家の精神生活の淵源は敬神崇祖の生活である。故に青年をしてこれを體得

せしめ、以つて家風の根源に培はしめなくてはならない。その方法としては前記臺所に神佛參拜日、祖先命日を記載したる掛札を設けて、家族一同と共に參拜、慕參を勵行する事とする等の如きである。又現在の家族の誕生年月日を記載したる掛札をも設けて、當日には家族一同と共に心から當人を祝福し、併せて一家の團欒と、家運の興隆を祈ることとする。其他、臺所には鏡を置き、草花を挿し、繪畫を飾り、清楚の中に餘裕ある如くし、家庭生活の中心たらしめることとする。この臺所の觀念は、所謂狹義の臺所のみではなく、家族一同の朝夕會食し、朝に其の日の希望を語り、夕べに其の日の苦樂を談じ、又時には來客を此處に接待し得る集ひの場所である。

現今我が國、家庭生活に於ける一大缺點とする處は豫算生活の十分に行はれざることである。豫算生活の實行は女子の責任であるから、女子專任教員は其の地方の狀況と、家庭の狀況及び個性に立脚して家族の了解を得て適切なる指導をなし、豫算生活を實習せしむべきである。衣食住の改善は其の地方に於ける古來の傳統に係る習俗として定まれるものが多く、容易にこれを行ひ得ざるものであり、



急激なる方法に出づることは一般の反感を招く恐れがある故、徐に青年をして研究せしめ、一般の承認を得て後にこれが實現を圖らしむべきである。

この外女子に於ては盆栽、生花、手藝、農産製造等を、男子には養鶏、養蜂、養魚、養畜、宅地利用の實習等を爲さしむべきである。

青年の家庭教育を徹底せしめんには、主婦及び戸主の協同を必要とするものであるから、主婦會、戸主會、自治會、家庭改善懇話會等を振興して産業經濟の振興充實、風教及び自治の振作等を懇談研究せしめ、實行事項を協定し、踐導躬行の態度を以つて青年を導かしめ、又社會奉仕の事業を行はしめて、青年をもこれに参加せしむる等、實に家庭生活それ自體を公民教育たらしめ、而して家庭に於けるこの教育が家庭の興隆とその平和團欒に貢獻する如くあらしめなくてはならない。

## 二、青年教育と訓練

實業補習學校、青年訓練所及び青年團等の生活に於て協同、自制、正義の觀念を養ひ、以つてこれが徹底的訓練を期することは團體精神の陶冶上價值大なるものである。

青年教育に於ては、青年の個性及び環境の調査を精密周到に行ひ、教師は全幅の愛を注ぎて身を以つてこれを指導し、同級會、實行問題の付論、議決、體育會、品評會、學藝會、講演會、旅行、遠足、共同宿泊による修養會、基本財産の造成、造林、貯金等共同實習、各種の儀式等に於ては、小異を捨て、大同に合し、自己を犠牲にして協同一致事に當らしめ、規律を守り、秩序を尊び、情實を排して正義を重んじ、以つて團體的精神の陶冶を期することゝすべきである。例へば、同級會に於ては、よく青年の生活と實生活を汲める案であり、且つ其の立案には或程度まで生徒を参加せしめ、又共同作業の如き或部分は生徒自ら立案せしむることゝし、かくして作成せられたる學級經營案に對してはその學級の全成員がこれを理解し、この經營精神の實現に關して立憲的に参加せしめる。即ち役員の選舉、議事の進行及び議決事項の實行に關する活動等は青年各自、適材適所の組織的なる總動員の精神に依つてこれを實行することゝする。かくの如くにして學級の立憲的、自治的經營を行ふと共に、進んでは學校全般又は青年團等にもこれを適當に及ぼさしめるのである。女子に於ても、神社、佛閣に對する奉仕事業、種々の社會事業への参加、家庭及び公衆衛生の改



善運動への積極的參加、諸種の社會奉仕事業を行ふ等、女子の天分とその使命に目醒めた事業を立憲的に協定してこれを實施せしむることとする。この女子の訓練に就いて注意すべきは、出來得る限り日常普通の生活事項の改善問題の解決に就いて、極めて平易通俗的に學理を實際的具體化せしめる。

三、祖國愛を基調として郷土興隆發展に努力せしめ、以つて公民的知徳の向上を圖ること。

これが實際的施設の主要なるものを舉げて方法上の標準を説述することとする。

1、敬神崇祖の施設——郷土に設けられたる神饌田に奉仕せしめ、又はその初穂を伊勢大廟、明治神宮へ獻穀し、又共同實習地の収益を貯蓄して兩神宮、御陵等に參拜するが如き、郷土偉人及び功勞者の記念碑を建立し、又はその墓參をなし、又はその他神社、佛閣への參拜並に奉仕作業をなし、無縁佛の慰靈祭を行ひて、郷土の建設に對し嘗て努力せし人々を敬ふ等敬神崇祖に關する公民的情操の陶冶を施すのである。

2、經濟的施設——現今に於ける農村の疲弊困憊は實に極度に達して居るのであるから、愛郷心に燃ゆるの士は何人も先づこの經濟的難局を打開せんことを力むるであらう。而してこれが對策としては、先づ勤儉節約、生活改善、時間の勵行等をなし、以つて個人經濟の充實を計り、以つて擔稅力を培養して農村財政の充實に資し、又一方産業組合、頼母子講の振興を圖るべきである。青年をしてこれ等經濟充實運動に参加せしむることは郷土愛護の精神を培養し、延いて團體的精神を陶冶し得るものである。

3、奉仕的施設——社會奉仕の精神を培養することは公民教育上極めて重要なものである。而して其の實際的施設としては道路の修理、標木追分、里程標等街燈等の設備をなし、又は繩取デーの實施、用悪水路浚渫、飲用水源の掃除、其他一般の清潔法、消防、夜警等の如きである。又女子はその手藝、裁縫の成績品を以つてバザーを開催するが如き即ちこれである。

4、村民的施設——青年は、村民の福利を増進し延いて郷土の發展に資せしめんが爲めに、各種の講習講話會、傳習會の開催、風俗刷新運動の勵行、郷土的記念日の設